

# 次期京都市生活安全基本計画策定のためのアンケート調査

## 報 告 書

平成22年4月

京 都 市



## はじめに



京都市では、生活安全基本計画（計画期間は平成22年度まで）に基づき、「だれもが安心してくらせるまち」の実現を目指して、犯罪及び事故を未然に防止するための取組（生活安全の取組）を推進しています。

平成23年度からとなる次期計画の策定に当たり、できる限り早い段階から市民の皆様のご意見やお考えなどを幅広くお伺いし、計画に反映するために、アンケート調査を実施致しました。

調査は、外国籍市民を含む20歳以上の市民3,000人の皆様にご協力をお願いし、1,489通に及ぶ回答をお寄せいただきました。

調査の内容は、日々の暮らしの中で、安心して安全であるかどうかを判断する際に重視することや、犯罪や迷惑行為、事故に関して、日頃不安に思うこと、安心・安全を実現するために必要なことなど、多岐にわたるものです。

今後、この調査で得られた結果を次期生活安全基本計画の策定に反映し、今後の施策展開に活かしていくことはもとより、市民の皆様の多様な活動にも活用されることを願うものです。

最後になりましたが、アンケート調査にご回答いただきました市民の皆様をはじめ、ご協力いただきました皆様に対しまして、心から御礼申し上げます。

平成22年4月

京都市文化市民局市民生活部

## 目次

調査の結果（各設問の単純集計）	3
調査の概要	5
1 調査目的	
2 調査概要	
3 調査内容	
4 回答者の属性	
調査の結果	
1 日々の暮らしの中の安心・安全	7
問1 安心安全の実感	
問2 安心安全の判断基準	
2 犯罪や迷惑行為	11
問3 犯罪にあう可能性	
問4 犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由	
問5 犯罪や迷惑行為，事故に関する不安	
問6 不安を感じる場所	
問7 日頃心がけていること，取り組んでいること	
3 事故	21
問8 交通事故にあう可能性	
問9 特に不安を感じる交通事故	
問10 日頃心がけていること，取り組んでいること	
4 犯罪・事故の被害者支援	27
問11 身近な被害者の存在	
問12 必要な被害者支援策	
5 地域による防犯・事故防止	29
問13 近所付き合い	
問14 緊急時における近所との協力	
問15 大切だと思う地域活動	
問16 防犯・事故防止面での協力の必要性	
問17 大切だと思う地域活動への参加希望	
問18 大切だと思う地域活動への参加可能な頻度	
6 地域活動全般	37
問19 地域で今後取組を特に強化すべき分野	
問20 地域活動の強化のための方策	
7 安心・安全を実現するための総合的な取組	41
問21 一層の安心・安全を実現するための方策	
問22 市に特に取り組んでほしいと思う方策	
8 自由記述	45
問23 日常生活における安心・安全	
資料 アンケート調査票	52

## 調査の結果（各設問の単純集計）

### 1 日々の暮らしの中の安心・安全

- 「京都の暮らしが安心で安全」と思う市民は 65% <問 1>
- 安心で安全かどうかを判断する際に特に重視する点は、「犯罪や迷惑行為、事故への対策」(71%), 「健康や福祉に関すること」(63%) が上位 <問 2>

### 2 犯罪や迷惑行為

- 「犯罪にあう可能性」が高くなったと感じる市民は、約半数 <問 3>
- 高くなったと感じる理由は、「全国的に凶悪な事件が多発しているから」(67%), 「人々の規範意識やモラルが低下したから」(64%) が 60%以上 <問 4>
- 特に不安を感じるのは、「空き巣、ひったくりなどの犯罪」(50%), 「暴行、傷害などの生命・身体にかかわる凶悪犯罪」(48%), 「交通事故」(41%) が上位 3 位 <問 5>
- 不安を感じる場所は、「路上」(75%) が 1 位 <問 6>
- 日頃心がけていること、取り組んでいることは、「戸締り・鍵かけを必ずしている」(89%), 「危ない場所（暗い夜道など）には近づかないようにしている」(55%), 「来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けないようにしている」(44%) が上位 3 位 <問 7>

### 3 事故

- 交通事故にあう可能性は「変わらない」が 45%, 「以前より多くなった」が 41% <問 8>
- 特に不安を感じる交通事故は、「自転車の信号無視など無謀な運転が原因の事故」と「ながら運転（化粧、食事、電話等）が原因の事故」が 50%以上で高い <問 9>
- 日頃心がけていること、取り組んでいることは、「道路を横断するときは左右を確認する」(74%), 「スピードの出しすぎに注意する」(57%), 「ドライバーにはお酒を勧めない（出さない）」(53%) が 50%以上で高い <問 10>

### 4 犯罪・事故の被害者支援

- 周囲に犯罪や事故の被害者が「いる」人は 42% <問 11>
- 特に必要な被害者支援は「親族や友人・知人からの精神的な面での支援」(53%), 「事件・事故に関する警察からの情報提供」(37%), 「国・自治体からの支援」(28%) が上位 <問 12>

## 5 地域による防犯・事故防止

- 近所とは、85%の人が挨拶以上の付き合い <問13>
- 緊急時に近所の人と「協力し合えると思う」も62% <問14>
- 地域の防犯や事故防止活動で大切だと思うのは、「登下校時のパトロール実施や子ども見守り活動の充実」(50%)、「夜間パトロールの実施」(49%)、「学校での自転車利用マナーに関する啓発の実施」(44%)が上位 <問15>
- 地域の人々が防犯・事故防止面で協力する必要性を「感じる」市民は、8割以上 <問16>
- 防犯・事故防止面での地域活動に「参加している」人は13%、今後の参加に肯定的な人も56% <問17>
- 参加可能な頻度は「月に1~2回程度」が44%、「年に1~2回程度」が42%、「休日だけ」が11% <問18>

## 6 地域活動全般

- 取組を特に強化すべきと思う地域活動は、「防犯、迷惑行為の追放」が1位(57%) <問19>
- 地域活動を強化する方法は、「地域活動に積極的に参加する人を増やす」が1位(57%) <問20>

## 7 安心・安全を実現するための総合的な取組

- 一層の安心・安全を実現するための方策は、「一人一人の市民が、日頃から防犯や事故防止に対する関心を持つ」(62%)が1位。次いで、「何かあれば、いつでも身近に相談できたり、情報を入手できる、わかりやすい行政の窓口」(61%)が2位。 <問21>
- 京都市に特に取り組んでほしい事項は、「公園の植栽の剪定、照明灯増設や公衆トイレの非常用ブザー、街路灯の設置を進めるなど、公共空間や道路について犯罪や事故が発生しにくい環境づくりを推進する」(48%)が1位 <問22>

## 調査の概要

### 1 調査目的

次期「生活安全基本計画」(防犯及び事故防止)策定のための基礎資料として、日々の暮らしの中で、安心して安全であるかどうかの実感や、地域による防犯・事故防止への考え方など、市民意識や市民ニーズを探るために実施したものである。

### 2 調査概要

- (1) 調査対象 20歳以上の京都市民3,000人(うち外国籍市民96人)  
※ 平成21年11月1日現在の住民基本台帳登録者及び外国人登録者から無作為抽出
- (2) 調査方法 調査票の配布及び回収は郵送によった。
- (3) 調査期間 平成21年11月19日(木)～12月8日(火)
- (4) 回収状況 有効回収数1,489(有効回収率49.6%)

### 3 調査内容

- (1) 以前に実施された本市におけるアンケート調査との時系列比較や、国が実施した全国調査との比較も行えるよう、調査項目を設計した。

#### ◆ 比較対象となる各種調査

	調査名	実施主体	実施時期	備考
過去調査	平成16年度第1回市政総合アンケートテーマ「日々の暮らしの安心・安全」	京都市	平成16年6月	有効回収数1,455人(率48.5%) (調査法 郵送による配布・回収)
全国調査	治安に関する世論調査 (以下「全国調査1」という)	内閣府	平成16年7月	有効回収数2,097人(率69.9%) (調査法 調査員による個別面接聴取)
	治安に関する世論調査 (以下「全国調査2」という)	内閣府	平成18年12月	有効回収数1,795人(率59.8%) (調査法 調査員による個別面接聴取)

- (2) 設問項目は次のとおりである。

#### ◆ 設問項目

分野	設問内容	過去調査	全国調査
日々の暮らしの中の安心・安全	問1 安心安全の実感	○	
	問2 安心安全の判断基準	○	
犯罪や迷惑行為	問3 犯罪にあう可能性		全国調査1
	問4 犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由		全国調査2
	問5 犯罪や迷惑行為、事故に関する不安	○	
	問6 不安を感じる場所		全国調査2
	問7 日頃心がけていること、取り組んでいること		
事故	問8 交通事故にあう可能性		
	問9 特に不安を感じる交通事故		
	問10 日頃心がけていること、取り組んでいること		
犯罪・事故の被害者支援	問11 身近な被害者の存在		
	問12 必要な被害者支援策		
地域による防犯・事故防止	問13 近所付き合い		
	問14 緊急時における近所との協力		
	問15 大切だと思う地域活動		

	問16	防犯・事故防止面での協力の必要性		
	問17	大切だと思う地域活動への参加希望		全国調査1
	問18	大切だと思う地域活動への参加可能な頻度		
地域活動全般	問19	地域で今後取組を特に強化すべき分野		
	問20	地域活動の強化のための方策		
安心・安全を実現するための総合的な取組	問21	一層の安心・安全を実現するための方策	○	
	問22	市に特に取り組んでほしいと思う方策		
	問23	日常生活における安心・安全（自由記述）		

#### 4 回答者の属性

区 分		男女別							
		男	%	女	%	無回答	%	計	%
年齢	20歳代	58	40.0	87	60.0	0	0	145	9.7
	30歳代	85	39.5	130	60.5	0	0	215	14.4
	40歳代	89	38.9	140	61.1	0	0	229	15.4
	50歳代	94	39.7	143	60.3	0	0	237	15.9
	60歳代	143	45.3	172	54.4	1	0.3	316	21.2
	70歳以上	145	43.5	185	55.6	3	0.9	333	22.4
	無回答	0	0.0	0	0.0	14	100.0	14	0.9
	計	614	41.2	857	57.6	18	1.2	1,489	100.0

区 分		人	%
職業	自営業・自由業	215	14.4
	会社員・公務員など(正社員)	369	24.8
	パート, アルバイトなど	232	15.6
	専業主婦・専業主夫	337	22.6
	専業主婦・主夫を除く無職	240	16.1
	学生	42	2.8
	その他	33	2.2
	無回答	21	1.4

家族構成	単身	223	15.0
	夫婦2人	443	29.8
	2世代	659	44.3
	3世代	117	7.9
	その他	27	1.8
	無回答	20	1.3

居住区	北区	127	8.5
	上京区	87	5.8
	左京区	158	10.6
	中京区	117	7.9
	東山区	45	3.0
	山科区	134	9.0
	下京区	71	4.8
	南区	91	6.1
	右京区	192	12.9
	西京区(洛西)	68	4.6
	西京区(洛西以外)	98	6.6
	伏見区(深草)	70	4.7
	伏見区(醍醐)	70	4.7
	伏見区(深草・醍醐以外)	147	9.9
	無回答	14	0.9

居住年数	1年未満	45	3.0
	1年以上～5年未満	171	11.5
	5年以上～10年未満	213	14.3
	10年以上～20年未満	259	17.4
	20年以上	779	52.3
	無回答	22	1.5

## 調査の結果

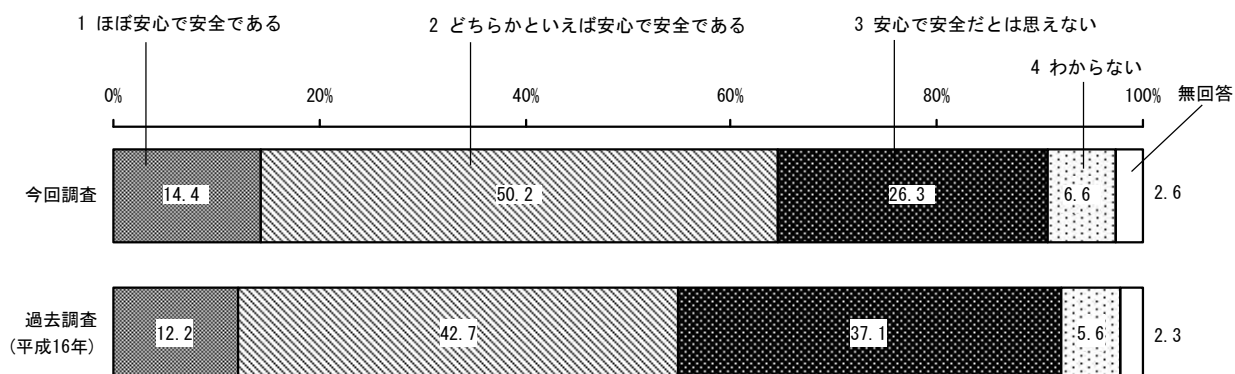
### 1 日々の暮らしの中の安心・安全

- 「京都の暮らしが安心で安全」と思う市民は65%
- 安心で安全かどうかを判断する際に特に重視する点は、「犯罪や迷惑行為、事故への対策」(71%)、「健康や福祉に関すること」(63%)が上位

問1 日々の暮らしを安心・安全で健やかに過ごすことは、多くの人々の願いです。市民の皆さんが安心・安全を感じられる要因として、保健・医療・福祉の充実や、防犯、防災、交通安全、食の安全、環境問題への対策が整っていることなどが考えられます。そうしたことを総合的にみて、京都の暮らしは安心で安全だと思われますか。(〇は1つだけ)

#### [全体傾向]

「どちらかといえば安心で安全である」の回答が50.2%。「ほぼ安心で安全である」14.4%と合わせると64.6%となり、過去調査(54.9%)より10ポイント増加した。一方、「安心で安全だとは思えない」は、過去調査(37.1%)より11ポイント減少した。

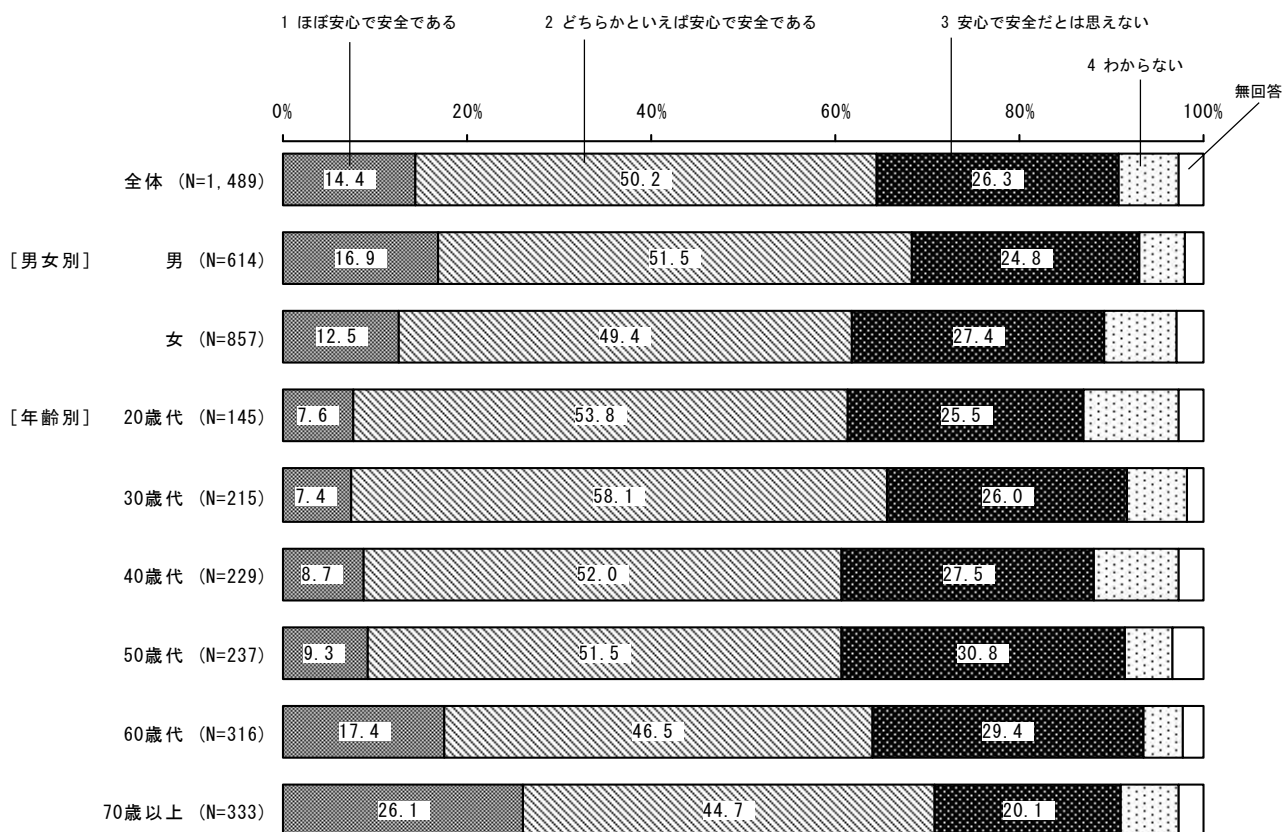




### [男女別・年齢別]

男女別では、「ほぼ安心で安全である」、「どちらかといえば安心で安全である」の合計は、男性 68.4%、女性 61.9%であり、男性が「安心で安全」と感じている割合がやや高い。

年齢別では、「ほぼ安心で安全である」、「どちらかといえば安心で安全である」の合計は、70歳以上が最も多く 70.8%、次いで 30歳代 (65.5%)、60歳代 (63.9%) の順となっている。年齢が上るほど、「ほぼ安心で安全である」の割合が高くなる傾向がある。

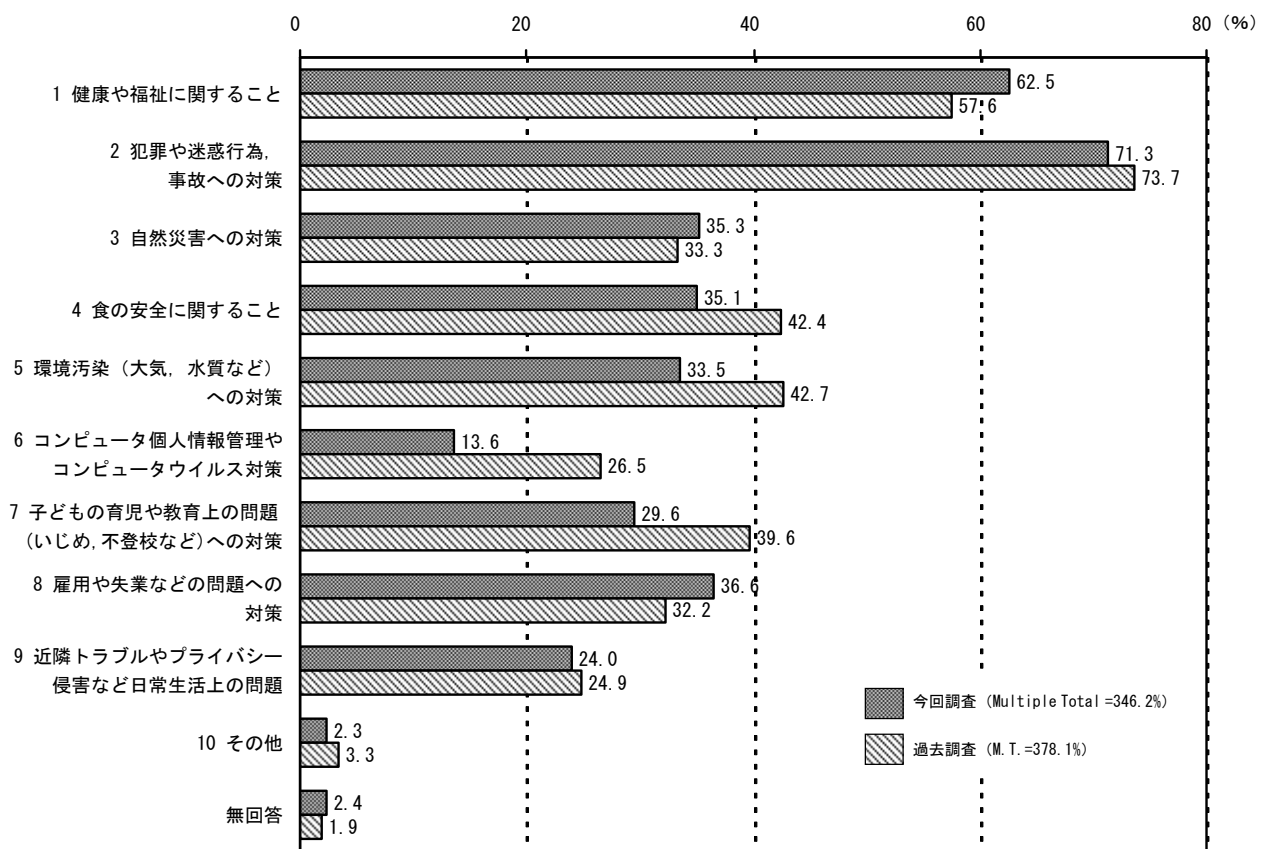


問2 日々の暮らしについて、安心して安全かどうかを判断される際に、特に重視される点は何ですか。(〇はいくつでも)

[全体傾向]

安心して安全かどうかを判断する際に特に重視する点は、「犯罪や迷惑行為、事故への対策」(71.3%)、「健康や福祉に関すること」(62.5%)が多い。

過去調査と比較すると、「健康や福祉に関すること」、「雇用や失業などの問題への対策」がやや増加している。一方、減少は、「食の安全に関すること」、「環境汚染(大気、水質など)への対策」、「コンピュータで扱われる個人情報の管理やコンピュータウイルスなどへの対策」、「子どもの育児や教育上の問題(いじめ、不登校など)への対策」である。



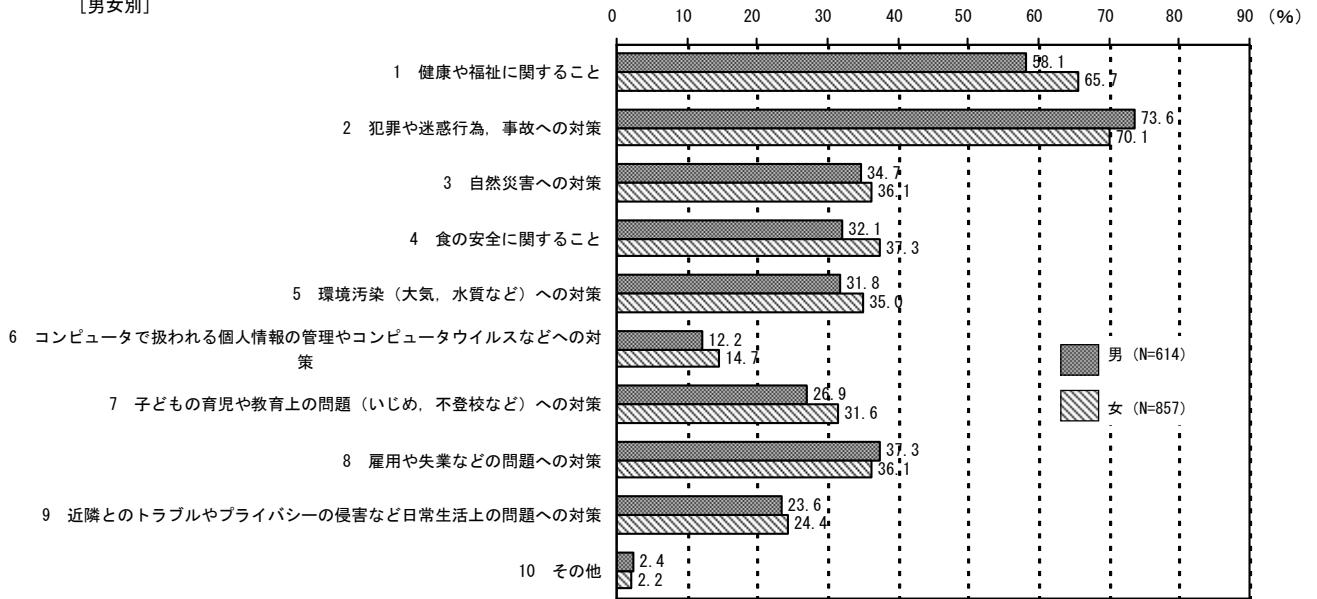
(以下、選択肢は省略して記載することがある。)

[男女別・年齢別]

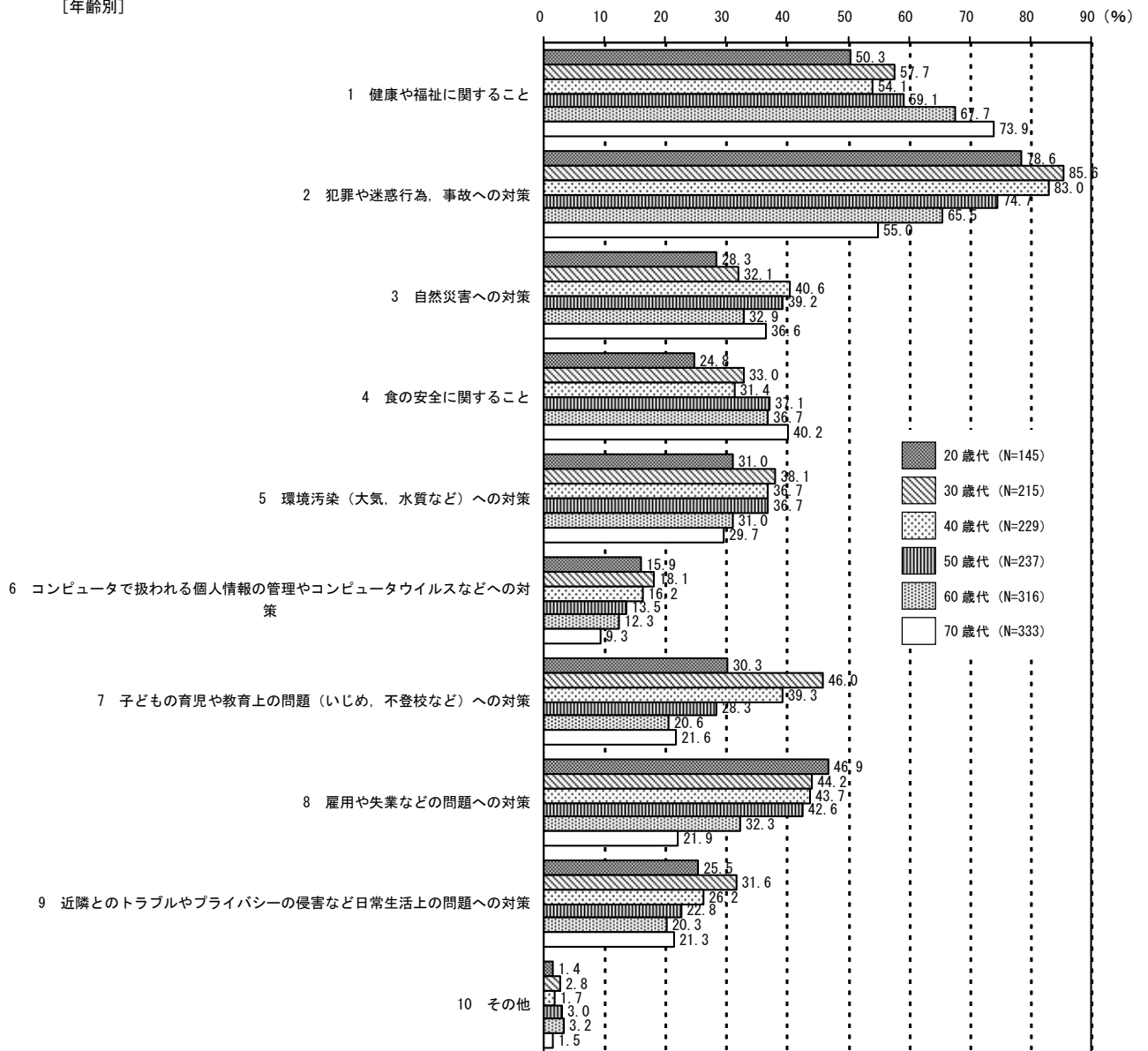
男女別では、女性のほうが「健康や福祉に関すること」、「食の安全に関すること」、「子どもの育児や教育上の問題(いじめ、不登校など)への対策」の割合が高くなっている。

年齢別では、概ね、年齢が上るほど「犯罪や迷惑行為、事故への対策」の割合が低く、「健康や福祉に関すること」の割合が高い。

[男女別]



[年齢別]



(以下、「70歳代」とは、「70歳以上」のことをいう。)

## 2 犯罪や迷惑行為

- 「犯罪にあう可能性」が高くなったと感じる市民は、約半数
- 高くなったと感じる理由は、「全国的に凶悪な事件が多発しているから」(67%)、「人々の規範意識やモラルが低下したから」(64%)が60%以上
- 特に不安を感じるのは、「空き巣、ひったくりなどの犯罪」(50%)、「暴行、傷害などの生命・身体にかかわる凶悪犯罪」(48%)、「交通事故」(41%)が上位3位
- 不安を感じる場所は、「路上」(75%)が1位
- 日頃心がけていること、取り組んでいることは、「戸締り・鍵かけを必ずしている」(89%)、「危ない場所(暗い夜道など)には近づかないようにしている」(55%)、「来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けないようにしている」(44%)が上位3位

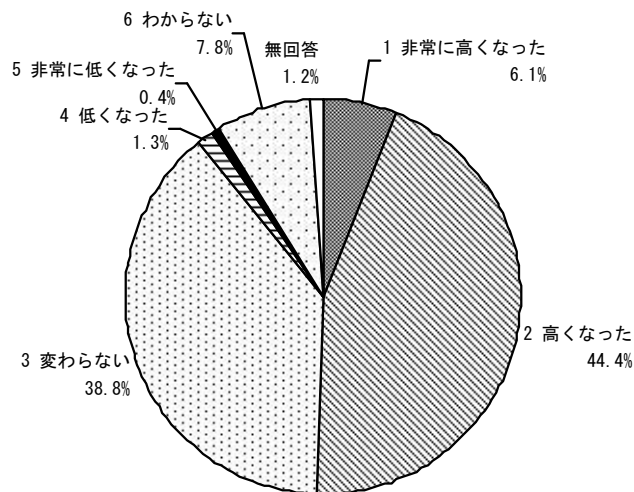
問3 あなたやあなたの家族が犯罪にあう可能性について、どのようにお感じですか。日常の行動範囲内(自宅周辺や、市内の通勤・通学、買物等で行く地域)で当てはまるものをお答えください。(〇は1つだけ)

### [全体傾向]

「非常に高くなった」6.1%、「高くなった」44.4%と、約半数の市民が犯罪にあう可能性が高くなったと感じている一方、「変わらない」も38.8%ある。全国調査1より「高くなった(多くなった)」の回答割合は、低くなっている。

[注] 全国調査1の間「ここ10年間で、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になることは多くなったと思いますか」

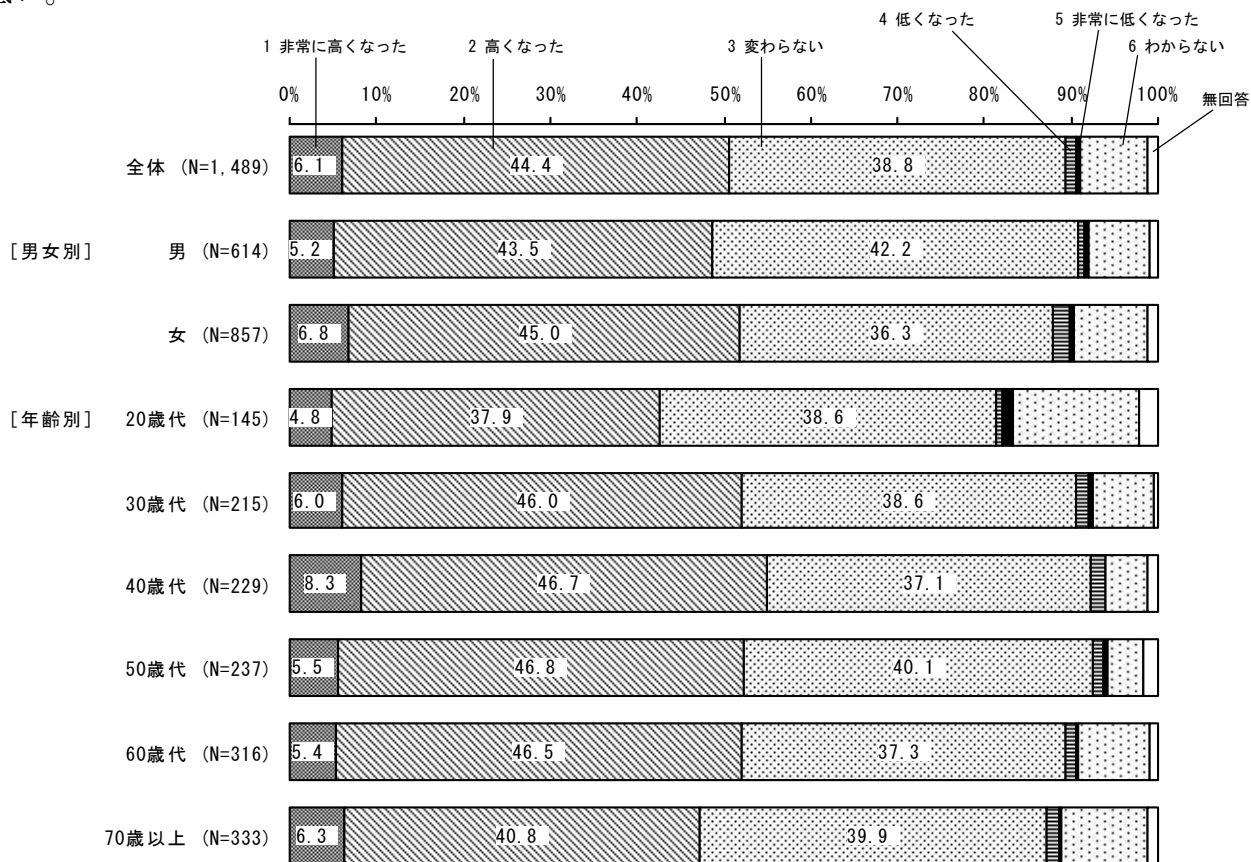
多くなったと思う33.0%、どちらかといえば多くなったと思う47.3%、どちらかといえば少なくなったと思う3.5%、少なくなったと思う1.9%、どちらともいえない12.6%、わからない1.8%



[男女別・年齢別]

男女別では、男性が女性より「変わらない」の割合がやや高い。

年齢別では、40歳代で「高くなった」の計が55.0%と最も高く、20歳代（42.7%）が最も低い。



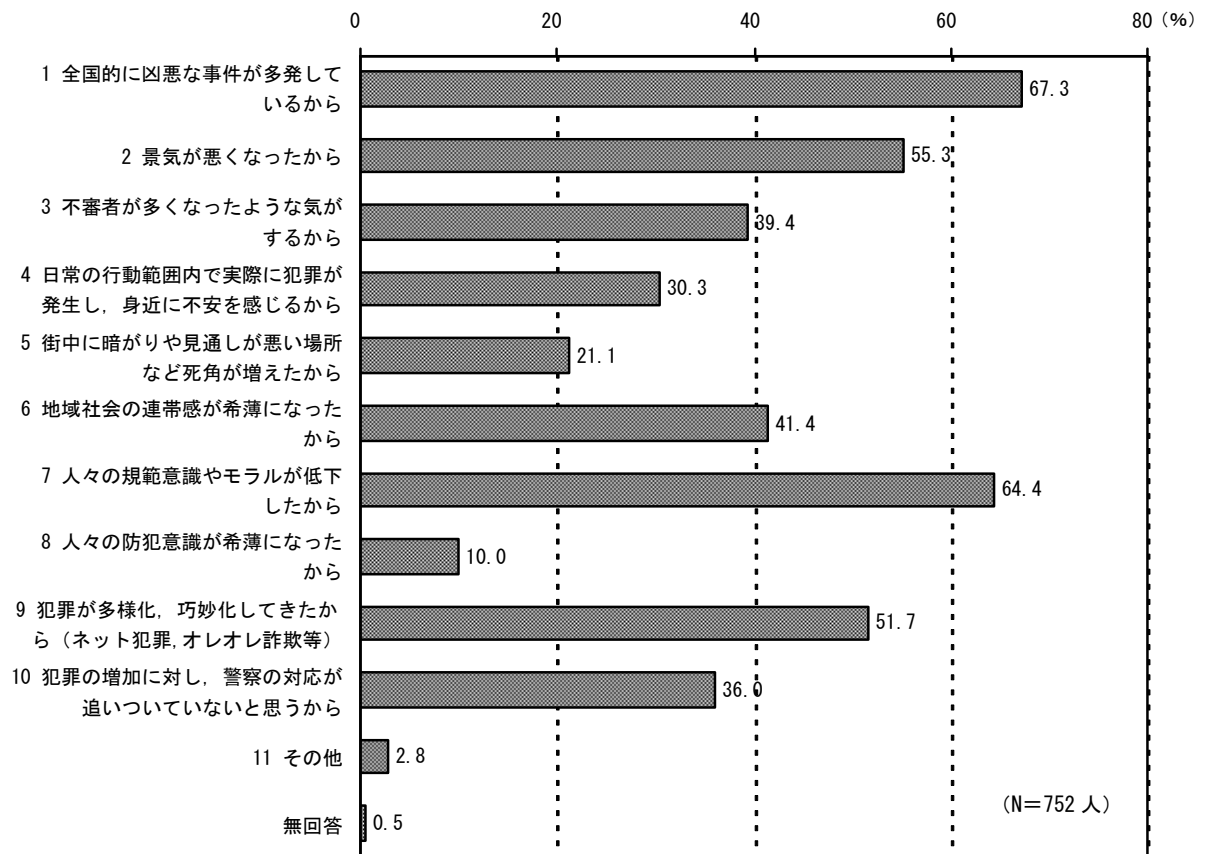
問4 問3で「非常に高くなった」「高くなった」と答えた方へおたずねします。犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由は何ですか。(〇はいくつでも)

[全体傾向]

「全国的に凶悪な事件が多発しているから」が最も高く (67.3%), 次いで「人々の規範意識やモラルが低下したから」(64.4%), 「景気が悪くなったから」(55.3%), 「犯罪が多様化, 巧妙化してきたから (ネット犯罪, オレオレ詐欺等)」(51.7%) が50%以上だった。全国調査2より, 「地域社会の連帯意識が希薄になったから」がやや低く, 「人々の規範意識やモラルが低下したから」が27ポイント高い。

[注] 全国調査2の問「治安が悪くなった原因は何だと思いますか」

来日外国人による犯罪が増えたから 55.1%, 地域社会の連帯意識が希薄となったから 49.0%, 青少年の教育が不十分だから 48.1%, 様々な情報が氾濫し, それが容易に手に入るようになったから 43.8%, 犯罪に対する刑罰が軽いから 39.3%, 国民の規範意識が低下したから 37.2%など



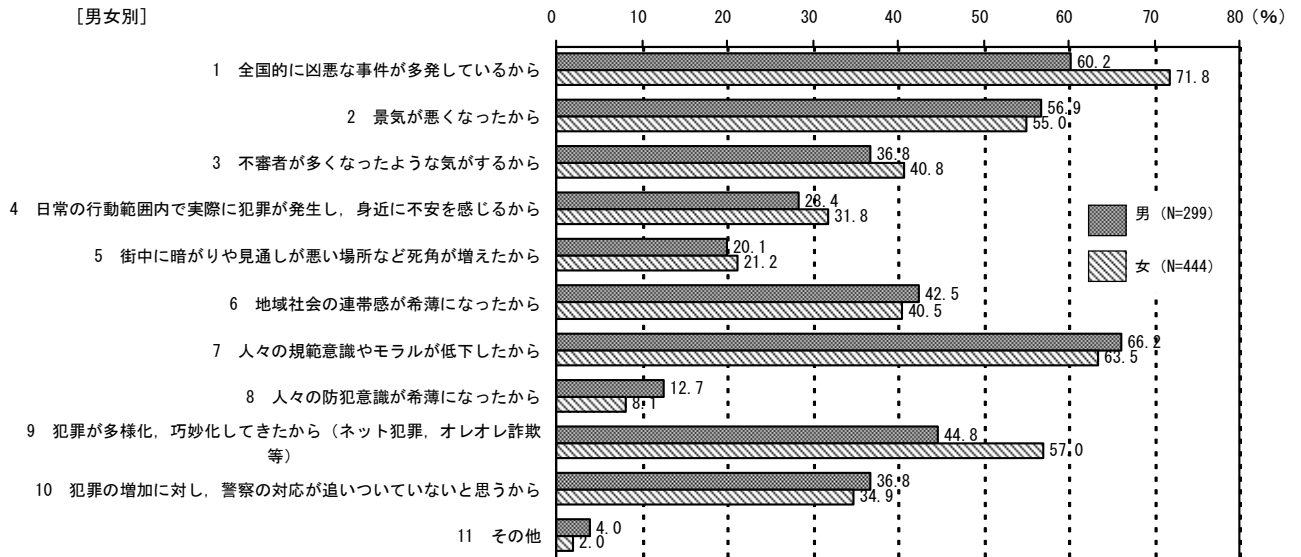
(M. T. =420.2%)

[男女別・年齢別]

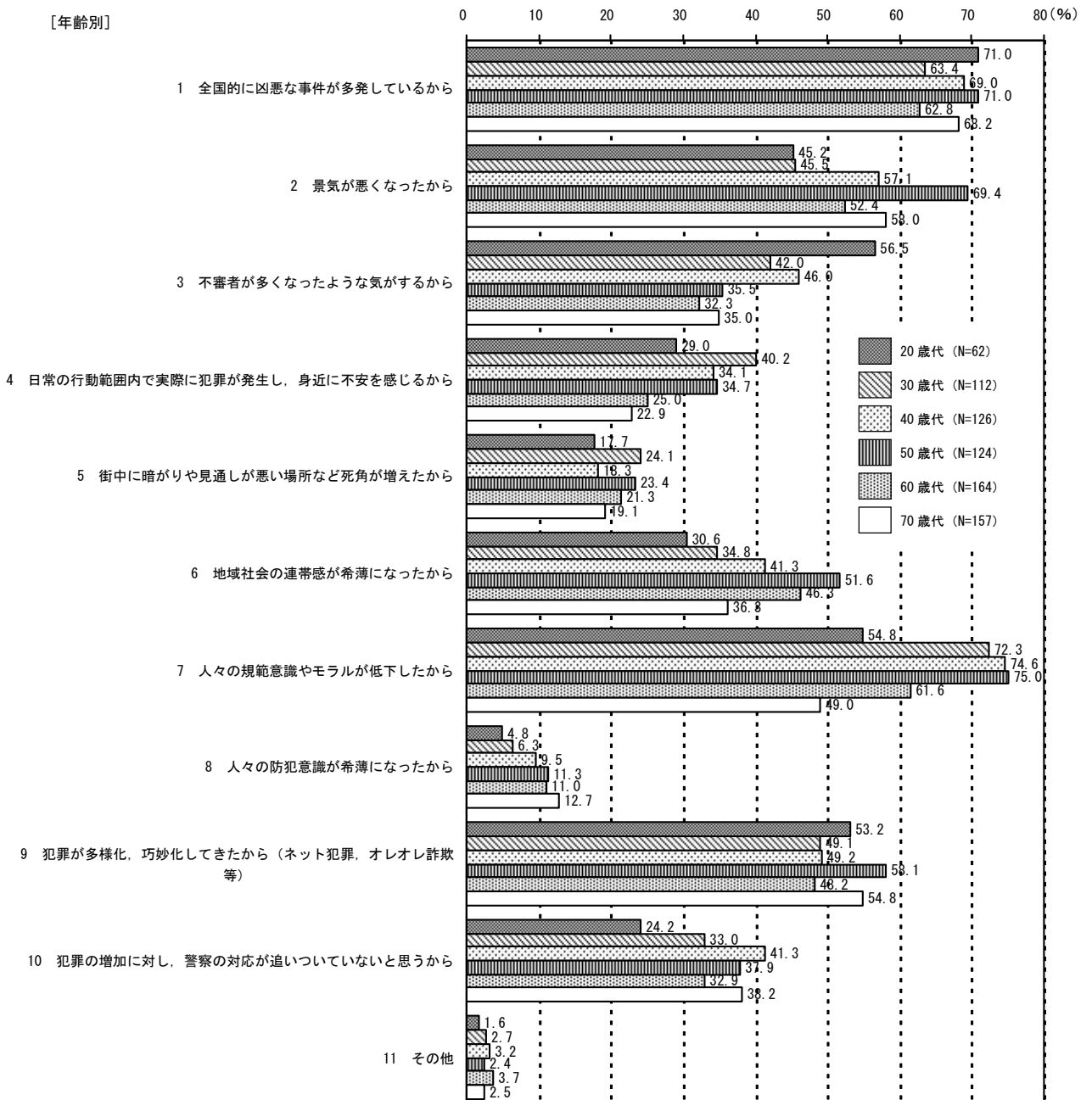
男女別では, 女性が高いのは, 「全国的に凶悪な事件が多発しているから」, 「犯罪が多様化, 巧妙化してきたから (ネット犯罪, オレオレ詐欺等)」である。

年齢別では, 「人々の規範意識やモラルが低下したから」は30~50歳代で70%を超えている。

[男女別]



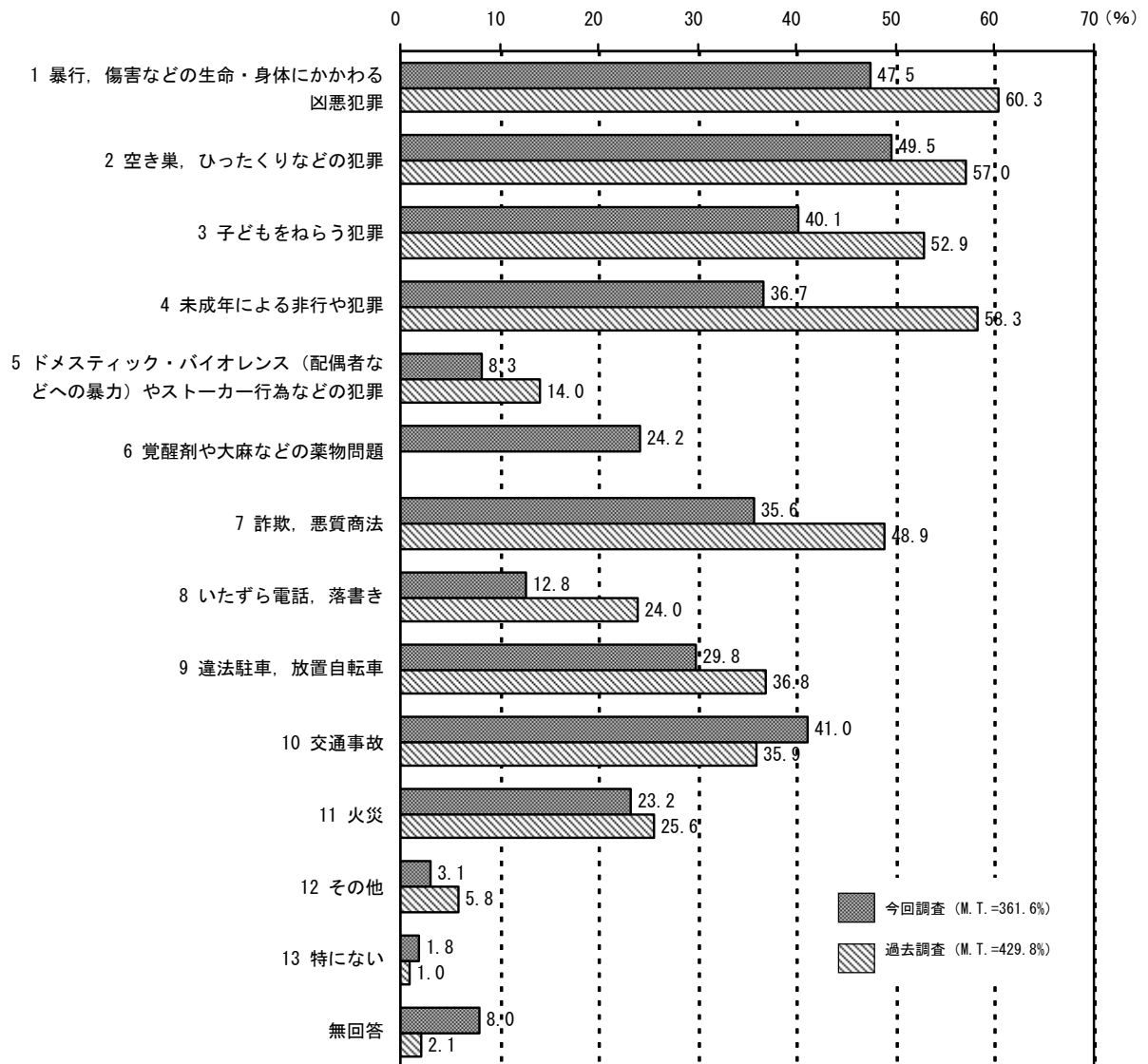
[年齢別]



問5 犯罪や迷惑行為、事故に関して、あなたが日頃、特に不安に思われていることは何ですか。(〇はいくつでも)

[全体傾向]

最も多かった不安は「空き巣、ひったくりなどの犯罪」(49.5%)である。次いで、「暴行、傷害などの生命・身体にかかわる凶悪犯罪」(47.5%)、「交通事故」(41.0%)が続いている。過去調査と比較すると、交通事故(5ポイント増加)以外は減少している。



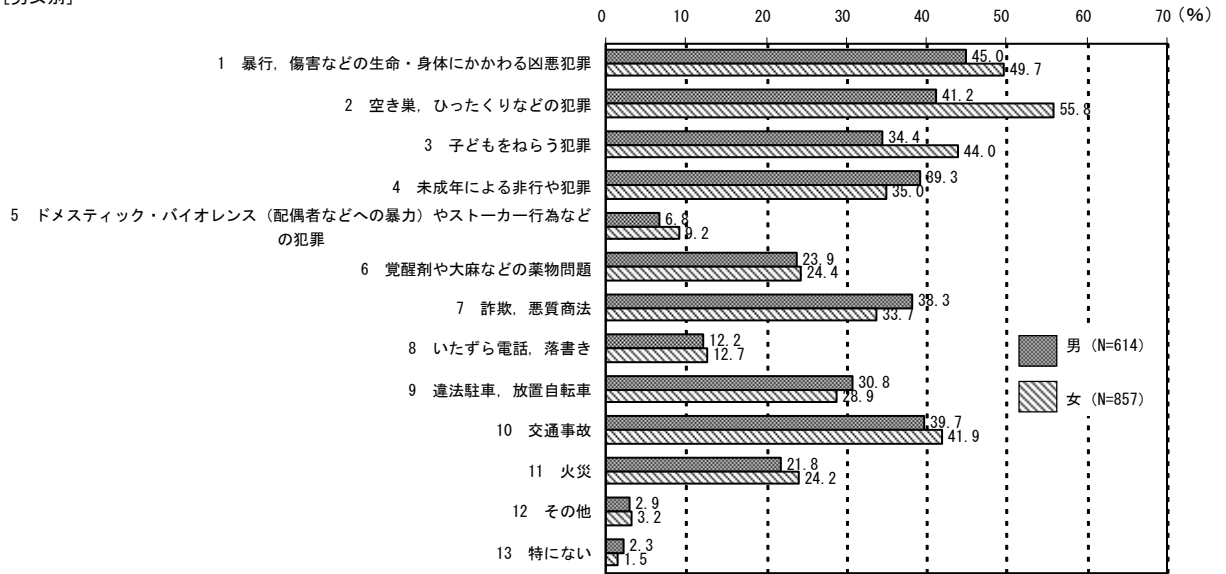
[男女別・年齢別]

男女別では、「空き巣、ひったくりなどの犯罪」と「子どもをねらう犯罪」は女性で高く、「未成年による非行や犯罪」、「詐欺、悪質商法」は男性でやや高くなっている。

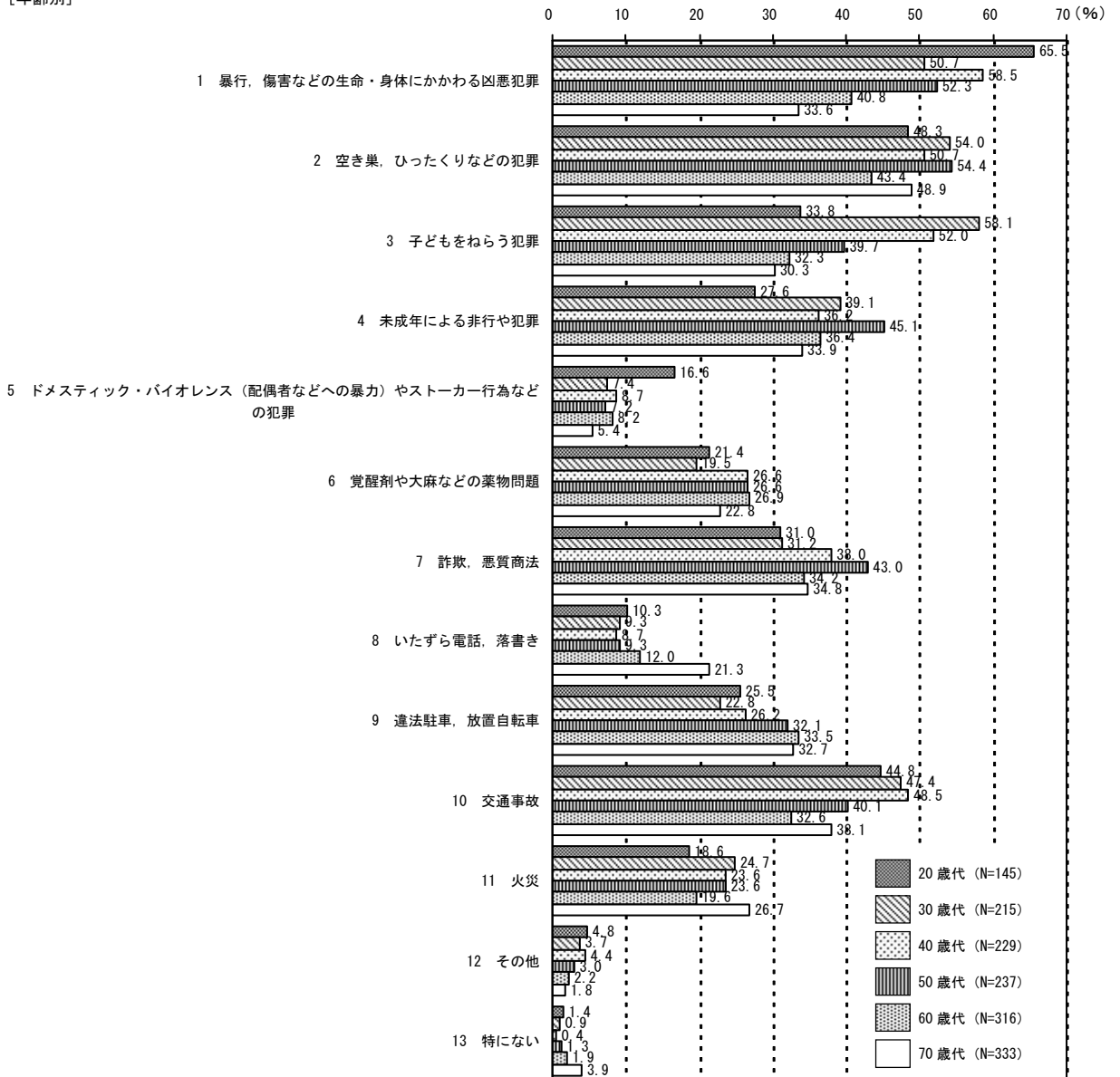
年齢別では、「暴行、傷害などの生命・身体にかかわる凶悪犯罪」は、年齢が上がるほど比率が下る傾向がある。「子どもをねらう犯罪」は30~40歳代で高くなっている。「詐欺、悪質商法」は50歳代で比率が高い。



[男女別]



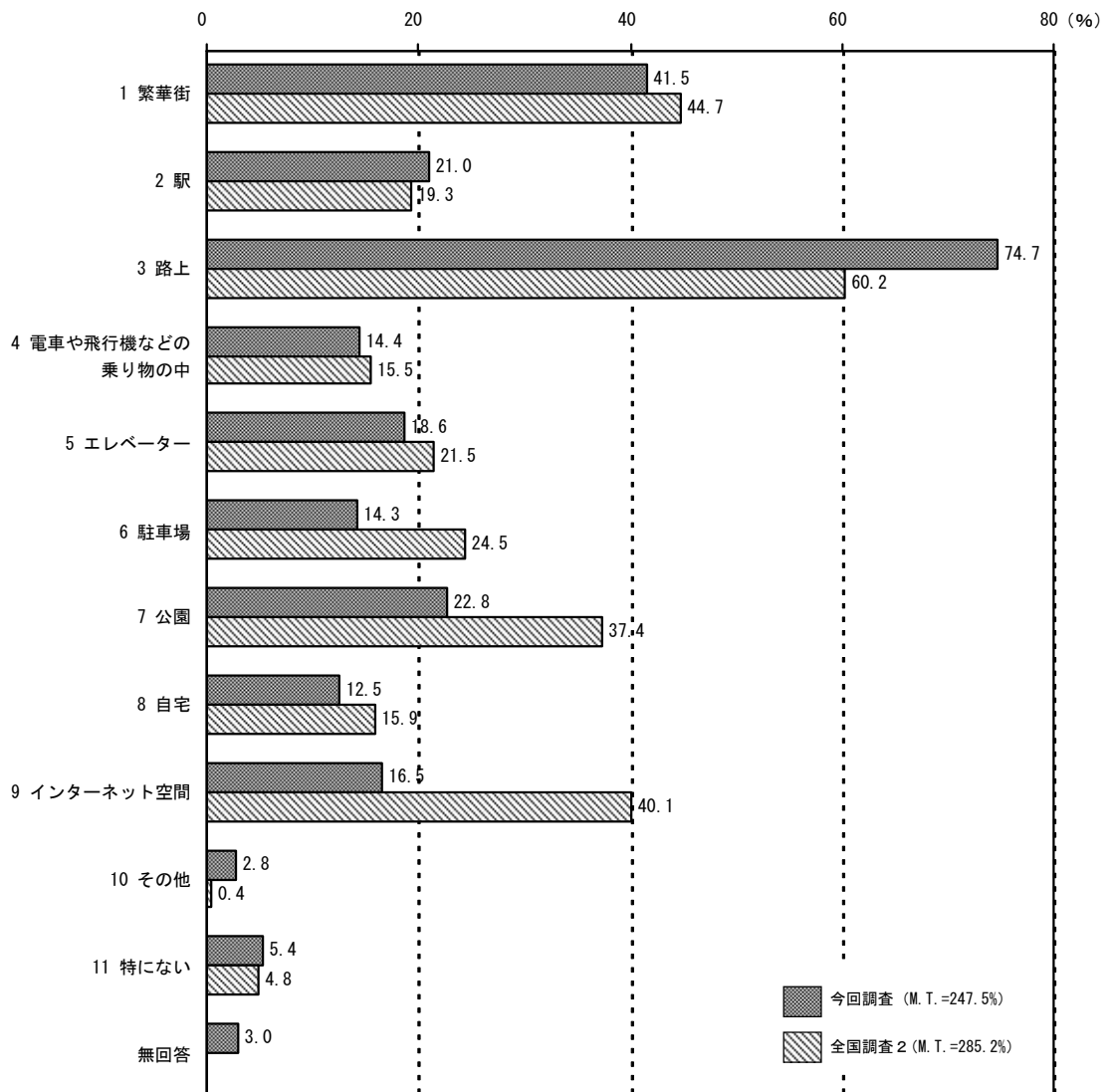
[年齢別]



問6 あなたやあなたの家族が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所はどこですか。(〇はいくつでも)

[全体傾向]

1位は「路上」であり、2位の「繁華街」(41.5%)より30ポイント以上高くなっている。3位は「公園」(22.8%)である。全国調査2と比べ、「路上」が15ポイント高く、「公園」、「インターネット空間」、「駐車場」が10ポイント以上低い。

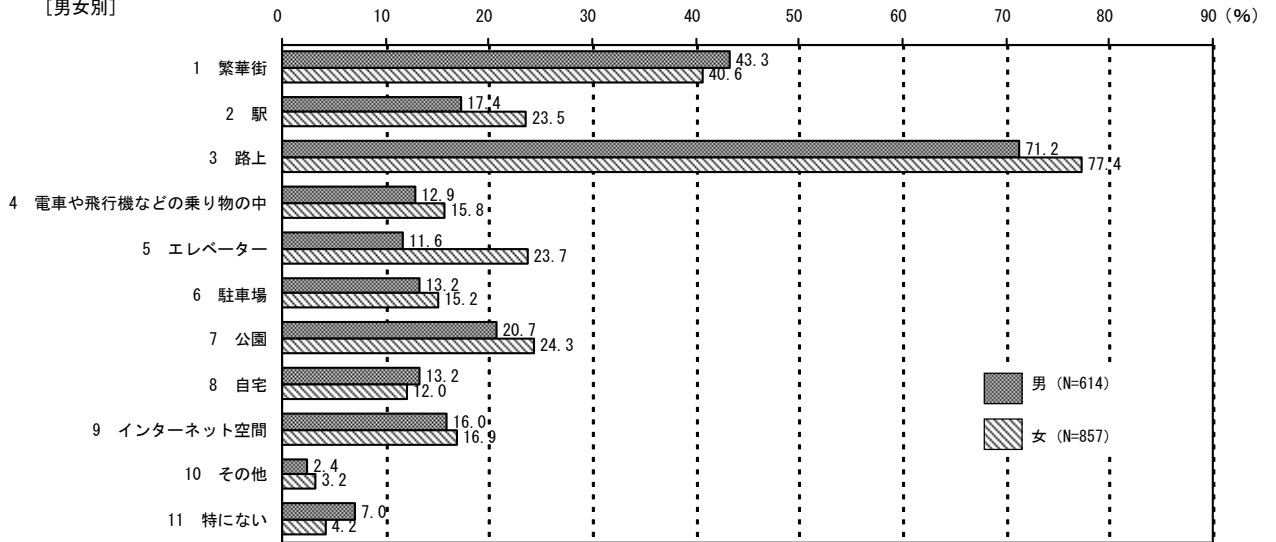


[男女別・年齢別]

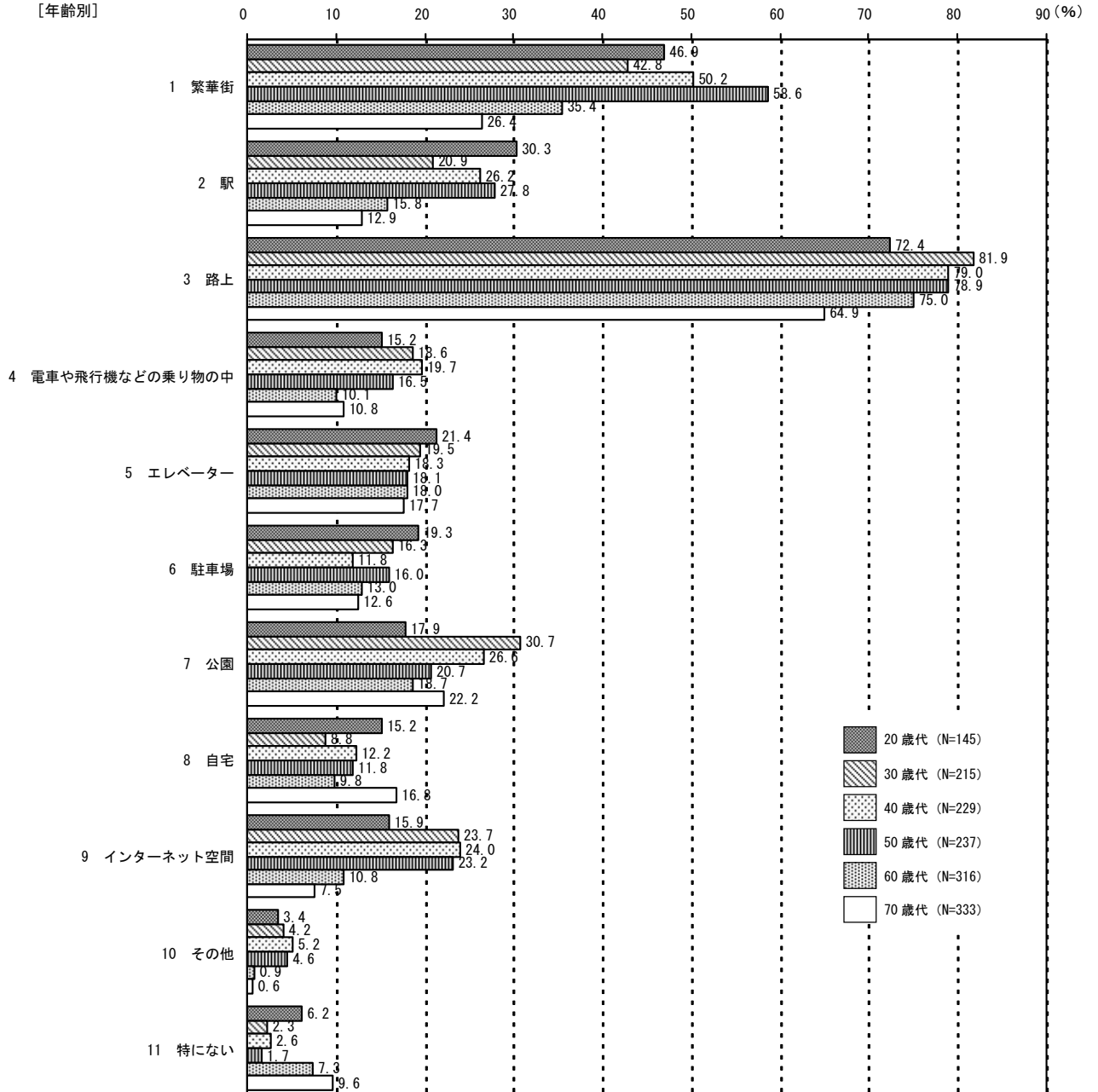
男女別では、女性で「路上」「駅」「エレベーター」が男性より多くなっている。

年齢別では、「路上」が30～50歳代で、「繁華街」が50歳代で、「駅」が20歳代で、それぞれ多くなっている。

[男女別]



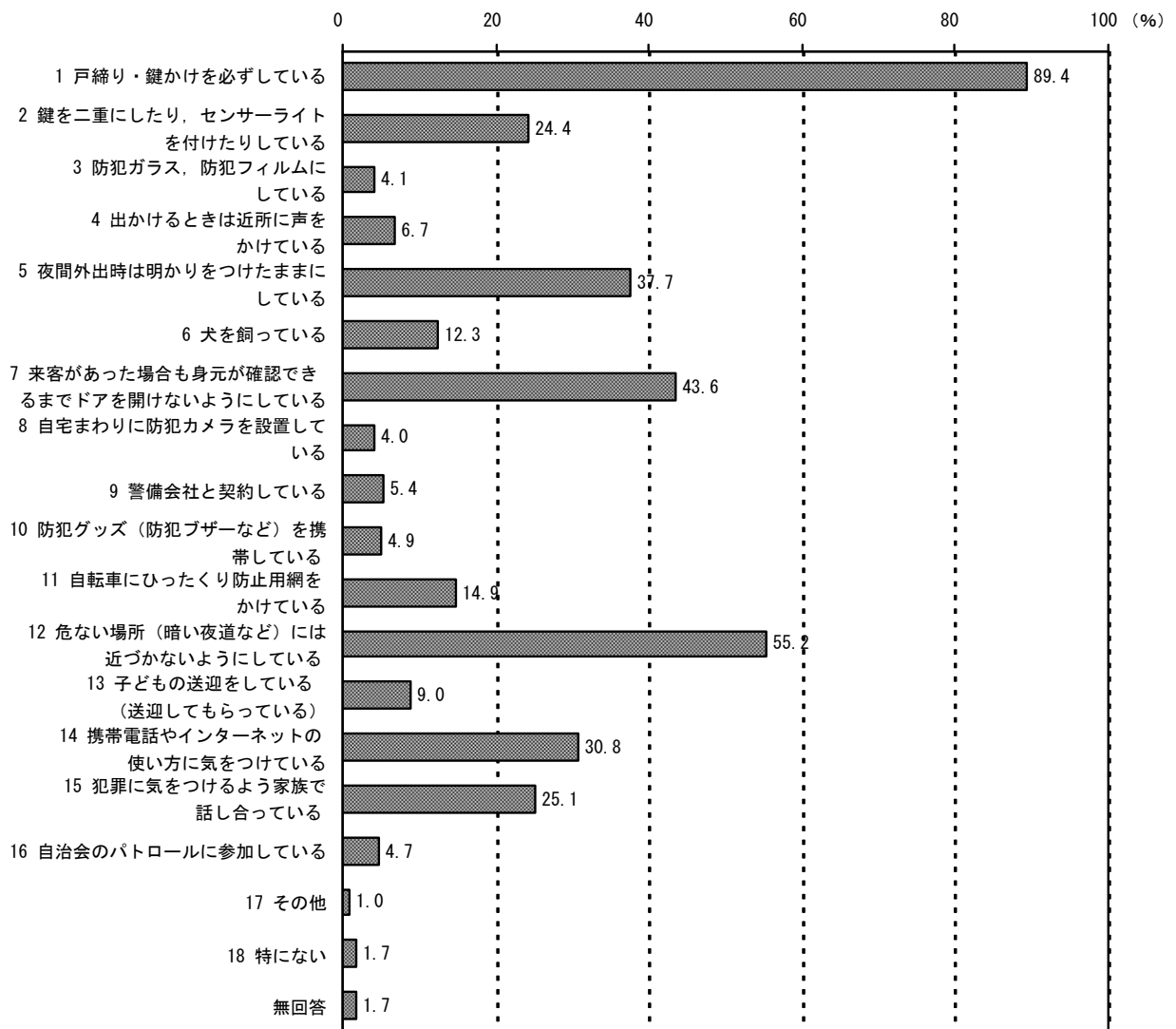
[年齢別]



問7 あなたやあなたの家族が犯罪にあわないために、日頃心がけていること、取り組んでいることは何でしょうか。(〇はいくつでも)

[全体傾向]

1位は「戸締り・鍵かけを必ずしている」(89.4%)、次いで「危ない場所(暗い夜道など)には近づかないようにしている」(55.2%)、「来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けないようにしている」(43.6%)となっている。



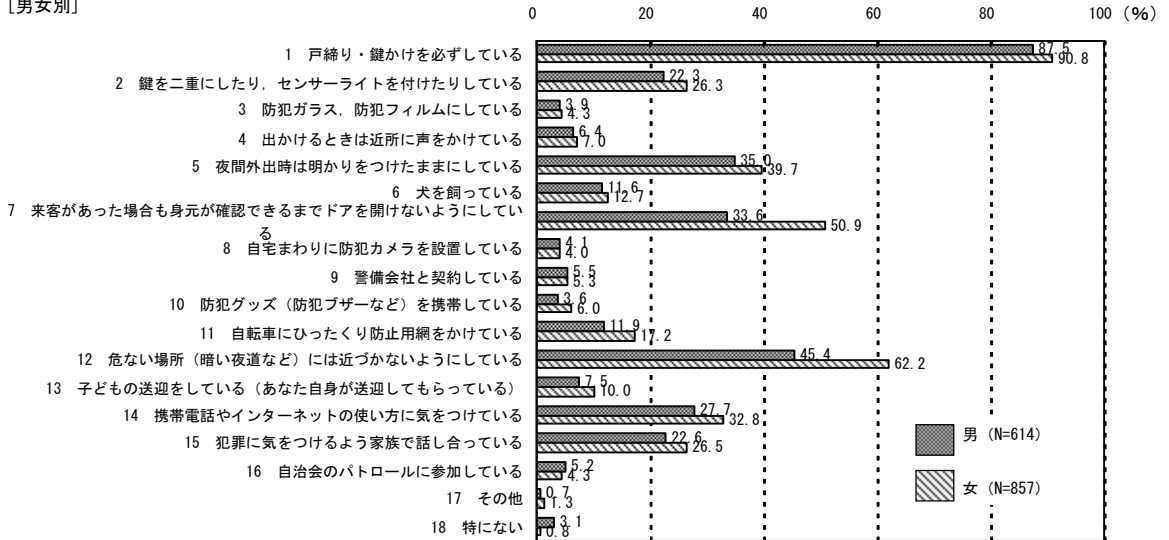
(M. T. =376.6%)

[男女別・年齢別]

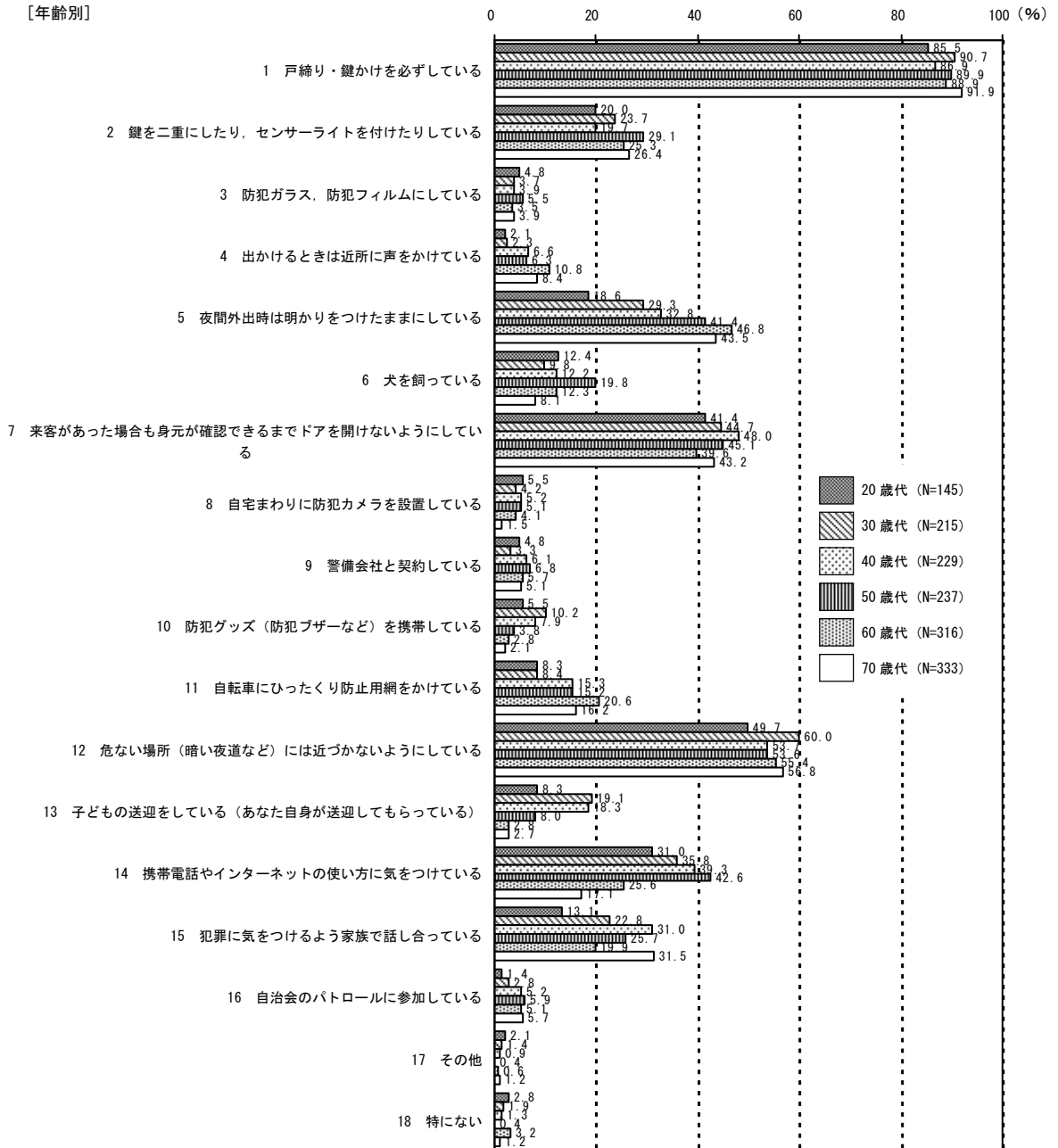
男女別では、女性で「危ない場所(暗い夜道など)には近づかないようにしている」、「来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けないようにしている」、「携帯電話やインターネットの使い方に気をつけている」、「自転車にひたたくり防止用網をかけている」が男性より多くなっている。

年齢別では、年齢層が上るほど、「夜間外出時は明かりをつけたままにしている」の割合が高くなる傾向がある。

[男女別]



[年齢別]



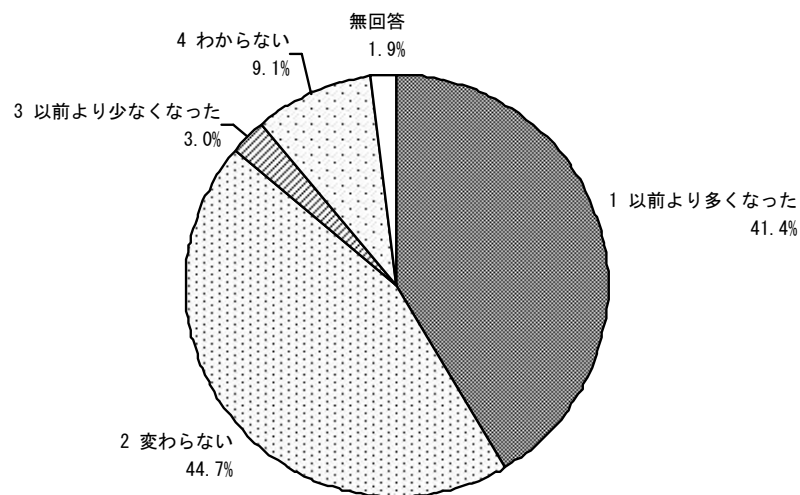
### 3 事故

- 交通事故にあう可能性は「変わらない」が45%、「以前より多くなった」が41%
- 特に不安を感じる交通事故は、「自転車の信号無視など無謀な運転が原因の事故」と「ながら運転（化粧、食事、電話等）が原因の事故」が50%以上で高い
- 日頃心がけていること、取り組んでいることは、「道路を横断するときは左右を確認する」（74%）、「スピードの出しすぎに注意する」（57%）、「ドライバーにはお酒を勧めない（出さない）」（53%）が50%以上で高い

問8 まず、交通事故についておたずねします。あなたやあなたの家族が交通事故にあう可能性について、どのようにお感じですか。（〇は1つだけ）

#### [全体傾向]

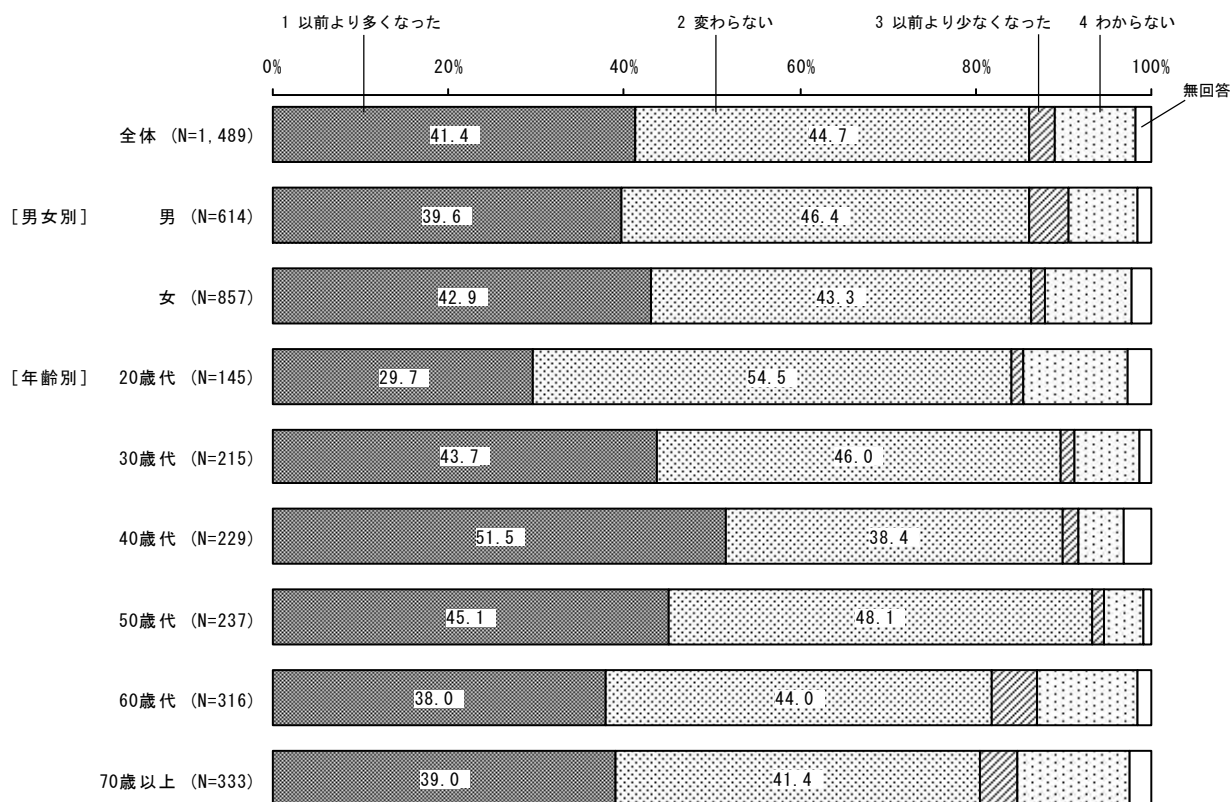
交通事故にあう可能性は、「変わらない」（44.7%）、「以前より多くなった」（41.4%）が高い。



[男女別・年齢別]

男女別では、大きな差異はない。

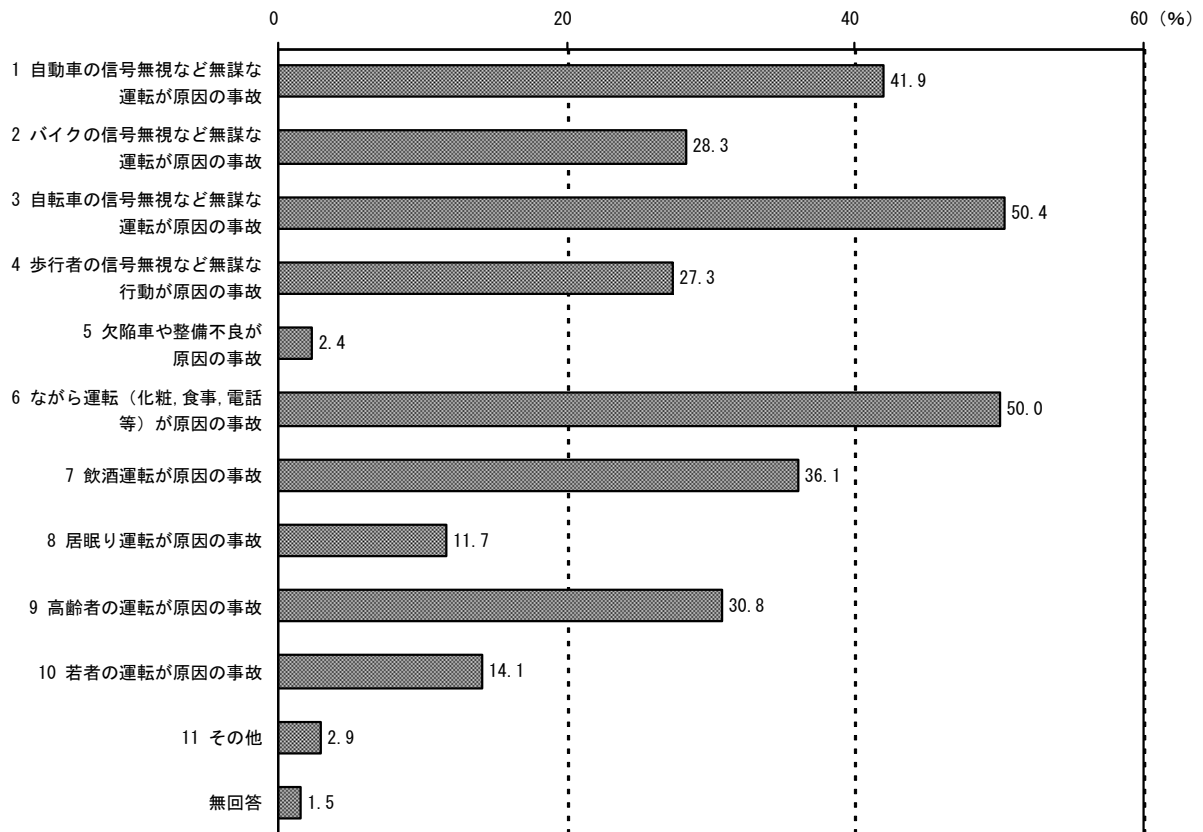
年齢別では、40歳代で「以前より多くなった」が50%を超えている。



問9 あなたが特に不安を感じる交通事故とは、どのようなものでしょうか。(〇は3つまで)

[全体傾向]

「自転車の信号無視など無謀な運転が原因の事故」(50.4%)、「ながら運転(化粧, 食事, 電話等)が原因の事故」(50.0%)が50%以上となった。3位は,「自動車の信号無視など無謀な運転が原因の事故」(41.9%)である。



(M. T. =297.4%)

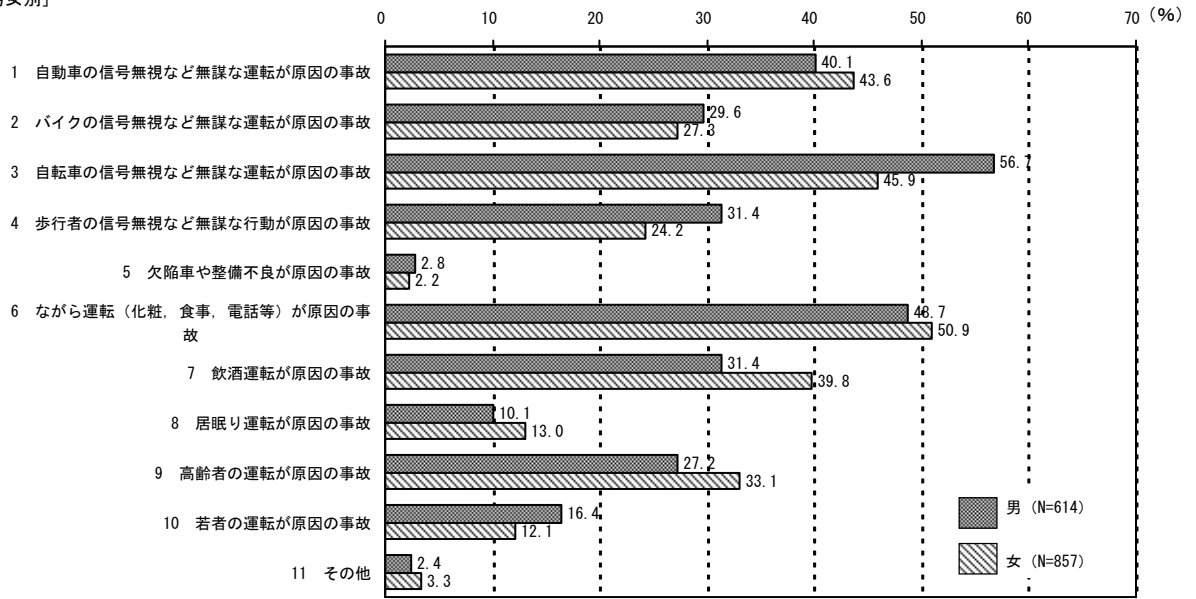
[男女別・年齢別]

男女別では, 男性が女性より「自転車の信号無視など無謀な運転が原因の事故」, 「歩行者の信号無視など無謀な行動が原因の事故」で高い。一方, 女性が男性より「飲酒運転が原因の事故」, 「高齢者の運転が原因の事故」で高くなっている。

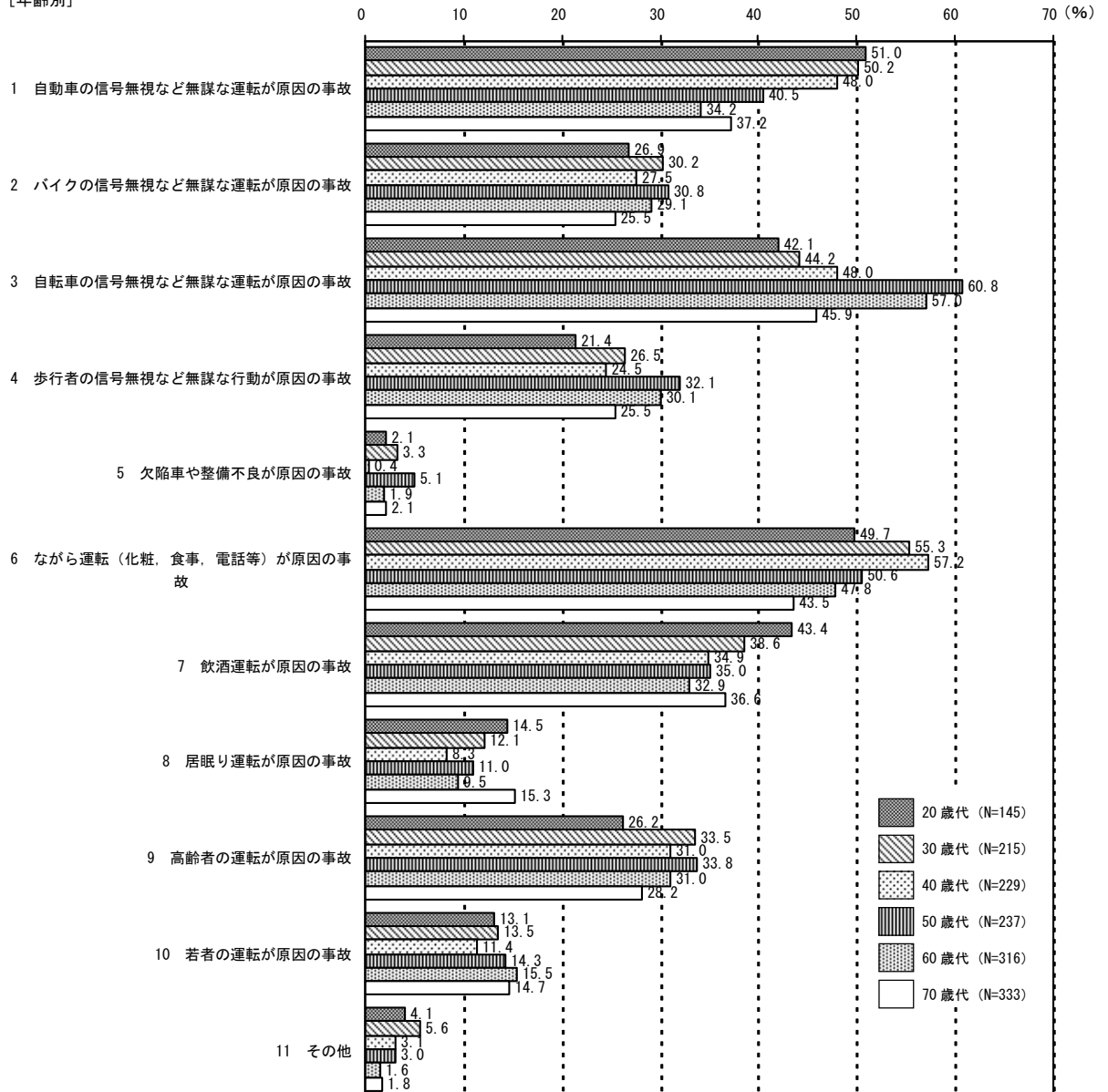
年齢別では, 「自転車の信号無視など無謀な運転が原因の事故」は50歳代で, 「ながら運転(化粧, 食事, 電話等)が原因の事故」は40歳代でそれぞれ高い。「自動車の信号無視など無謀な運転が原因の事故」, 「飲酒運転が原因の事故」は年齢層が下るほど, 高くなる傾向がある。



[男女別]



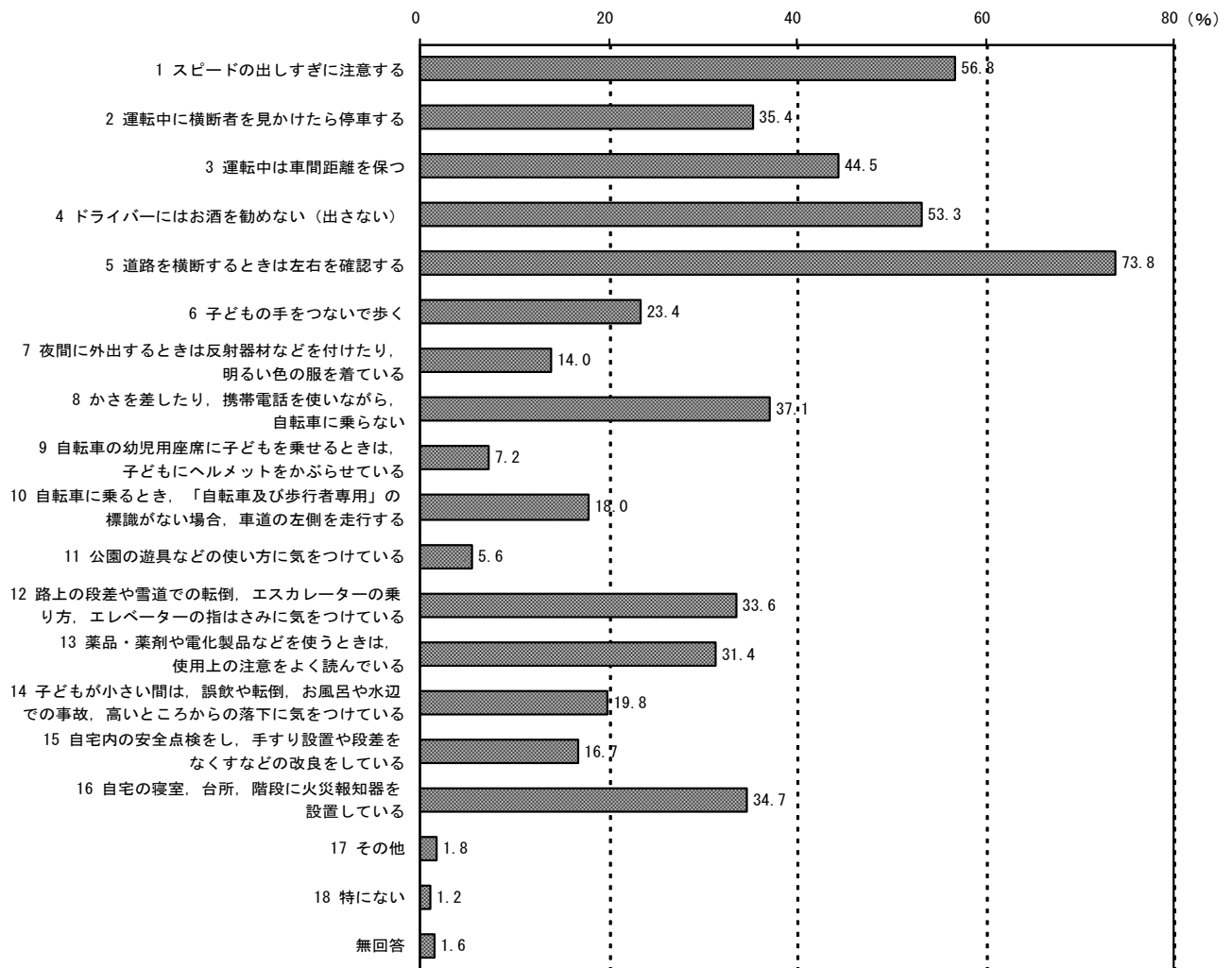
[年齢別]



問 10 日常生活では、交通事故をはじめ、さまざまな事故が起こる恐れがあります。事故にあわないよう、日頃あなたが心がけていること、取り組んでいることは何でしょうか。(〇はいくつでも)

[全体傾向]

1位は「道路を横断するときは左右を確認する」(73.8%)である。次いで、「スピードの出しすぎに注意する」(56.8%),「ドライバーにはお酒を勧めない(出さない)」(53.3%)が50%以上となっている。



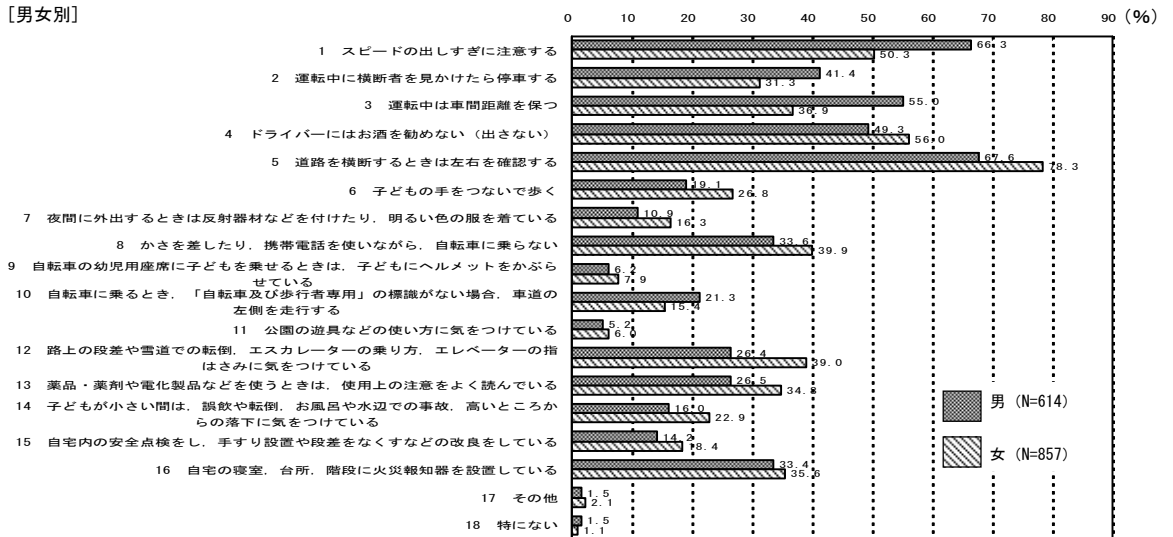
(M. T. =509.9%)

[男女別・年齢別]

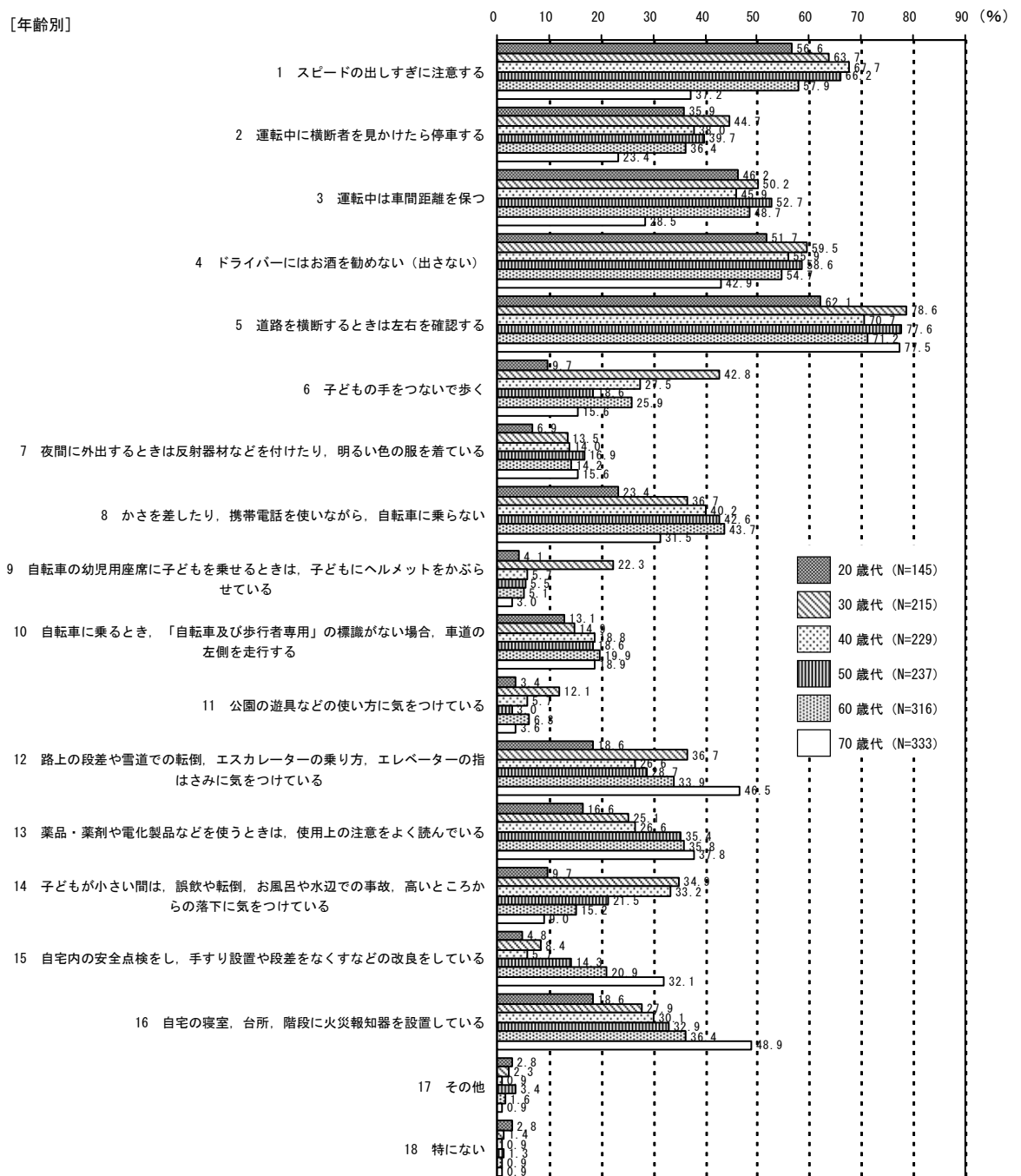
男女別では、男性が女性より「スピードの出しすぎに注意する」、「運転中は車間距離を保つ」、「運転中に横断者を見かけたら停車する」で高くなっている。一方、女性が男性より「道路を横断するときは左右を確認する」、「路上の段差や雪道での転倒、エスカレーターの乗り方、エレベーターの指はさみに気をつけている」で高くなっている。

年齢別では、20歳代で「道路を横断するときは左右を確認する」、「かさを差したり、携帯電話を使いながら、自転車に乗らない」の割合が低い。「自宅の寝室、台所、階段に火災報知器を設置している」は、年齢層が上るほど割合が高くなっている。

[男女別]



[年齢別]



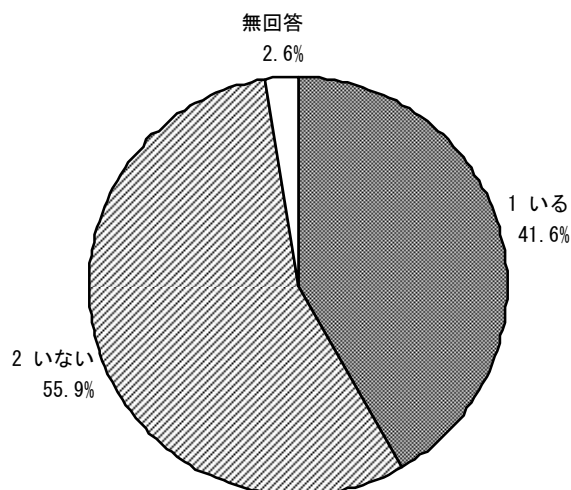
#### 4 犯罪・事故の被害者支援

- 周囲に犯罪や事故の被害者が「いる」人は42%
- 特に必要な被害者支援は「親族や友人・知人からの精神的な面での支援」(53%), 「事件・事故に関する警察からの情報提供」(37%), 「国・自治体からの支援」(28%)が上位

問 11 あなたのまわりで犯罪や事故の被害者となった人はいますか。  
(○は1つだけ)

#### [全体傾向]

周囲に犯罪や事故の被害者が「いる」方は41.6%, 「いない」方は55.9%である。

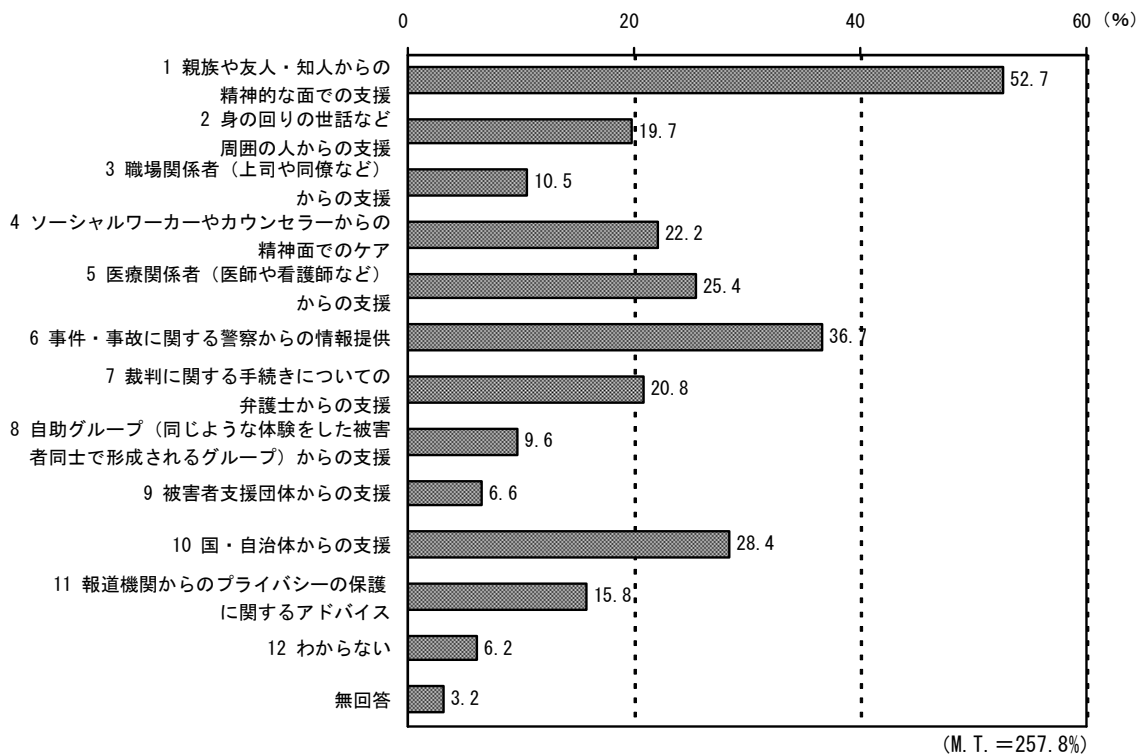


問 12 犯罪・事故の被害者やその家族に対しては、どのような支援が特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

[全体傾向]

最も多かったのは「親族や友人・知人からの精神的な面での支援」(52.7%)であった。2位は「事件・事故に関する警察からの情報提供」(36.7%), 3位は「国・自治体からの支援」(28.4%)である。

問 11 の回答別では、周囲に被害者がいる方は「事件・事故に関する警察からの情報提供」を選択する傾向がある(いる人 42.8%, いない人 32.9%)。また、「国・自治体からの支援」も、「いる」人が選択する割合がやや高い(いる人 31.5%, いない人 26.6%)。



[問 11 の回答別にみた傾向]

(単位: %)

	問 12 被害者支援の内容												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
全体 (N=1,489)	52.7	19.7	10.5	22.2	25.4	36.7	20.8	9.6	6.6	28.4	15.8	6.2	
問 11 周囲に犯罪被害者の有無	1 いる (N=619)	54.4	20.4	13.2	19.7	27.0	42.8	21.5	6.8	5.3	31.5	12.9	4.2
	2 いない (N=832)	52.3	19.4	8.7	24.6	24.6	32.9	20.4	11.7	7.9	26.6	18.6	7.8

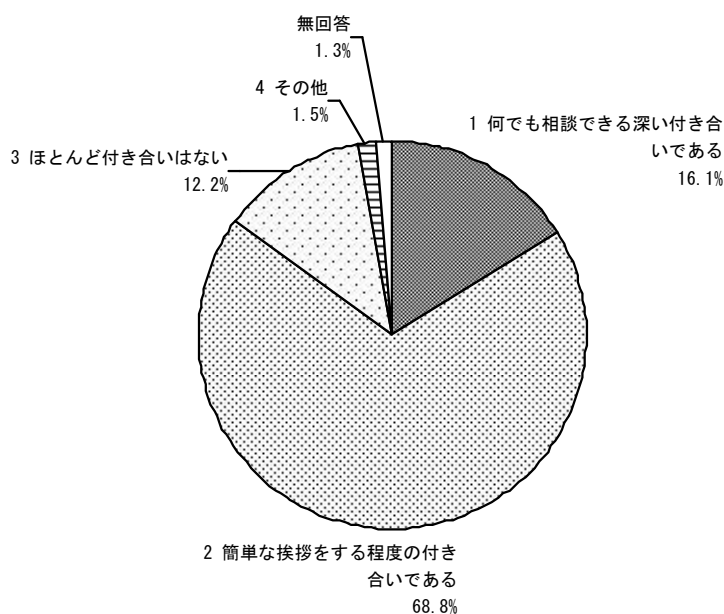
## 5 地域による防犯・事故防止

- 近所とは、85%の人が挨拶以上の付き合い
- 緊急時に近所の人と「協力し合えらと思う」も62%
- 地域の防犯や事故防止活動で大切だと思うのは、「登下校時のパトロール実施や子ども見守り活動の充実」(50%)、「夜間パトロールの実施」(49%)、「学校での自転車利用マナーに関する啓発の実施」(44%)が上位
- 地域の人々が防犯・事故防止面で協力する必要性を「感じる」市民は、8割以上
- 防犯・事故防止面での地域活動に「参加している」人は13%、今後の参加に肯定的な人も56%
- 参加可能な頻度は「月に1~2回程度」が44%、「年に1~2回程度」が42%、「休日だけ」が11%

問 13 あなたは、どの程度近所の方とお付き合いがありますか。(○は1つだけ)

### [全体傾向]

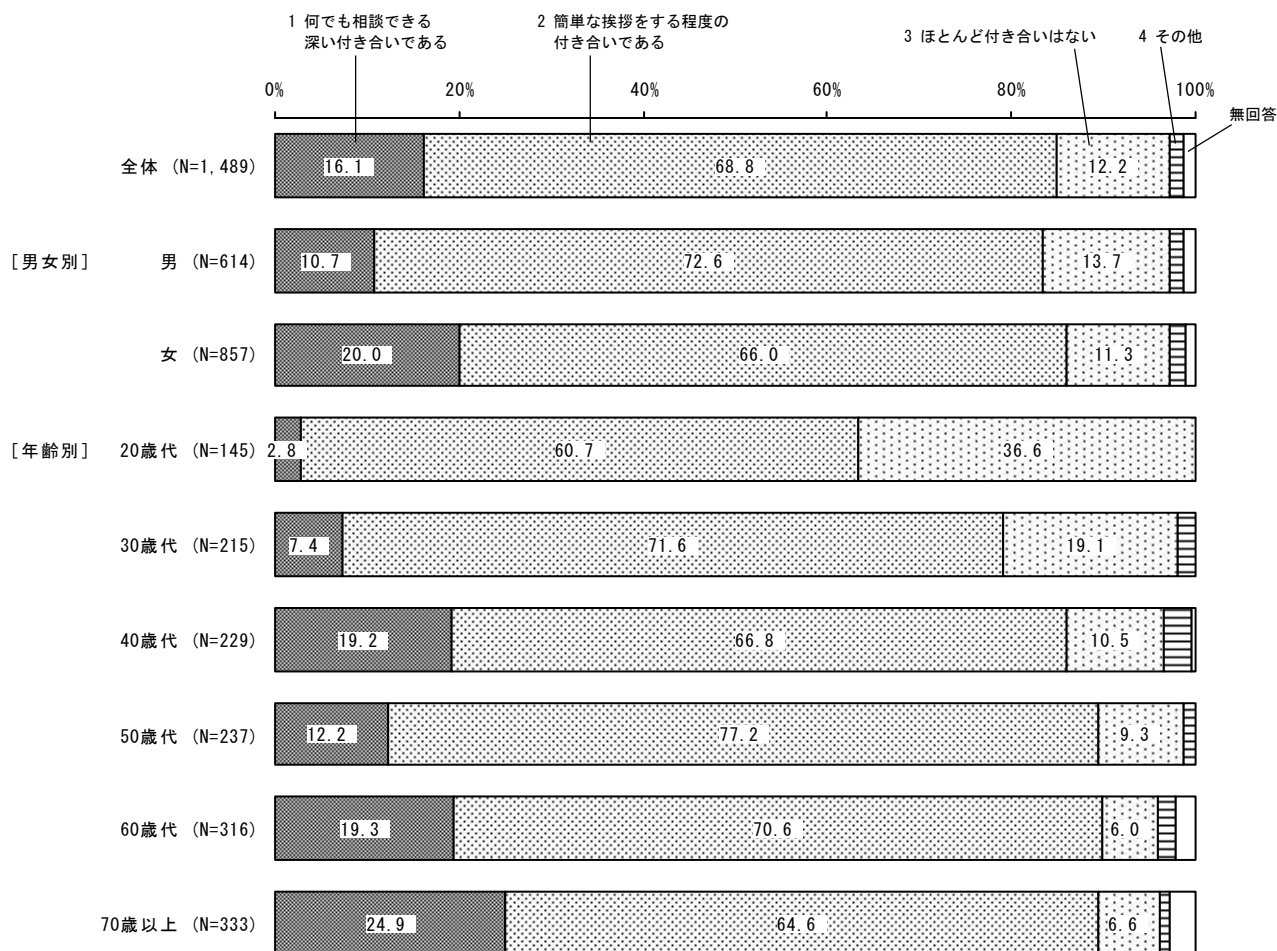
最も高かったのは「簡単な挨拶をする程度」(68.8%)。「何でも相談できる」(16.1%)も合わせると、84.9%が挨拶以上の付き合いをしている。



### [男女別・年齢別]

男女別では、「簡単な挨拶をする程度」は男性が高く、「何でも相談できる」は女性が高い。

年齢別では、「何でも相談できる」は概ね年齢層が上がるほど高くなっている。逆に年齢層が下るほど「ほとんど付き合いはない」が多い傾向がある。

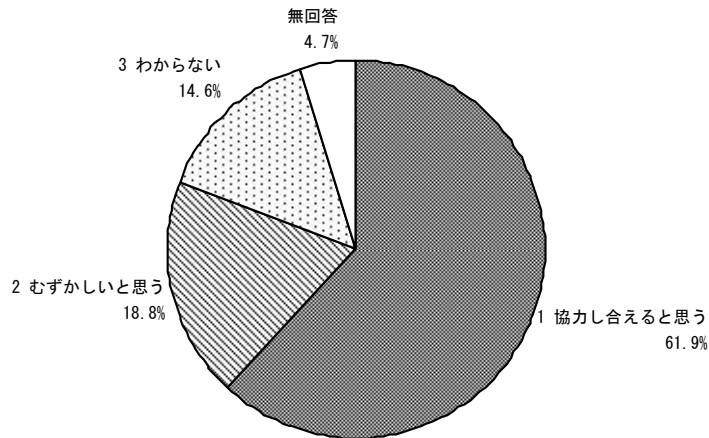


問 14 あなたは、緊急時に近所の方と協力し合えると思いますか。(○は 1 つだけ)

[全体傾向]

「協力し合える」(61.9%)が高いが、「むずかしい」(18.8%)も概ね 6 人に 1 人の割合である。

問 13 の回答別では、「何でも相談できる」人が「協力し合える」と回答する割合が高い(90.0%)ほか、「簡単な挨拶をする程度」の人も「協力し合える」と回答する割合が高い(63.3%)。



[問 13 の回答別にみた傾向]

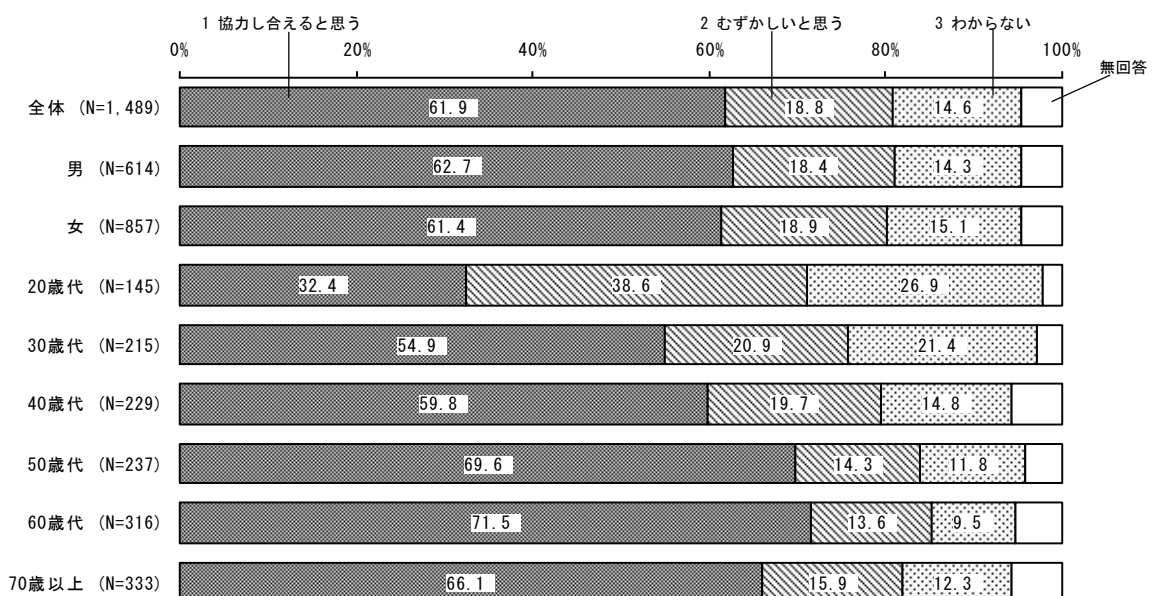
(単位: %)

		問 14 緊急時における地域協力への参加可能性		
		1 協力し合えると思う	2 むずかしいと思う	3 わからない
全体 (N=1,489)		61.9	18.8	14.6
問 13 地域との付き合いの程度	1 何でも相談できる深い付き合いである (N=239)	90.0	3.8	1.3
	2 簡単な挨拶をする程度の付き合いである (N=1,025)	63.3	17.4	15.7
	3 ほとんど付き合いはない (N=182)	18.7	50.0	29.1

[男女別・年齢別]

男女別では、特記する差異はない。

年齢別では、年齢層が上るほど、「協力し合える」の割合が高い傾向がある。

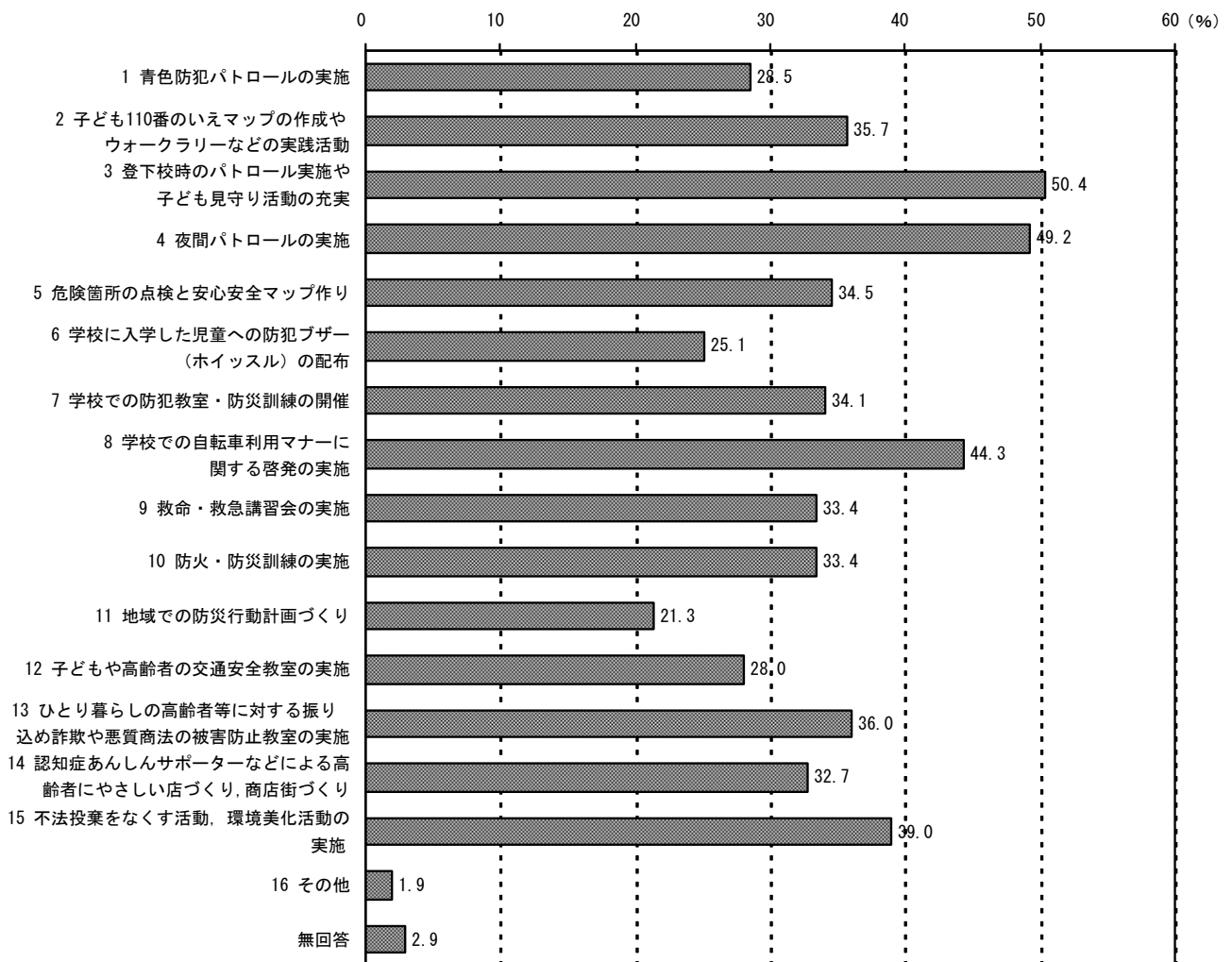




問 15 地域（自治会・町内会など）でさまざまな防犯活動や事故防止の活動が行われていますが、現在行われていないものも含めて挙げてみました。あなたが、地域社会にとって大切だと思うものはどれでしょうか。（〇はいくつでも）

[全体傾向]

1位は「登下校時のパトロール実施や子ども見守り活動の充実」(50.4%)、2位は「夜間パトロールの実施」(49.2%)である。次いで、「学校での自転車利用マナーに関する啓発の実施」(44.3%)となった。

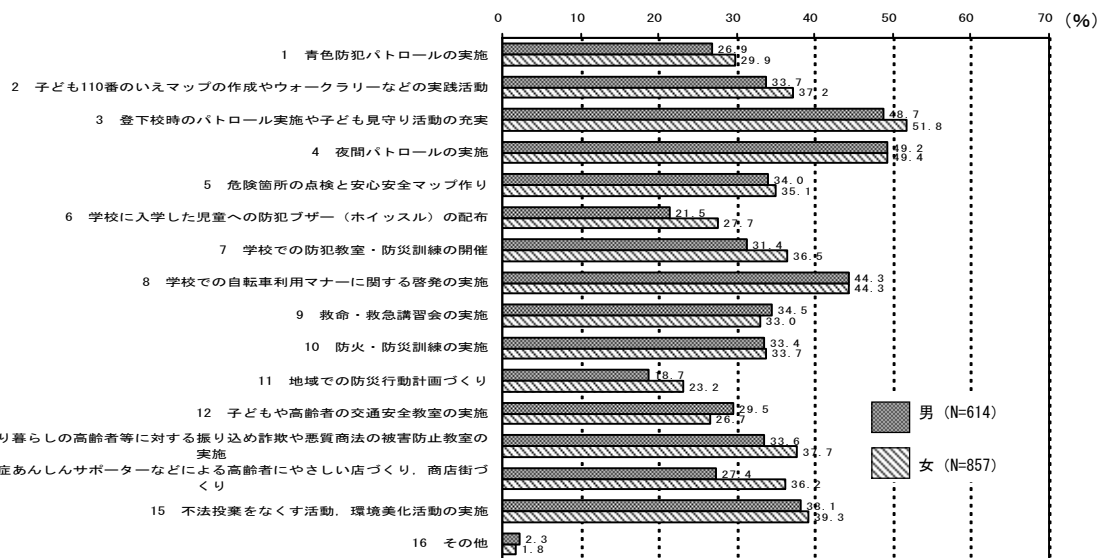


(M. T. =530.4%)

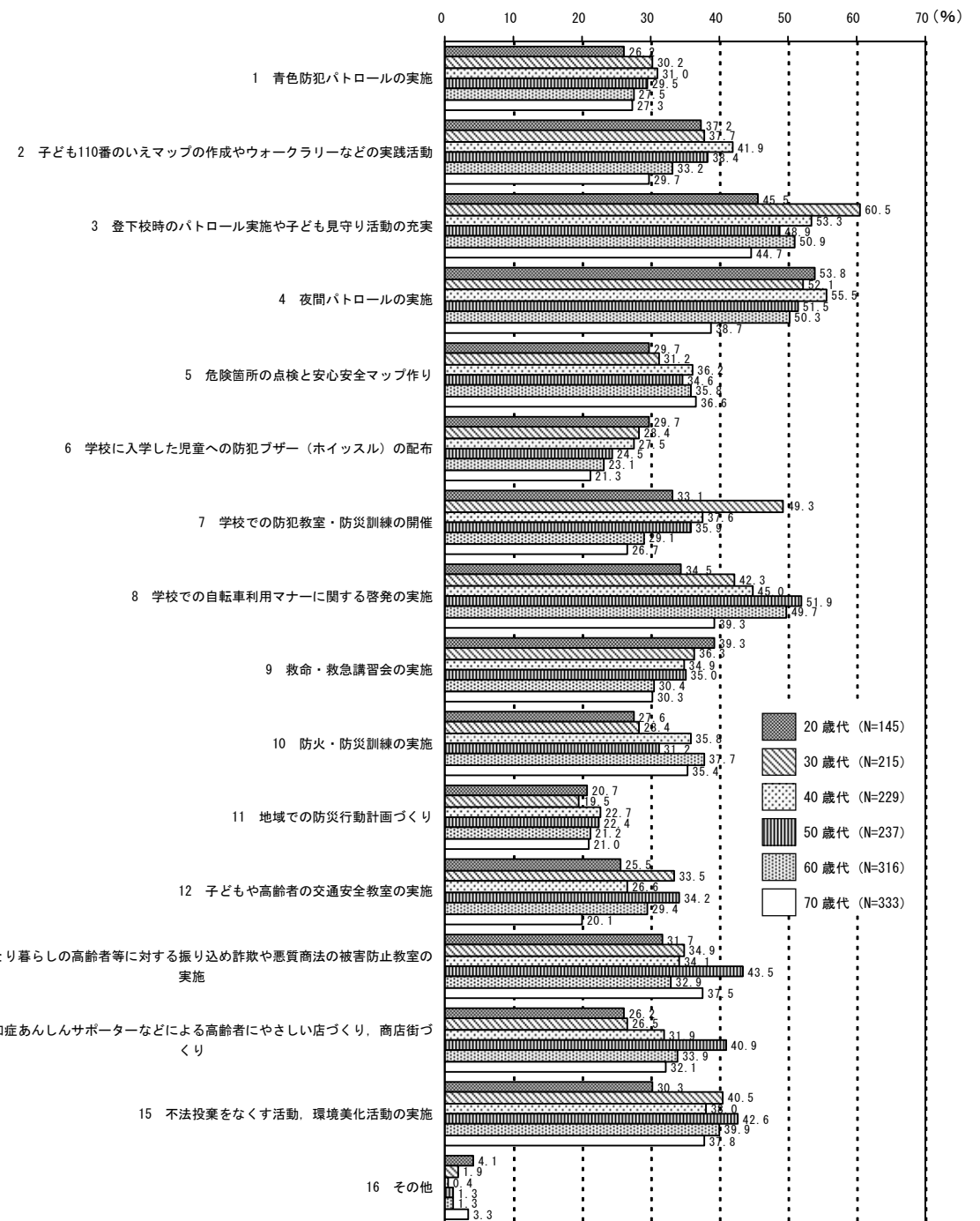
[男女別・年齢別]

男女別では、「認知症あんしんサポーターなどによる高齢者にやさしい店づくり, 商店街づくり」は女性で高い。年齢別では、「登下校時のパトロール実施や子ども見守り活動の充実」, 「学校での防犯教室・防災訓練の開催」は30歳代で高い。「学校での自転車利用マナーに関する啓発の実施」, 「ひとり暮らしの高齢者等に対する振り込め詐欺や悪質商法の被害防止教室の実施」, 「認知症あんしんサポーターなどによる高齢者にやさしい店づくり, 商店街づくり」は、50歳代で高い。

[男女別]



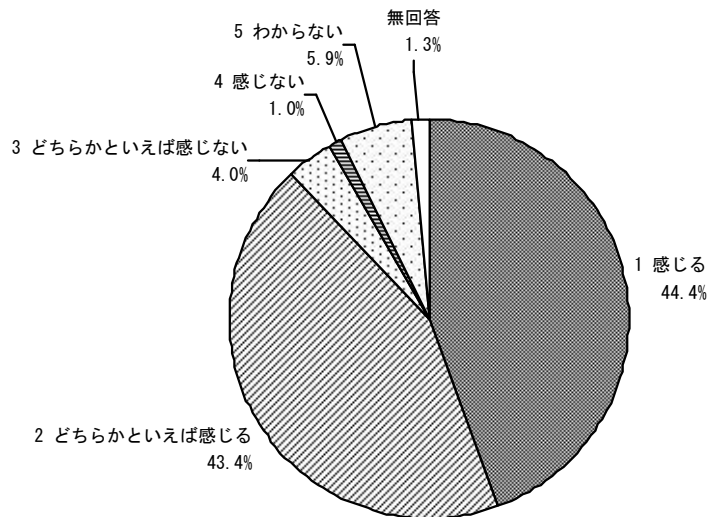
[年齢別]



問 16 あなたは、地域（自治会・町内会など）の人々が防犯・事故防止面で協力する必要性を感じますか。（〇は1つだけ）

[全体傾向]

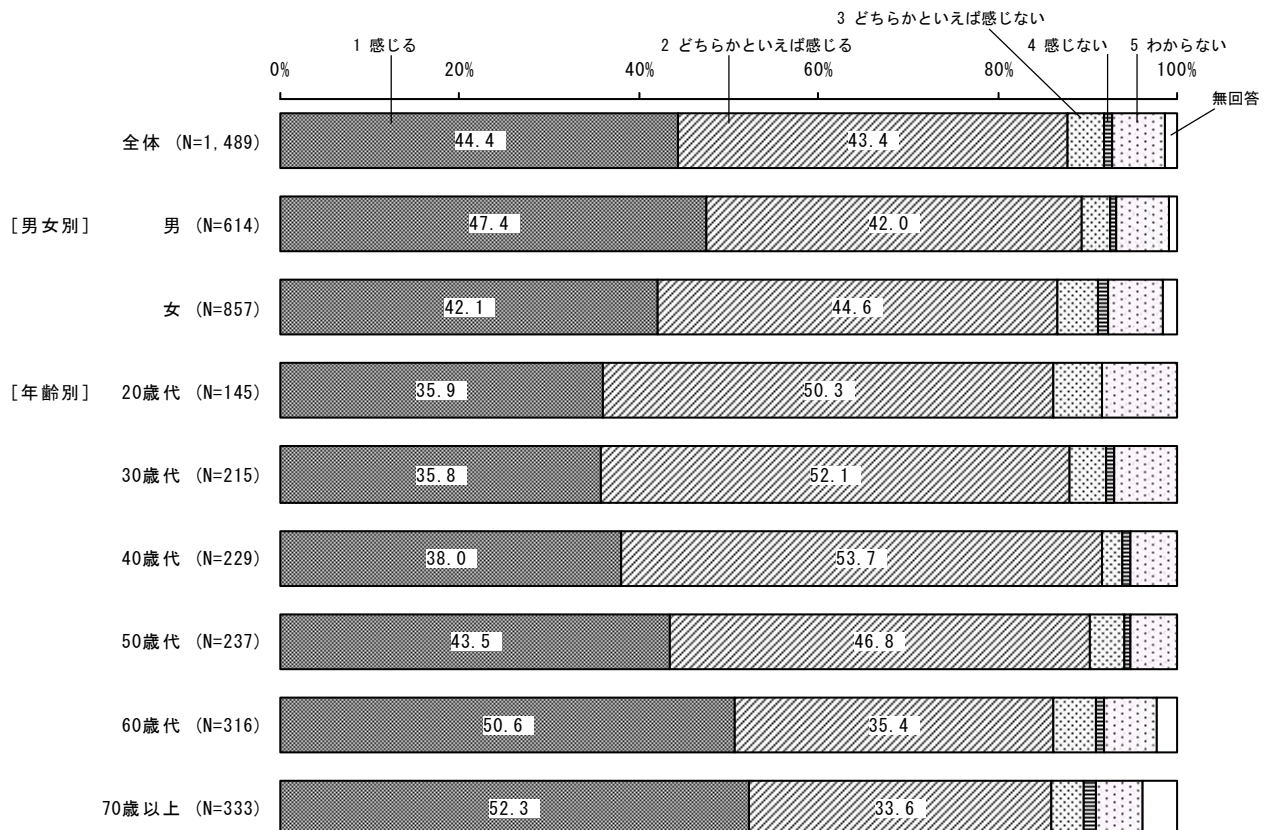
「感じる」、「どちらかといえば感じる」を合わせると、87.8%である。



[男女別・年齢別]

男女別では、男性が女性より「感じる」がやや高い。

年齢別では、年齢層が上るほど「感じる」が高くなる傾向がある。



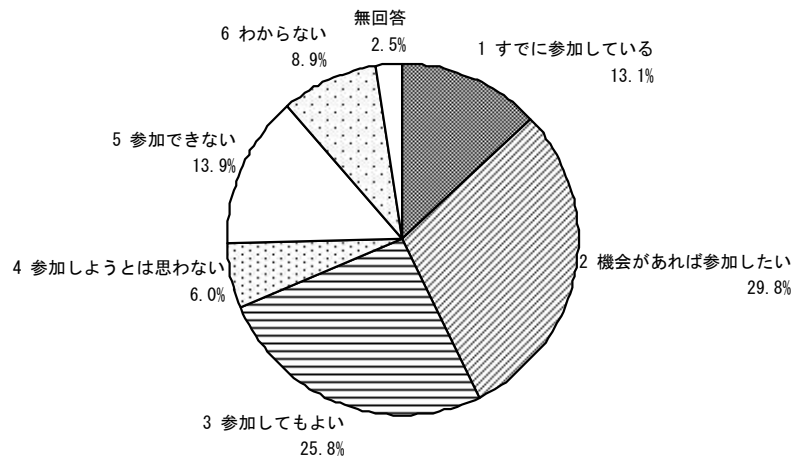
問 17 問 15 で大切だと答えたものに関して、あなたは参加したいと思いますか。  
(○は 1 つだけ)

**[全体傾向]**

「すでに参加している」(13.1%)のほか、「機会があれば参加したい」と「参加してもよい」を合わせると 55.6%となった。これら 3つの選択肢を合わせると、地域活動への参加に肯定的な回答の割合は 68.7%となる。全国調査 1 より肯定的な回答の割合が高い。

[注] 全国調査 1 の問「自主的な防犯活動に参加したいと思いますか」

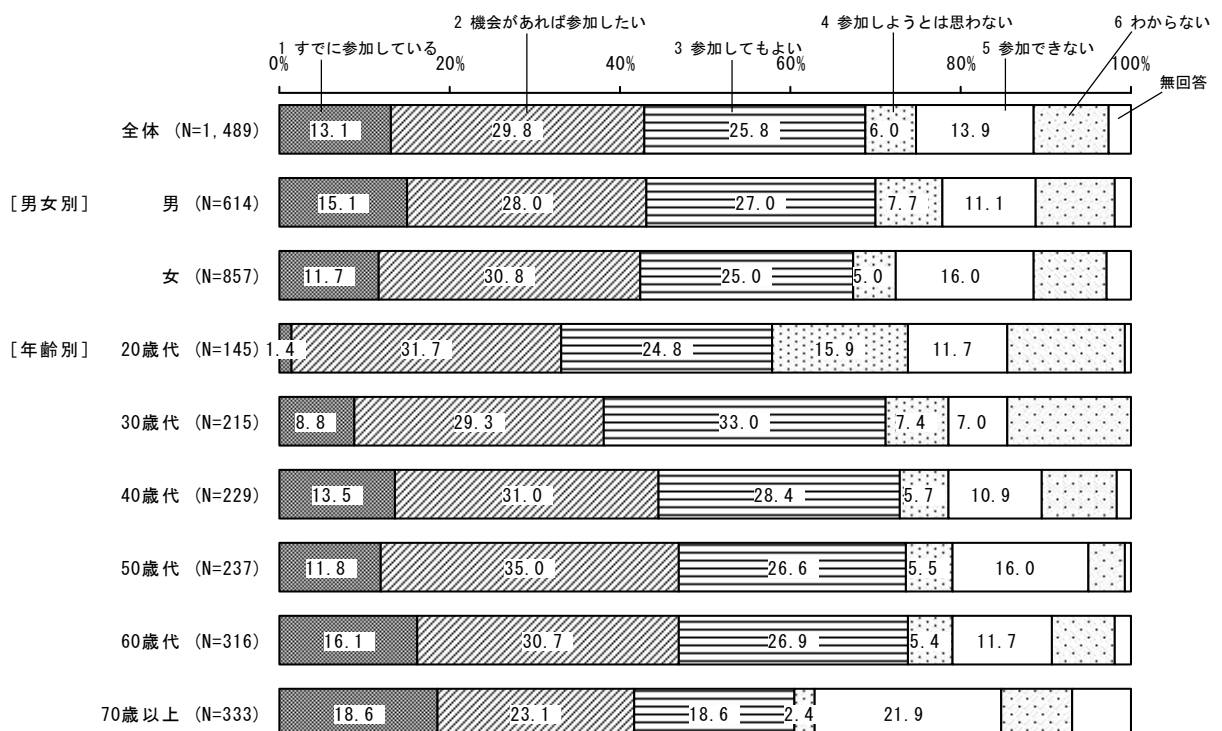
参加したい 7.8%, できれば参加したい 50.8%, あまり参加したくない 25.2%, 参加したくない 8.4%, わからない 7.8% (肯定的な回答は合わせて 58.6%)



**[男女別・年齢別]**

男女別では、男性が「すでに参加している」の割合がやや高く、女性が「参加できない」の割合がやや高い。

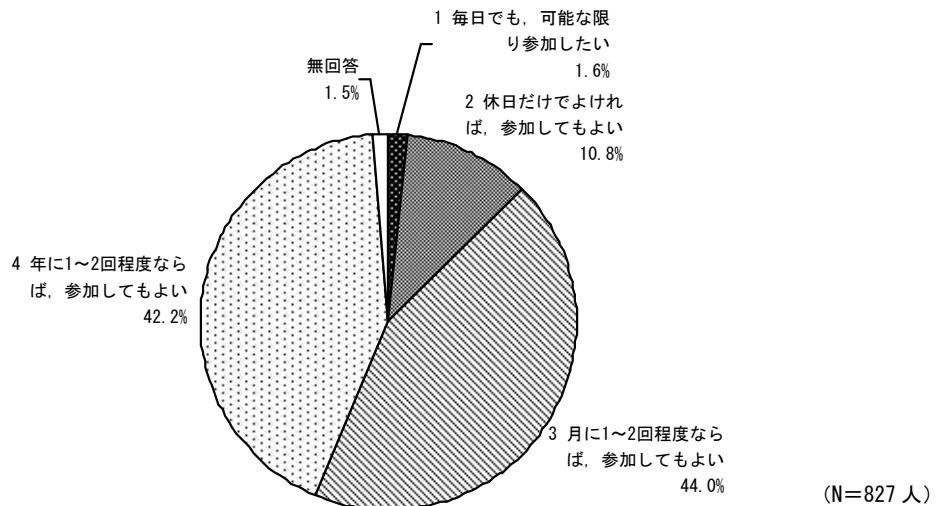
年齢別では、「機会があれば参加したい」は 50 歳代で、「参加してもよい」は 30 歳代で高い。20 歳代は「参加しようとは思わない」が高くなっている。



問 18 問 17で「機会があれば参加したい」「参加してもよい」と答えた方におたずねします。実際にどの程度ならば参加できると思いますか。(〇は1つだけ)

[全体傾向]

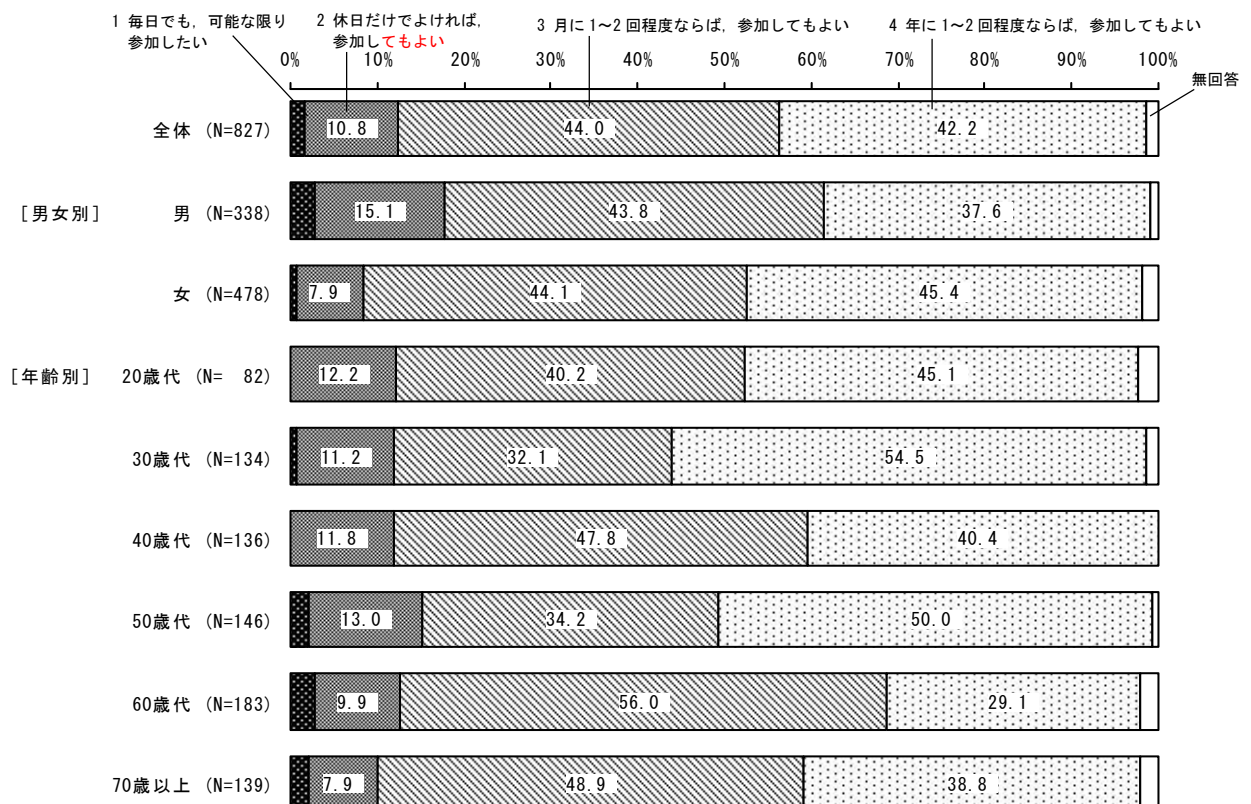
「月に1~2回程度ならば、参加してもよい」(44.0%)が最も高く、「年に1~2回程度ならば、参加してもよい」(42.2%)が続く。「休日だけでよければ、参加してもよい」も10.8%となった。



[男女別・年齢別]

男女別では、男性は「休日だけでよければ、参加してもよい」が高く、女性は「年に1~2回程度ならば、参加してもよい」が高い。

年齢別では、「月に1~2回程度ならば、参加してもよい」が60歳代で高い。「年に1~2回程度ならば、参加してもよい」は30歳代、50歳代で高い。





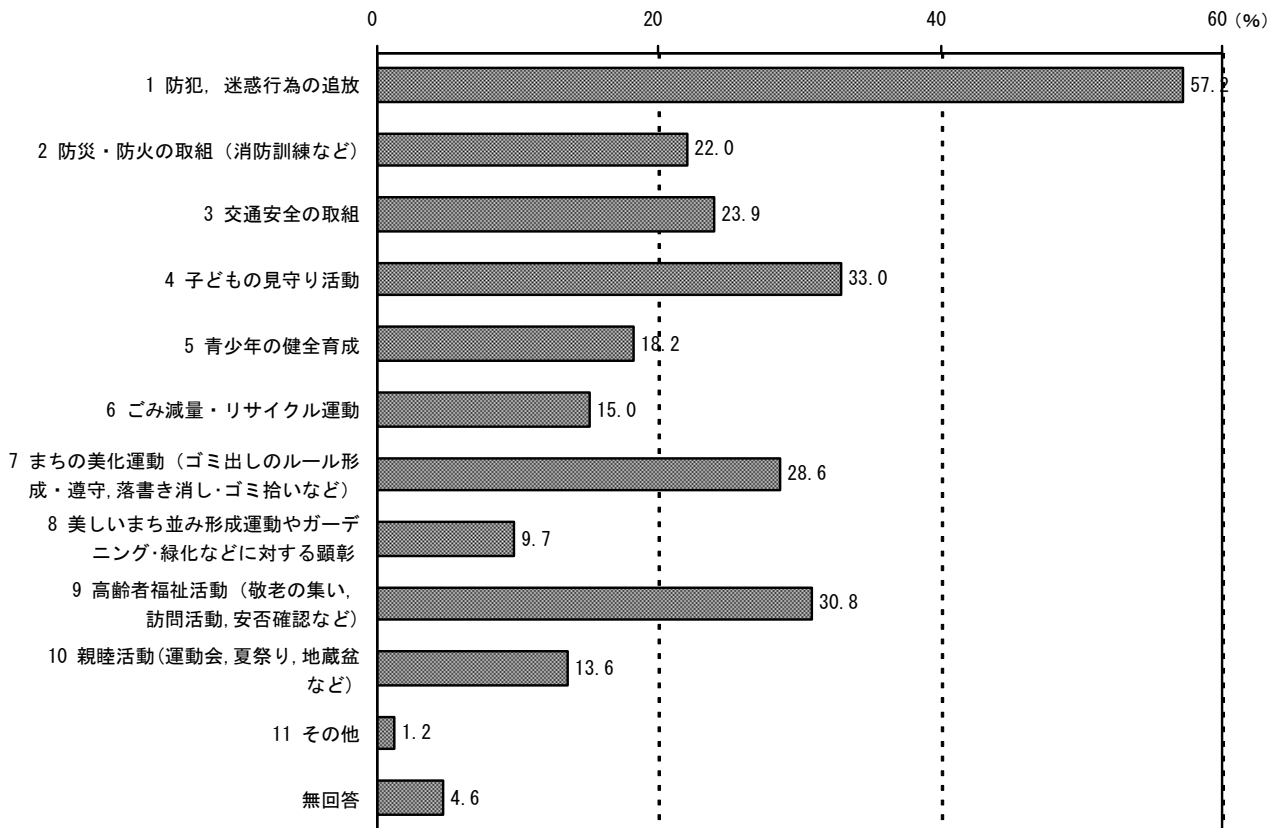
## 6 地域活動全般

- 取組を特に強化すべきと思う地域活動は、「防犯, 迷惑行為の追放」が1位 (57%)
- 地域活動を強化する方法は、「地域活動に積極的に参加する人を増やす」が1位 (57%)

問 19 地域（自治会・町内会など）で、防犯・事故防止に限らず、今後取組を特に強化すべきと思う分野は何でしょうか。（〇は3つまで）

### [全体傾向]

「防犯, 迷惑行為の追放」(57.2%)が1位である。次いで「子どもの見守り活動」(33.0%), 「高齢者福祉活動（敬老の集い, 訪問活動, 安否確認など）」(30.8%), 「まちの美化運動（ゴミ出しのルール形成・遵守, 落書き消し・ゴミ拾いなど）」(28.6%)となっている。



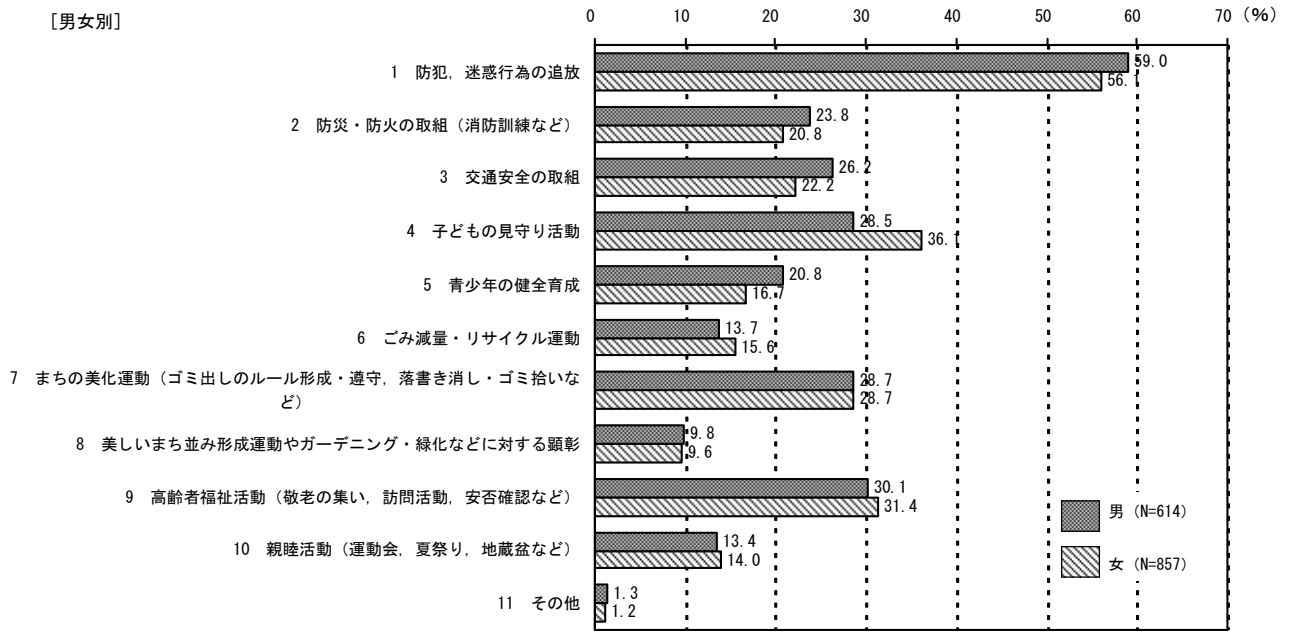
(M. T. =257.8%)

### [男女別・年齢別]

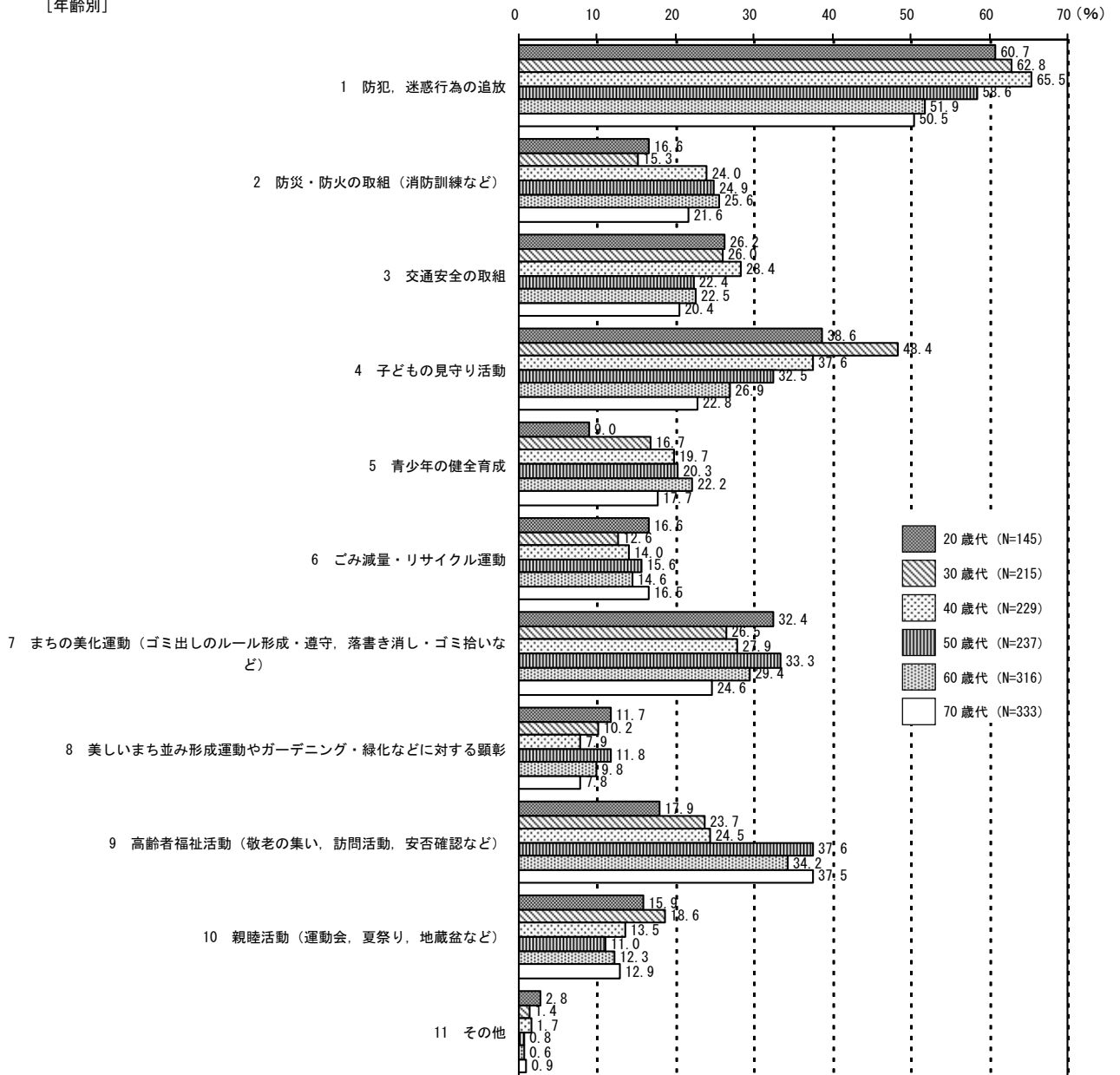
男女別では、女性が男性よりも「子どもの見守り活動」の割合がやや高い。

年齢別では、「防犯, 迷惑行為の追放」が20～50歳代で高い。「子どもの見守り活動」は30歳代が高く、「高齢者福祉活動（敬老の集い, 訪問活動, 安否確認など）」は50～70歳以上で高い。

[男女別]



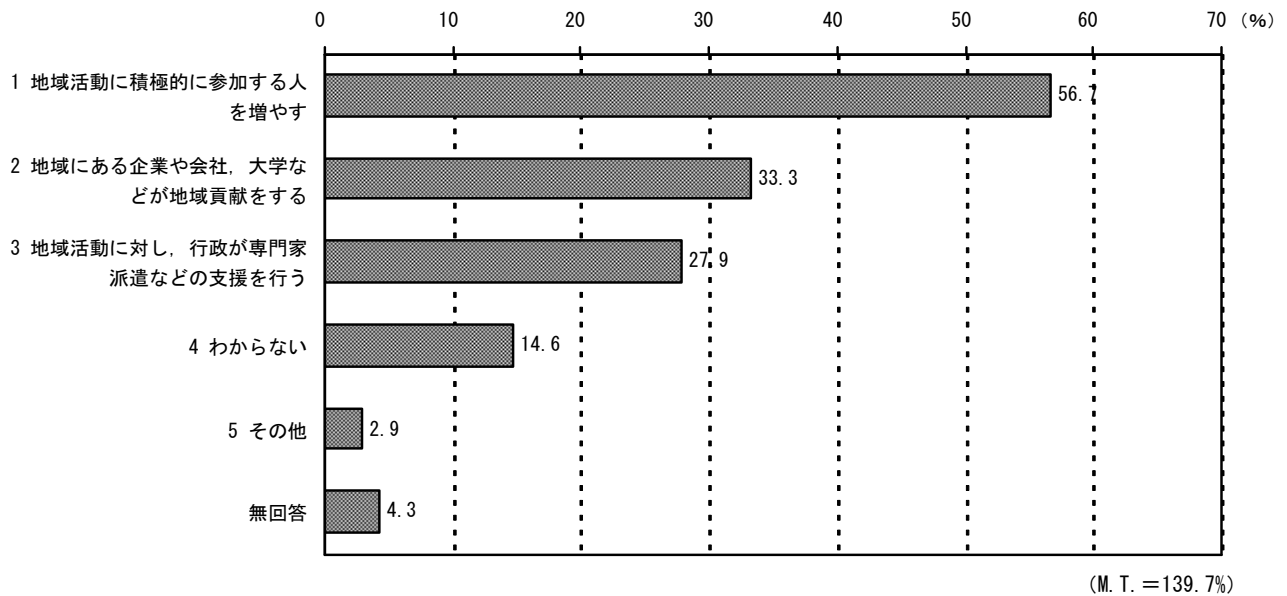
[年齢別]



問 20 地域（自治会・町内会など）の活動を強化するためには何をするのが特に有効でしょうか。（〇は2つまで）

[全体傾向]

「地域活動に積極的に参加する人を増やす」（56.7%）が半数を超えている。次いで、「地域にある企業や会社、大学などが地域貢献をする」（33.3%）、「地域活動に対し、行政が専門家派遣などの支援を行う」（27.9%）の順となっている。

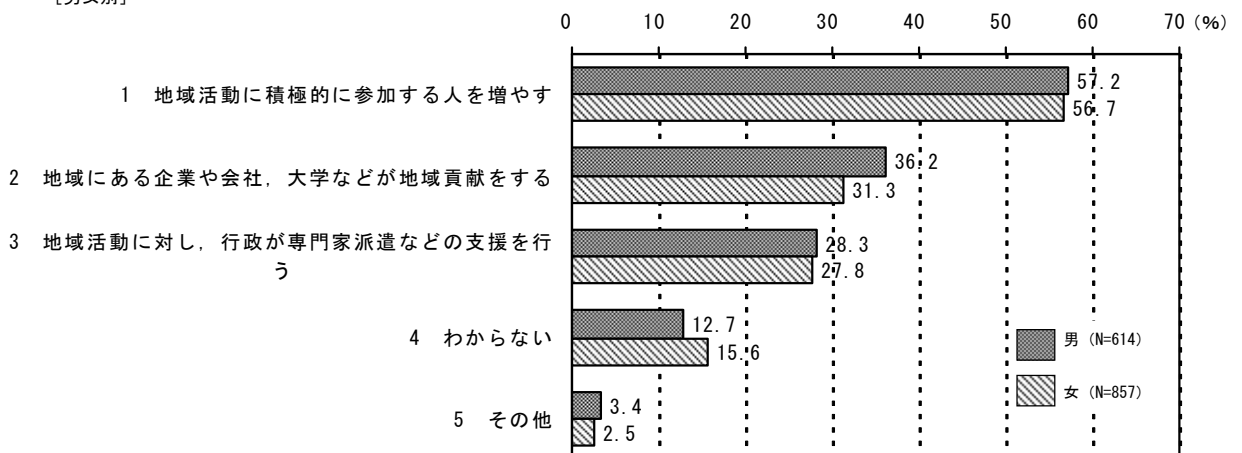


[男女別・年齢別]

男女別では、男性が女性よりも「地域にある企業や会社、大学などが地域貢献をする」がやや高い。

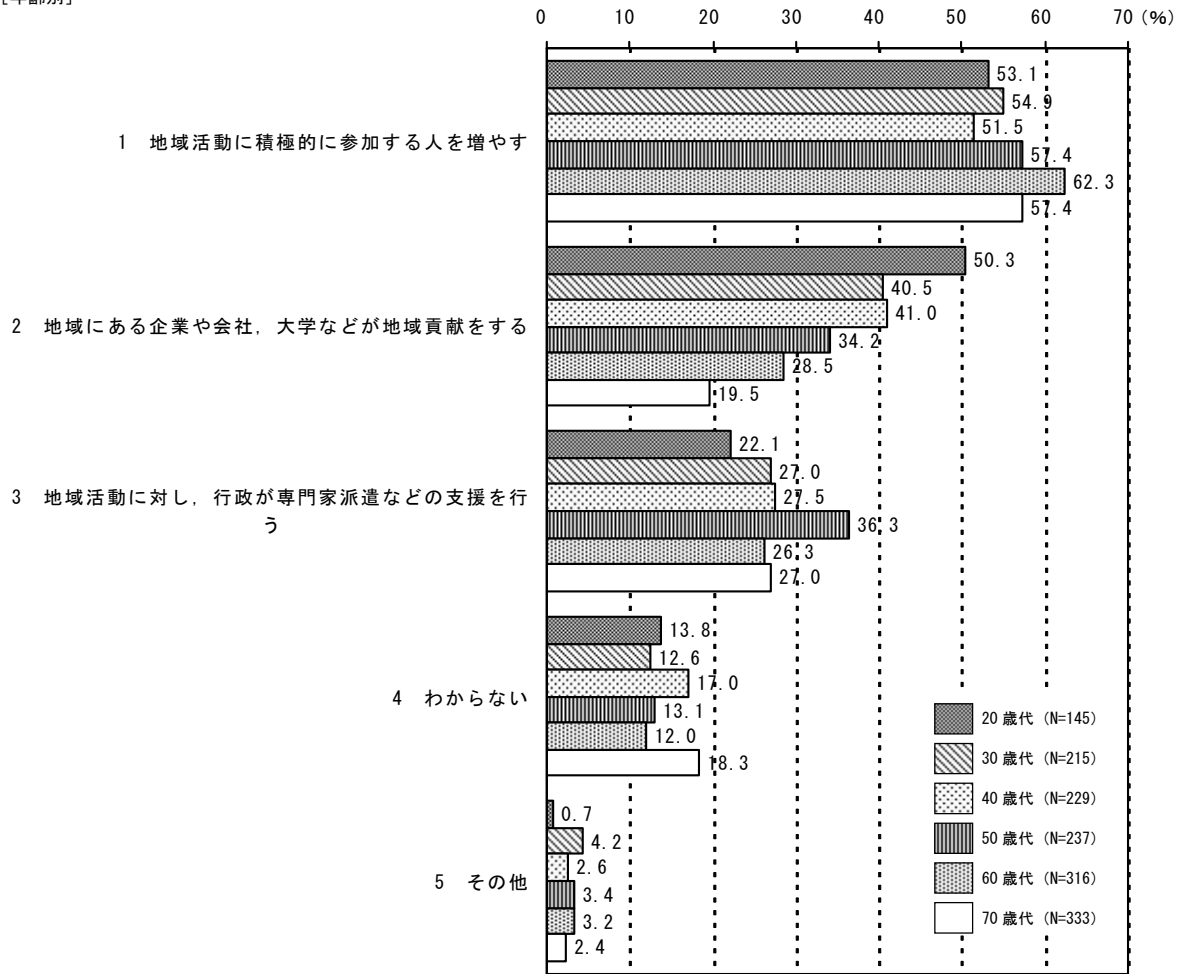
年齢別では、「地域活動に積極的に参加する人を増やす」は、50～70歳以上が高い。「地域にある企業や会社、大学などが地域貢献をする」は、年齢層が下るほど高い傾向がある。「地域活動に対し、行政が専門家派遣などの支援を行う」は、50歳代が高い。

[男女別]





[年齢別]



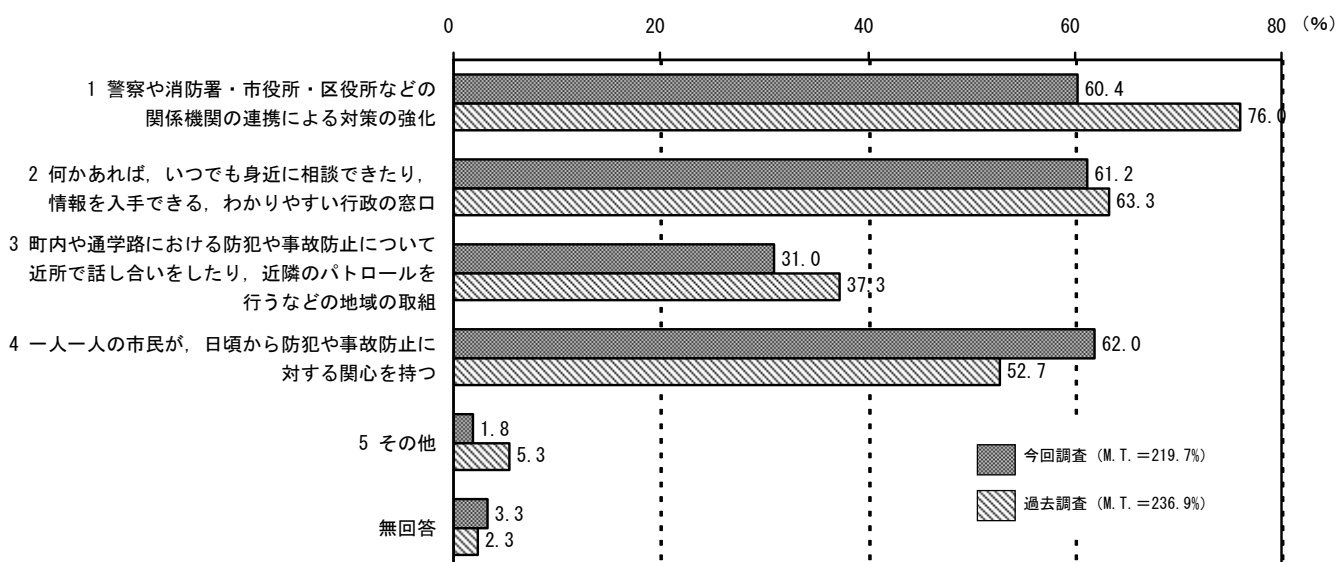
## 7 安心・安全を実現するための総合的な取組

- ▶一層の安心・安全を実現するための方策は、「一人一人の市民が、日頃から防犯や事故防止に対する関心を持つ」(62%)が1位。次いで、「何かあれば、いつでも身近に相談できたり、情報を入手できる、わかりやすい行政の窓口」(61%)が2位。
- ▶京都市に特に取り組んでほしい事項は、「公園の植栽の剪定、照明灯増設や公衆トイレの非常用ブザー、街路灯の設置を進めるなど、公共空間や道路について犯罪や事故が発生しにくい環境づくりを推進する」(48%)が1位

問21 犯罪や迷惑行為、事故などの問題に関して、一層の安心・安全を実現するためには、どのようなことが必要だと思われますか。(〇はいくつでも)

### [全体傾向]

「一人一人の市民が、日頃から防犯や事故防止に対する関心を持つ」(62.0%)が1位。次いで、「何かあれば、いつでも身近に相談できたり、情報を入手できる、わかりやすい行政の窓口」(61.2%)が2位である。「警察や消防署・市役所・区役所などの行政や関係機関の連携による対策の強化」(60.4%)も3位となった。過去調査より「一人一人の市民が、日頃から防犯や事故防止に対する関心を持つ」が増加し、「警察や消防署・市役所・区役所などの行政や関係機関の連携による対策の強化」が減少した。

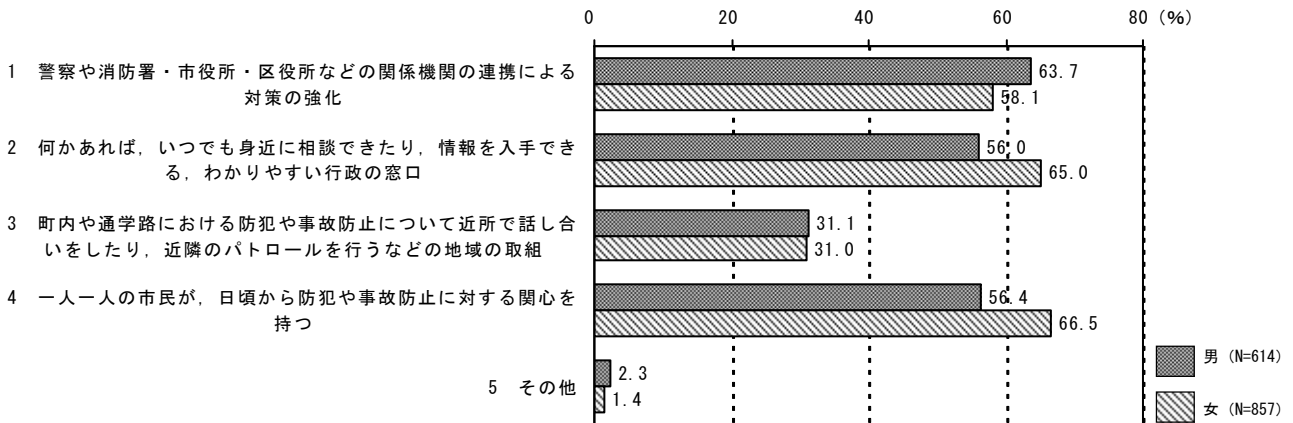


### [男女別・年齢別]

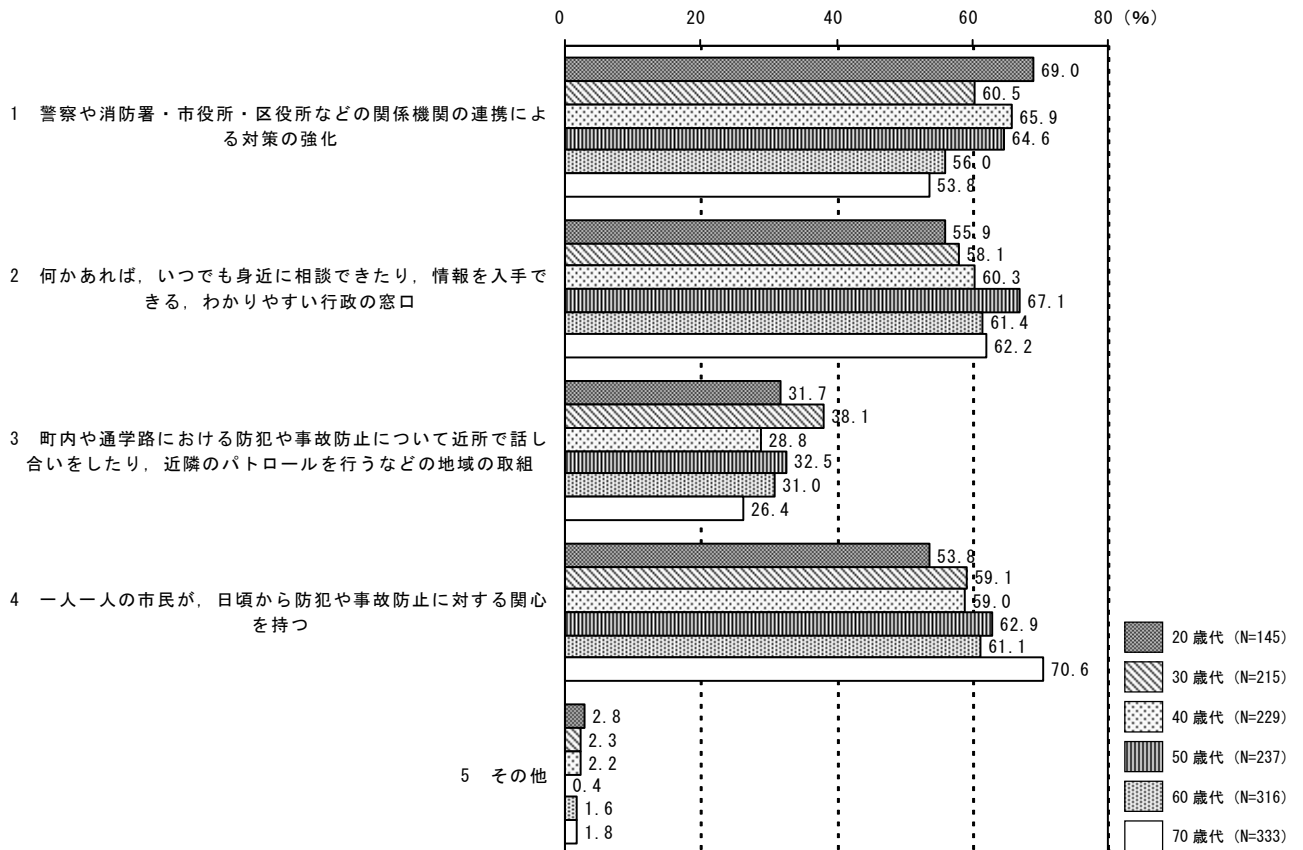
男女別では、男性は「警察や消防署・市役所・区役所などの行政や関係機関の連携による対策の強化」が高く、女性は「一人一人の市民が、日頃から防犯や事故防止に対する関心を持つ」、「何かあれば、いつでも身近に相談できたり、情報を入手できる、わかりやすい行政の窓口」が高い。

年齢別では、概ね、年齢層が上るほど「一人一人の市民が、日頃から防犯や事故防止に対する関心を持つ」の割合が高くなり、「警察署や消防署・市役所・区役所などの行政や関係機関の連携による対策の強化」の割合が低くなる傾向がある。「何かあれば、いつでも身近に相談できたり、情報を入手できる、わかりやすい行政の窓口」は50歳代で高い。

[男女別]



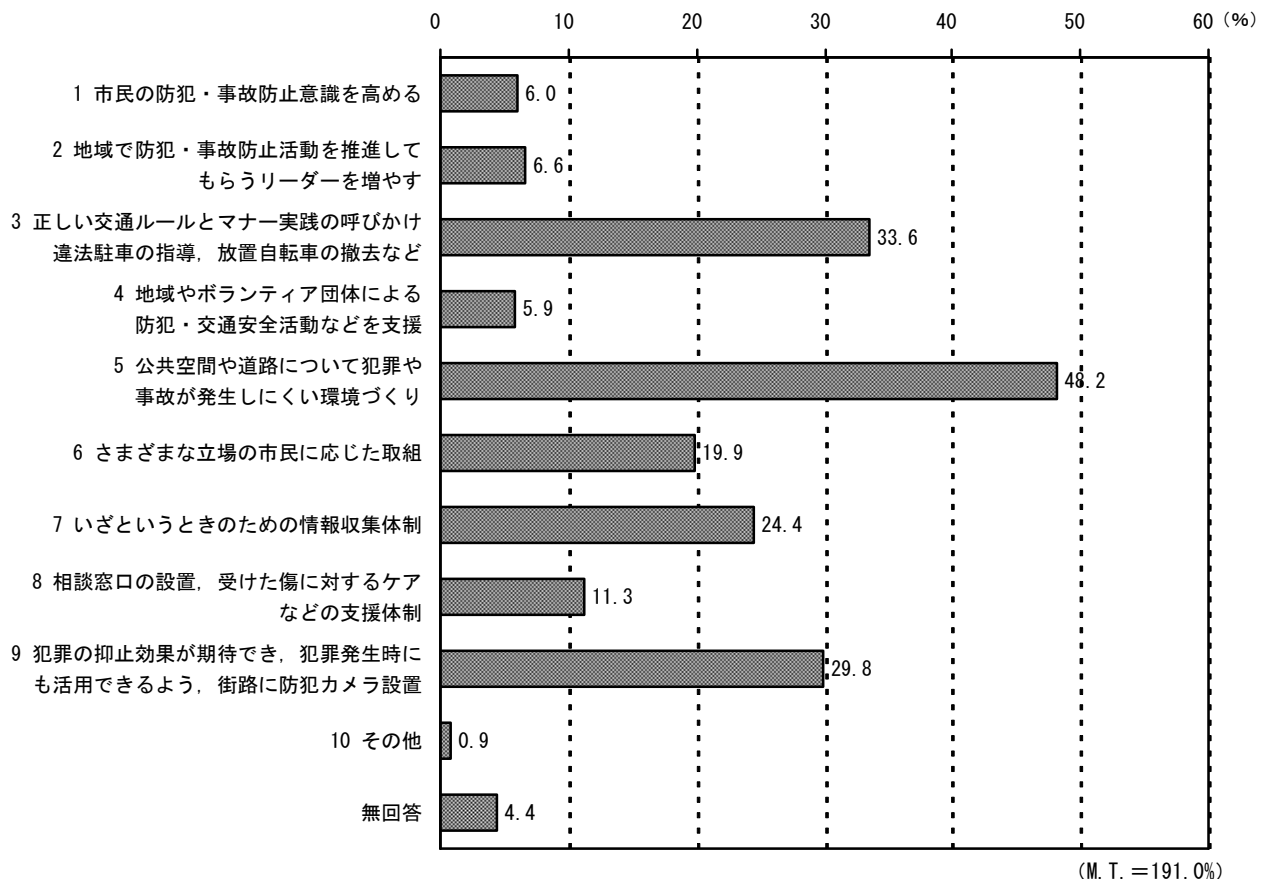
[年齢別]



問 22 犯罪や迷惑行為、事故などの問題に関して、市に特に取り組んでほしいと思うことは何でしょうか。(〇は2つまで)

[全体傾向]

「公共空間や道路について犯罪や事故が発生しにくい環境づくり」(48.2%)が1位。2位は「正しい交通ルールとマナー実践の呼びかけ、違法駐車指導、放置自転車の撤去など」(33.6%)、3位は「犯罪の抑止効果が期待でき、犯罪発生時にも活用できるよう、街路に防犯カメラ設置」(29.8%)である。



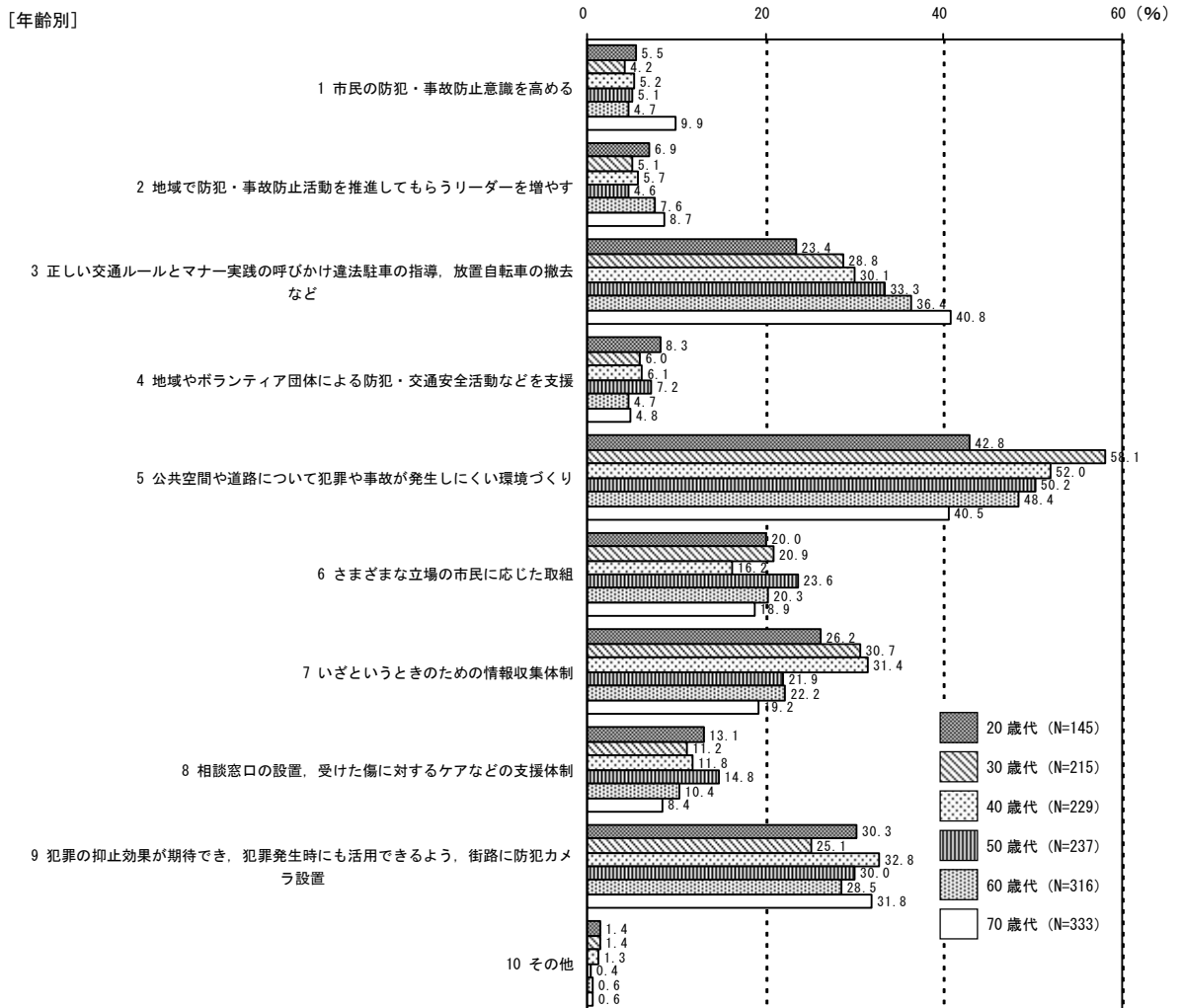
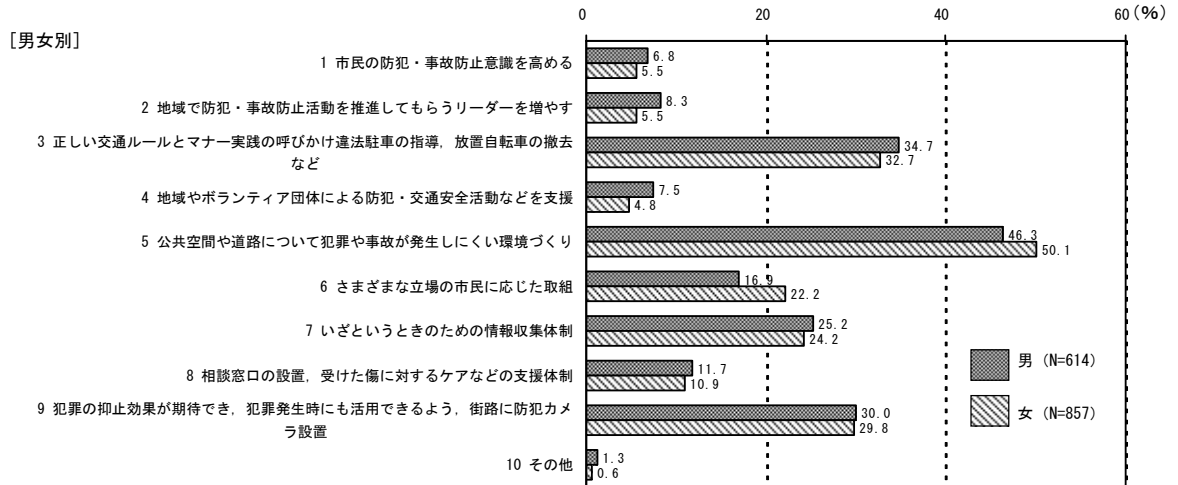
(参考) 選択肢全文

- 市民の防犯・事故防止意識を高めるため、パンフレットの発行や、防犯教室・交通安全教室等の充実をはかる
- 地域で防犯・事故防止活動を推進してもらいリーダーを増やすため、講習や研修を充実する
- 正しい交通ルールとマナーの実践を呼びかけるとともに、違法駐車指導、放置自転車の撤去などにより、歩行者の安全を確保する
- 生活安全推進活動に貢献する市民や団体の功績をたたえて顕彰したり、啓発活動に必要な物品提供を充実するなど、地域やボランティア団体による防犯・交通安全活動などを支援する
- 公園の植栽の剪定、照明灯増設や公衆トイレの非常用ブザー、街路灯の設置を進めるなど、公共空間や道路について犯罪や事故が発生しにくい環境づくりを推進する
- 乳幼児を「不慮の事故」から守るための相談窓口や情報提供を充実したり、保育所、幼稚園、学校での交通安全教室の開催、ひとり暮らしの高齢者や重度の身体障害のある人に対する緊急通報システムの充実など、さまざまな年齢層、さまざまな立場の市民に応じた取組を進める
- 犯罪や事故発生時など、いざというときのための情報収集体制や通報システムなど緊急体制を整備する
- 地域住民や観光旅行者が安心して生活し、また滞在することができるよう、犯罪や事故に巻き込まれた被害者やその家族のための相談窓口の設置、受けた心の傷に対するケアなどの支援体制を確立する
- 犯罪の抑止効果が期待でき、犯罪発生時にも活用できるよう、街路に防犯カメラなどを設置する

[男女別・年齢別]

男女別では、女性が男性より「公共空間や道路について犯罪や事故が発生しにくい環境づくり」，「さまざまな立場の市民に応じた取組」が高い。

年齢別では、「公共空間や道路について犯罪や事故が発生しにくい環境づくり」が30歳代で高い。「正しい交通ルールとマナー実践の呼びかけ，違法駐車等の指導，放置自転車の撤去など」は年齢層が上がるほど高い。「いざというときのための情報収集体制」は，30～40歳代で高い。



## 8 自由記述

- 回答者数は410人（記入率27.5%）。延べ501件の自由記述。
- 市民意識・地域協力（96件）、自転車運転マナー（79件）、道路環境の整備（75件）をはじめとして、多岐にわたる幅広いご提言、ご要望のほか、「進んでボランティアに」という決意を記載いただいた例も

問23 「日常生活における安心・安全」についてご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書き下さい。

※ 件数の合計は、複数の記載があるため、回答者数に一致しない。

### [主に市民意識と地域協力について] 96件

- 市民一人ひとりの意識や、地域協力の重要性に関する、意見や提案が最も多く寄せられている。
- 具体的には、地域での協力の重要性（43件）、モラルの大切さやモラルに関する教育の充実（39件）、市民一人ひとりの防犯・事故防止意識の大切さ（8件）、地域活動の強化への否定的な意見（6件）といった意見が寄せられている。
- 特に、家庭教育、学校教育、社会教育に触れた意見も多く、地域協力の重要性に関連して自らの参加に触れた意見も多かった。

#### 〈意見例〉

- ・犯罪が発生しにくい街づくりをし、地域でも犯罪が起きにくいシステムづくりを進めていく必要がある。（男、20歳代）
- ・私が住んでいる地区は、住宅街にもかかわらず町内会が存在しない。町内会は安心安全のため不可欠なので、市がそれを把握し、アドバイスしてほしい。（男、30歳代）
- ・退職後の方々の中にはボランティアとして地域に貢献したいと考えておられる方も多いはず。その力をもっと活かしたほうがよい。元気なシルバー世代が増えることにもつながるのではないかと。私自身も安心・安全な京都のためにできることから始めていきたい。もっと情報提供をしてほしい。（男、40歳代）
- ・毎日の安全安心は、当たり前のことのように日々変化している社会状況を考えると、とても大変なことだ。市民一人一人が自覚を持ち、皆で協力して互いに助けあってこそ安全安心が成り立っていくのではないかと。（女、40歳代）
- ・一昔前のような近所づきあいが薄れている。わずらわしい、面倒だと思う人とディスカッションして改善しなければ諸問題は前進しない。（男、50歳代）
- ・地域活動の中で講習や訓練・パトロールは必要だが、特定の役員だけでは時間のやりくりが大変なこともある。その時その時で、時間のある人ができる範囲で活動できるような呼びかけが大切だと思う。（女、50歳代）
- ・私も含めて、最近は多くの方がウォーキングをしているので、その人たちに、防犯用に目立つパーカーのようなものを配布してもらい、それを着用すれば、かなり地域安全に役立つと思う。（男、60歳代）
- ・地域コミュニティの中心だった小学校の統合により、地域コミュニティの物理的、文化的中心であったよりどころがなくなったことが、これからの地域の安全にも不安な要素となっている。これに

に対する対応施策が不可欠ではないか。(男, 60 歳代)

- ・口で言ってもなかなか率先して行動してくれる人が少ない。力不足を感じるが、少しでも前へ進むよう頑張りたい。(男, 70 歳以上)
- ・自分のことだけでなく、地域の中で助け合いが必要だ。地域の中で進んでボランティアに取り組むように心がけたい。(男, 70 歳以上)
- ・最近の若者は自分の喜びや楽しみを優先し、周りの人間に配慮しない傾向があるようだ。モラル教育の意味を深く考えて「当たり前のことをきちんと守る」ことを若者に理解させる取組をお願いしたい。(男, 20 歳代)
- ・行政や警察に相談する前に、相談ごとのできる身近な人が地域にいるのが、若い我々ありがたいものだ。本当の安心安全とは、モラルのある大人の増加だと思う。子どもたちのよき見本になるように。(女, 30 歳代)
- ・自分の心地よさだけを追求するあまり、気に入らないものを排除する気持ちが「あらそい」や「いじめ」になると思う。人間同士は言うまでもないが、周囲の動物や環境とともに生きていくことを大切にしてほしい。(女, 50 歳代)
- ・日頃からの家庭内での話から始まると思う。子どもの時から親が社会のルールなどを教える。それに加えて学校・地域の協力が必要だと思う。(女, 50 歳代)
- ・道徳教育の推進が重要だ。「ありがたいの言葉を大切に」の以前に「ありがたいの心を大切に」という教育が必要だ。(女, 60 歳代)
- ・経済的・時間的・精神的にゆとりがなく、目先の成果だけを求める世の中を何とかしなければならない。誰でもそのままでもいいよと認め合う世界にしなければと思う。そのために家庭と仕事とがしっかりあることが大事だ。(男, 60 歳代)
- ・安全対策の問題は若者をはじめとするモラルの低下や地域社会の連帯感の希薄化がなよりの原因だろう。国や自治体の財政難が深刻化する中、市民 1 人ひとりが安全対策への関心を高め、行政依存の意識を変えていかなければ抜本的な解決は図れないと思う。(男, 30 歳代)
- ・行政だけに頼らず、一般市民も一人ひとりが注意して生活することが重要だ。(男, 50 歳代)
- ・今回のテーマには今まで消極的だったことを痛感した。行政にもできるかぎりのことはやってもらいたい、自分で守らねばならないことは自分で、が重要だ。(女, 60 歳代)
- ・地域に高齢者が多く、若い世代は PTA の役職で負担が大きい。地域内のネットワークはいいことだが、数少ない現役世代にばかり地域の役職が回ってくる。人口構造が変わってきているのに、行政は町内会にいろいろな役割を課しすぎではないか。(女, 50 歳代)
- ・地域活動が強化されることによって住民の負担や義務が増すことには反対だ。それよりも、個人が自らの意思で近くの人々とつながりを持ち、ことあれば親身に動いてくれる行政の窓口が整えられていることのほうが大切だ。(女, 60 歳代)

## [主に自転車運転マナーについて] 79 件

- 自転車運転マナーに関する意見が多く寄せられている。
- 具体的には、歩道を暴走する自転車 (20 件) や、夜間無灯火 (10 件) のほか、信号無視、携帯電話、右側通行などが挙げられている。
- また、自転車のルール違反に対する罰則の強化や免許制 (9 件)、違法駐輪の取締強化 (14 件)、駐輪場などの設置 (13 件) も提案されている。

### 〈意見例〉

- ・自転車に乗る人のマナーが悪い。歩道を走るとき、歩行者がいる場合はスピードをゆるめるとか、手で押して通るなど基本的なことを守るべき。(女, 40 歳代)
- ・歩道や商店街の中を自転車が走り回り、危険。(男, 50 歳代)
- ・自転車が右側を大きな顔をして人をけちらして走っている。交通ルール・マナーを守ることは子どもにとっても大切だが、大人にとっても大切。(女, 50 歳代)

- ・夜の自転車の8割が無灯火だ。歩道を、スピードを出して無灯火で走ってくるのがこわい。(女, 60歳代)
- ・歩行者や自転車の信号無視がひどい。(女, 30歳代)
- ・信号無視や、横断歩道以外のところから突然斜めに渡る、携帯電話を使いながらなど、自転車に乗る人のマナーが非常に悪い。「自転車＝徒歩の代わり」のような安易な考え方で自転車に乗る人が多いが、自転車運転にも交通ルール、法律があることを理解浸透させてほしい。(女, 40歳代)
- ・自転車もナンバー登録して免許制にすればよい。老人のふらふら乗りや若者の携帯電話をかけながらの運転、歩道を横並びで走るなど、モラル低下がひどい。(女, 30歳代)
- ・自転車がノーブレーキで交差点に進入するため、自動車との接触事故が起きやすい。罰則強化が必要。(男, 40歳代)
- ・駅周辺の放置自転車は歩道を遮り大変危険。通勤・通学の乗り継ぎとしての利用が大半らしいが、観光客に対して京都市民としてすごくはずかしい。(女, 60歳代)
- ・犯罪、事故防止と美観のため、放置自転車の撤去が必要。(男, 60歳代)
- ・市内主要私鉄駅前に、駐輪場やレンタサイクルの設置を望む。迷惑駐輪の撤去は根本的解決にならない。(女, 20歳代)
- ・放置自転車は目にあまるが、撤去以前に駐輪場を設置すべき。特に地下鉄駅周辺には絶対に必要。エコを推進するなら安全・快適に自転車を利用できるようにすべき。(男, 60歳代)

## [主に道路環境の整備について] 75件

- 道路環境の整備などに関する意見が多く寄せられている。
- 具体的には、街灯の設置促進 (37件)、通学路など歩行者のための道路環境の整備 (15件)、道路表示など自動車・バイクのための道路環境の整備 (13件)、自転車用道路の整備 (2件)、公園・トイレの環境整備 (8件) といった意見がある。

### 〈意見例〉

- ・街灯が少ないため、夜道を1人で歩くのが怖い。街灯をもっと増やして、しかも明るいライトにしてもらいたい。(女, 20歳代)
- ・自宅の近所は街灯が設置されたにもかかわらず、車の通りが少ないという理由で夜に点灯されず、ひたたくりもあったようだ。人が通るところは街灯を付けてほしい。(女, 30歳代)
- ・真っ暗な町は無気味な感じがするので、街灯を増やしてほしい。また、個人宅でも門灯は電気代金を惜しまず点けるようにしてほしい。(男, 50歳代)
- ・ビジネス街では会社が終わると人通りもなく、照明灯もないので、危険を感じる。(女, 50歳代)
- ・街灯の設置は、予算の許す限りたくさん設置し、死角をなくしてほしい。(女, 60歳代)
- ・公共交通機関(市バス、地下鉄)のより一層のバリアフリー化を促進し、利用しやすい駅にしてほしい。(男, 20歳代)
- ・時差式信号機は歩行者にとってわかりにくいし、危ない。(女, 20歳代)
- ・小学校周辺の道路が狭く交通量も多いので、通学時間帯(8:00—8:20)は車両通行禁止にして安全を図ってほしい。(男, 30歳代)
- ・子どもの通学路なのに、歩道の白線が途中で消えているので、子どもの通学の安全性を確保してほしい。また、国道が狭く、車が高速で走っているのに歩道が狭いので、国道の歩道の幅を確保してほしい。(女, 30歳代)
- ・歩行者用の道路を整備してほしい。車イスの方が移動しやすい歩道を。車の出入りを重視するためか、傾斜がたびたびあり危険すぎる。(男, 30歳代)
- ・京都は自転車・バイクの多い地域なので、カーブミラーをもっと設置してほしい。(女, 30歳代)
- ・欧米の住宅内道路のように、一時停止線の前では、道路上に障害物(突起状のもの)を設置するなど、ドライバーが減速せずにはいられない状況をつくるべきでは(特に通学路)。(男, 40歳代)
- ・自宅前の道路は一方通行なのに、自動車やバイクが気づかず逆走しているので、表示を大きくして



ほしい。(男, 40 歳代)

- ・交差点、四差路等に看板、ポスター等があって見通しが悪いので、設置場所を考えるべきだ。また、ガードレールの高さも普通自動車の運転席から目線が同じになり、見通しが悪い。(女, 50 歳代)
- ・自転車道路の整備。(男, 20 歳代)
- ・公園や見通しの悪い路地等の草木の整備、街灯の設置をして、悪いことのできない雰囲気の街づくりができれば、安心安全が確保できるのではないかと思う。地域の方の見回りなど、常に人に見られているということも犯罪防止に役立つ。(女, 30 歳代)
- ・公園(特にトイレ)が不潔である。きれいにできなければ閉鎖すべきだ。照明灯も少なく、変な人のたまり場になっている。(女, 30 歳代)

### [主に警察への要望について] 55 件

- 警察への要望についても、比較的多く寄せられている。
- 具体的には、パトロールの強化(29 件)、身近な交番の充実(13 件)のほか、市民への情報提供の促進といった意見などが寄せられている。

#### 〈意見例〉

- ・夜間パトロールを実施してほしい。週末は、お酒の入った人が多く、不況のためかキレやすい人が増えた気がする。警察によるパトロールなどで安全に過ごせる街になればと思う。(女, 20 歳代)
- ・防犯パトロールを強化してほしい。パトカーが走っているだけで防犯意識が高くなるし、犯罪の抑止にもなる。(女, 40 歳代)
- ・特に夜間の警察によるパトロールを強化してほしい。大学生殺人事件の犯人はまだ身近に生活している。毎日が恐ろしい。(女, 60 歳代)
- ・警察に限らず、夜のパトロールをもっとしてほしい。仕事で遅いし、自転車で通えたらいいが、止めるところがないので歩くしかない。女性の 1 人歩きはみんな怖いと思う。(女, 20 歳代)
- ・警察、地域団体のパトロールを強化してほしい。(男, 30 歳代)
- ・地域はもとより警察や行政のパトロールをお願いしたい。(女, 60 歳代)
- ・警察官は増員されているはずなのに、近所の交番は事件、事故等の対応で警察官が不在であることが多い。空き交番をなくしてほしい。(男, 20 歳代)
- ・近くに交番があるが不在が多い。交通違反の取り締まりばかりでなく、地域に深く密着し、頼れる警官、いつでも相談できる警官がおられたら、もっと地域は安心できるのに。(女, 40 歳代)
- ・近年、街頭で警察官の姿をみるのが少なくなった。もっと街頭活動をして、朝夕の登下校時に見守り隊の市民と協同で活動して、「地域住民とともにある」という姿をみせてほしい。(女, 50 歳代)
- ・事件があった際には広報があるが、不審者情報、空き巣など些細なことでも、近隣や周辺のどこであったなどの詳細な情報を提供してほしい。(女, 40 歳代)
- ・まだ解決していない犯罪の公開と市民への協力要請に取り組んでほしい。(男, 70 歳以上)

### [主にバイク、自動車の運転マナーについて] 41 件

- バイク、自動車の運転マナーに関する意見も、比較的多く寄せられている。
- 具体的には、バイク、自動車の運転マナーの向上(19 件)、タクシーやバスなどの公共自動車の交通マナーの向上(8 件)、違法駐輪の取締強化(12 件)、駐車場の設置(2 件)といった意見や要望が見られる。

#### 〈意見例〉

- ・現行の免許取得者に対して再度試験の実施が必要。(男, 20 歳代)
- ・京都は交通マナーが非常に悪い。自動車は、自転車が車道を走っているだけですぐにクラクションを鳴らすし、赤信号でも交差点に進入してくる。路上駐車もひどい。(女, 20 歳代)
- ・幹線道路から住宅地や生活道路にまで車で入り込んでくる夕方に危険を感じる。(女, 60 歳代)

- ・市バスやゴミ収集車の運転が乱暴な時がある。主にスピードの出し過ぎ。(女, 30 歳代)
- ・高齢者の運転が気になる。本人に自覚がない。タクシー運転手によく見られる。(女, 70 歳以上)
- ・違法駐車を徹底的になくしてほしい。(男, 30 歳代)
- ・主要道路での路上駐車を取り締まりはよく見かけるが、生活道路の周りは通報がないとなかなか取り締ってもらえない。平気で「消火栓」の上に駐車するドライバーもいるため、夜間は不安になる。(女, 50 歳代)
- ・中心市街地に駐車場を配置するべき。(女, 20 歳代)

## [主に迷惑行為について] 35 件

- 犬の大小便，風俗店，路上喫煙，ごみの不法投棄など，様々な迷惑行為に困っているとの声が寄せられている。

### 〈意見例〉

- ・犬を散歩させる人の犬のフン，おしっここの放置がひどく，マナーが悪すぎる。(女, 30 歳代)
- ・花泥棒の被害がひどい。何度も花や植木を盗まれて（1日のうちに30～40個）本当にこわい夜を送っている。警察には相談にのってもらえない。(女, 30 歳代)
- ・風俗店が増えたのが困る。条例を作るなどして，観光地の「顔」を汚されるのを防いでほしい。(女, 40 歳代)
- ・伏見区に引っ越してきたが，くわえたばこ・歩きたばこの人が多いのにあきれれる。禁止してほしい。(男, 50 歳代)
- ・近くの山にゴミが捨てられ，野焼きで黒煙が出ている時もある。資材置き場もあって汚い。(女, 50 歳代)
- ・歩道がきれいに拡幅整備されても，付近の商店が歩道に商品や看板，植木鉢，ゴミ箱などを置き，道を狭くしている。歩行者と自転車，自動車の接触を何度も見かける。美観は犯罪抑止力になっていると聞く。放置自転車も問題だが，各商店への罰則も必要だと思う。(女, 50 歳代)

## [主に関係機関・団体の連携の重要性について] 25 件

- 関係機関・団体の連携が重要との意見も寄せられている。
- 具体的には，相談窓口や被害者支援の連携・充実（8 件），企業との連携の必要性（7 件），社会的弱者への支援策（5 件），地域と行政との連携（3 件）などの意見がある。

### 〈意見例〉

- ・一般市民がいつ，犯罪に巻き込まれるかわからない時代になってきている。罪もない人が巻き込まれた時の支援など，行政など専門家の方や地域の取組を強化してほしい。(女, 40 歳代)
- ・区役所での困りごと相談よりも危機度は高いが，警察に届けるほどの事故や相談ごとでない場合の相談機関があればよいと思う。そんな機関があれば地域とも一体になり，防犯上も安心だ。(女, 50 歳代)
- ・市民に身近な役所（行政），市民に身近な警察署，市民に身近な消防署を望む。窓口で親身に対応してほしい。(男, 60 歳代)
- ・企業や団体単位での取組を進め，それらの団体に対して行政がバックアップするという方向がよいと思う。個人も，そのような企業・団体に関心を持てば，経済も動き出すようになるのではないかな。(女, 30 歳代)
- ・地域活動にたずさわる人は少ないのが現状だし，自分たちの生活で精一杯の人がほとんどだろう。普段自分たちが勤めている会社がそういった取組をしていくよう努力すれば，みんなの関心もそちらに向くのではないかな。(男, 30 歳代)
- ・啓発パンフレットや講習会，研修，体制の整備などより，以前にあった保健師の家庭訪問のような

血の通った対策が有効だと思う。(女, 60 歳代)

- ・高齢者にとっては市府民税等が高く、家賃も上がる一方なので、働くのが精一杯で、近所づきあいもままならない。行政のほうでなんらかの方法で、安全確認等をしてもらいたい。(女, 60 歳代)
- ・行政と自治会・町内会が効率的に、公正に結びつき、全体レベルで安心・安全について意識向上できるような体制を作るべきだ。(男, 60 歳代)
- ・安心は、防犯カメラを設置したからといってそれで万全ではない。地域と行政機関全ての連携が重要だ。(女, 60 歳代)
- ・地域の危険な場所のチェック、そしてその対策が大切だ。時々、ニュースなどで「事故が起こったが、柵はなかった」などと報道されている。(女, 50 歳代)

### [主に市をはじめとする行政への期待について] 24 件

- 市をはじめとする行政の役割に期待する意見も寄せられている。
- 具体的には、市民活動への支援 (6 件)、このアンケート結果を役立ててほしい (6 件)、広報に無駄が多い (5 件) のほか、啓発の重要性、事業整理と実効性のある安心安全対策の実施などの意見が寄せられている。

#### 〈意見例〉

- ・実際にあった事件、事例などを私たちに教えてほしい。そして、市だけでできることは限界があるため、私たちが自分たちで活動を実行できるような動機付けと、活動への後押しをお願いしたい。(女, 20 歳代)
- ・市職員による巡視、声かけ、あいさつ運動をすべきだ。予算がなくてもできることだ。(男, 30 歳代)
- ・家族単位で身を守ろうとするニーズが高い郊外と、単身世帯が多く誰にも頼れない中心部では、人々の描く安心安全の姿が大きく違うかもしれない。町なかでは、街に賑わいをつくるという方法が、お金をかけずにできるよい方法ではないか。(男, 30 歳代)
- ・行政主導で市民重視のまちづくりを推進すれば、市民も少しずつでもそれに追随するのではないか。市民ボランティア団体なども組織されていくのではないか。(女, 40 歳代)
- ・市民だけでなく、行政ももっと地域住民の目線で考えてもらいたい。この調査が適切に行政に活かされることを望む。(女, 50 歳代)
- ・せっかくのアンケートなので、真剣に回答した。結果を有効利用してください。(女, 60 歳代)
- ・広報に無駄が多い。回覧等が多すぎて、大事な情報が埋もれてしまうので、重要な情報だけにしてほしい。(女, 60 歳代)
- ・個々が安心安全に関心を持つよう、行政が啓発することが重要。また、みんなが関心をもてるよう、行政は工夫をこらす必要がある。(男, 60 歳代)
- ・市民から見ると、行政の事業は縦割りで、類似事業を複数の窓口で実施しているように感じる。安心安全対策も、もっと各担当課の事業を整理し実効性のあるものにしてほしい。地域ではひとつの自治会に、行政のいろいろな担当部署から動員がかかる。住民にとって本当に必要な対策を講じてほしい。(男, 50 歳代)

### [主に「安心安全」の実現について] 13 件

- 安心安全の確保や、防犯のまちづくりといった提案が寄せられている。

#### 〈意見例〉

- ・町並みの崩壊とともに地域の安心・安全も崩れていくように思う。古い町並みを残し、地域のよいところを残すよう努力してほしい。(男, 50 歳代)
- ・京都市は安全というイメージがあるが、周辺地域の防犯強化を望む。(女, 50 歳代)
- ・「防犯都市宣言」をしましょう。学生も多いので大きな盛り上がりが予想され、他の都市も連鎖的に

同調し、スケールの大きな運動になると思う。(男, 70 歳以上)

- ・「水と安全はただ」は遂に神話と化している。この課題に関しては市と市民が協力して取り組むことが必要だと思う。(女, 70 歳以上)

## [その他について] 58 件

- 以上のほか、医療・福祉 (9 件)、防犯カメラの設置 (6 件)、食の安全 (4 件)、コンピュータ犯罪 (3 件)、自然災害 (2 件) などの意見が寄せられている。

### 〈意見例〉

- ・福祉を充実し、安心して地域を守れる社会づくりを。(女, 20 歳代)
- ・身体の不自由な人や高齢者, 病人をかかえて大変な人の相談窓口や, 心のケアに取り組んでほしい。(女, 50 歳代)
- ・京都市には京大病院をはじめ大型の医療機関は十分すぎるほどあるが, 緊急医療体制が不備だ。市民が安心できる総合的な緊急医療体制の構築を望む。(男, 70 歳以上)
- ・一人暮らしへの対策が必要だ。介護・ヘルパーの内容に不満。近所同士が無関心すぎる。(女, 70 歳以上)
- ・通学路や路地裏に防犯カメラの設置を。(女, 30 歳代)
- ・弱者の安全を守るためには, 街頭カメラを設置するなど, 個人のプライバシー保護にもある程度制限をつけるのはやむをえない。(女, 50 歳代)
- ・今の世の中どこも安全とはいえない。パトロールと防犯カメラの設置は絶対に必要だ。(女, 60 歳代)
- ・安心・安全については, 特に「食」の安全が気になる。「身体」を構成している「食べ物」に対する考えが軽視されすぎているように感じる。食べ物から命をいただいて私たち人間が活かされているということ, 命の尊さを考え直す時期ではないだろうか。(女, 30 歳代)
- ・食の安全は, 自給率を上げて, 地産地消を伸ばさないと確保できない。消費者の教育をしなければいけない。(女, 50 歳代)
- ・コンピュータ・ウイルス犯罪に不安を持っている。個人情報やデータの流出, データ破壊などはやはりこわい。法の整備が不十分だ。(男, 30 歳代)
- ・子ども同士が携帯やメールで会話をしているが, 現在はインターネットで陰湿な, 人を傷つける行為が増えていることを, メディアを通して知らされるので不安だ。(女, 30 歳代)
- ・自然災害対策の徹底を。(女, 40 歳代)

## 次期京都市生活安全基本計画策定のためのアンケート調査

### ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から京都市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

京都市では、生活安全基本計画に基づき、「だれもが安心してくらせるまち」の実現を目指して、犯罪および事故を未然に防止するための取組（生活安全の取組）を推進しております。

この計画は、平成22年度で計画期間が終了することから、今後、次期計画の検討を行って参りたいと考えております。

そこで、市民の皆様から生活安全に関するご意見や考えなどを幅広くお聞きいただき、次期計画を検討するにあたっての基礎資料とするため、このアンケートを実施することと致しました。

何かとご多忙のこととは存じますが、このアンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、このアンケートは、京都市内にお住まいの20歳以上の方から、無作為に選んだ3,000人の皆様にご記入をお願いするものです。  
無記名方式でご回答いただくため、個人が特定されることはございません。また、ご回答をこのアンケート以外で使用することはありませんので、ご安心ください。



京都市長 門川 大作

### ご記入にあたってのお願い

- ・ 封筒のあて先となっている方ご本人がお答えください。外国人登録に通称名を登録されている方には、通称名を使用しましたのでご了承ください。
- ・ 調査票、返信用封筒には、お名前やご住所を記入いただく必要はございません。
- ・ このアンケートは全部で23問あります。問23以外は、用意してある答え（選択肢）の中から当てはまる番号を選び、○印を質問ごとの指定の数だけつけてください。
- ・ この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

京都市 文化市民局 市民生活部 地域づくり推進課  
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地  
電話：075-222-3049 / FAX：075-222-3042  
ホームページ [http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-2-2-0-0\\_2.html](http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-2-2-0-0_2.html)

ご記入いただきましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて  
**12月8日（火）までに** 投函をお願い致します。

この調査票は再生紙を使用しています



## 【日々の暮らしの中の安心・安全について】

### 問1 日々の暮らしを安心・安全で健やかに過ごすことは、多くの人々の願いです。

市民の皆さんが安心・安全を感じられる要因として、保健・医療・福祉の充実や、防犯、防災、交通安全、食の安全、環境問題への対策が整っていることなどが考えられます。

そうしたことを総合的にみて、京都の暮らしは安心で安全だと思われますか。（○は1つだけ）

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1 ほぼ安心で安全である   | 2 どちらかといえば安心で安全である |
| 3 安心で安全だとは思えない | 4 わからない            |

### 問2 日々の暮らしについて、安心で安全かどうかを判断される際に、特に重視される点は何ですか。（○はいくつでも）

- |                                    |                                    |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 1 健康や福祉に関すること                      | 2 犯罪や迷惑行為、事故への対策                   |
| 3 自然災害への対策                         | 4 食の安全に関すること                       |
| 5 環境汚染（大気、水質など）への対策                | 6 コンピュータで扱われる個人情報やコンピュータウイルスなどへの対策 |
| 7 子どもの育児や教育上の問題（いじめ、不登校など）への対策     | 8 雇用や失業などの問題への対策                   |
| 9 近隣とのトラブルやプライバシーの侵害など日常生活上の問題への対策 | 10 その他（ ）                          |

## 【犯罪や迷惑行為に関する安心・安全について】

### 問3 あなたやあなたの家族が犯罪にあう可能性について、どのようにお感じですか。

日常の行動範囲内（自宅周辺や、市内の通勤・通学、買物等で行く地域）で当てはまるものをお答えください。（○は1つだけ）

- |            |            |         |
|------------|------------|---------|
| 1 非常に高くなった | 2 高くなった    | 3 変わらない |
| 4 低くなった    | 5 非常に低くなった | 6 わからない |

次のページ  
問4へ

次のページ  
問5へ



問4 問3で「非常に高くなった」「高くなった」と答えた方へおたずねします。犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由はどれですか。(〇はいくつでも)

- 1 全国的に凶悪な事件が多発しているから
- 2 景気が悪くなったから
- 3 不審者が多くなったような気がするから
- 4 日常の行動範囲内で実際に犯罪が発生し、身近に不安を感じるから
- 5 街中に暗がりや見通しが悪い場所など死角が増えたから
- 6 地域社会の連帯感が希薄になったから
- 7 人々の規範意識やモラルが低下したから
- 8 人々の防犯意識が希薄になったから
- 9 犯罪が多様化、巧妙化してきたから(ネット犯罪、オレオレ詐欺等)
- 10 犯罪の増加に対し、警察の対応が追いついていないと思うから
- 11 その他( )

問5 犯罪や迷惑行為、事故に関して、あなたが日頃、特に不安に思われていることは何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 暴行、傷害などの生命・身体にかかわる凶悪犯罪
- 2 空き巣、ひったくりなどの犯罪
- 3 子どもをねらう犯罪
- 4 未成年による非行や犯罪
- 5 トムスティック・バイオレンス(配偶者などへの暴力)やストーカー行為などの犯罪
- 6 覚醒剤や大麻などの薬物問題
- 7 詐欺、悪質商法
- 8 いたずら電話、落書き
- 9 違法駐車、放置自転車
- 10 交通事故
- 11 火災
- 12 その他( )
- 13 特にない

問6 あなたやあなたの家族が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所はどこですか。(〇はいくつでも)

- 1 繁華街
- 2 駅
- 3 路上
- 4 電車や飛行機などの乗り物の中
- 5 エレベーター
- 6 駐車場
- 7 公園
- 8 自宅
- 9 インターネット空間
- 10 その他( )
- 11 特にない

問7 あなたやあなたの家族が犯罪にあわないために、日頃心がけていること、取り組んでいることは何でしょうか。(〇はいくつでも)

- 1 戸締り・鍵かけを必ずしている
- 2 鍵を二重にしたり、センサーライトを付けたりしている
- 3 防犯ガラス、防犯フィルムにしている
- 4 出かけるときは近所に声をかけている
- 5 夜間外出時は明かりをつけたままにしている
- 6 犬を飼っている
- 7 来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けないようにしている
- 8 自宅まわりに防犯カメラを設置している
- 9 警備会社と契約している
- 10 防犯グッズ(防犯ブザーなど)を携帯している
- 11 自転車にひったくり防止用網をかけている
- 12 危ない場所(暗い夜道など)には近づかないようにしている
- 13 子どもの送迎をしている(あなた自身が送迎してもらっている)
- 14 携帯電話やインターネットの使い方に気をつけている
- 15 犯罪に気をつけるよう家族で話し合っている
- 16 自治会のパトロールに参加している
- 17 その他( )
- 18 特にない

【事故に関する安心・安全について】

問8 まず、交通事故についておたずねします。あなたやあなたの家族が交通事故にあう可能性について、どのようにお感じですか。(〇は1つだけ)

- 1 以前より多くなった
- 2 変わらない
- 3 以前より少なくなった
- 4 わからない



問 9 あなたが特に不安を感じる交通事故とは、どのようなものでしょうか。  
(○は3 つまで)

- 1 自動車の信号無視など無謀な運転が原因の事故
- 2 バイクの信号無視など無謀な運転が原因の事故
- 3 自転車の信号無視など無謀な運転が原因の事故
- 4 歩行者の信号無視など無謀な行動が原因の事故
- 5 欠陥車や整備不良が原因の事故
- 6 ながら運転（化粧、食事、電話等）が原因の事故
- 7 飲酒運転が原因の事故
- 8 居眠り運転が原因の事故
- 9 高齢者の運転が原因の事故
- 10 若者の運転が原因の事故
- 11 その他（ ）

問 10 日常生活では、交通事故をはじめ、さまざまな事故が起こる恐れがあります。事故にあわないよう、日頃あなたが心がけていること、取り組んでいることは何でしょうか。  
(○はいくつでも)

- 1 スピードの出しすぎに注意する
- 2 運転中に横断者を見かけたら停車する
- 3 運転中は車間距離を保つ
- 4 ドライバーにはお酒を飲めない（出さない）
- 5 道路を横断するときは左右を確認する
- 6 子どもの手をつないで歩く
- 7 夜間に外出するときは反射器材などを付けたり、明るい色の服を着ている
- 8 かさを差したり、携帯電話をしないながら、自転車に乗らない
- 9 自転車の幼児用座席に子どもを乗せるときは、子どもにヘルメットをかぶらせている
- 10 自転車に乗るとき、「自転車及び歩行者専用」の標識がない場合、車道の左側を走行する
- 11 公園の遊具などの使い方に気をつけている
- 12 路上の段差や車道での転倒、エスカレーターの乗り方、エレベーターの指はさみに気をつけている
- 13 薬品・薬剤や電化製品などを使うときは、使用上の注意をよく読んでいる
- 14 子どもが小さい間は、誤飲や転倒、お風呂や水辺での事故、高いところからの落下に気をつけている
- 15 自宅内の安全点検をし、手すり設置や段差をなくすなどの改良をしている
- 16 自宅の寝室、台所、階段に火災報知器を設置している
- 17 その他（ ）
- 18 特になし

【犯罪・事故の被害者支援について】

問 11 あなたのまわりで犯罪や事故の被害者となった人はいいますか。(○は1 つだけ)

- 1 いる
- 2 いない

問 12 犯罪・事故の被害者やその家族に対しては、どのような支援が特に必要だと思いますか。  
(○は3 つまで)

- 1 親族や友人・知人からの精神的な面での支援
- 2 身の回りの世話など周囲の人からの支援
- 3 職場関係者（上司や同僚など）からの支援
- 4 ソーシャルワーカーやカウンセラーからの精神面でのケア
- 5 医療関係者（医師や看護師など）からの支援
- 6 事件・事故に関する警察からの情報提供
- 7 裁判に関する手続きについての弁護士からの支援
- 8 自助グループ（同じような体験をした被害者同士で形成されるグループ）からの支援
- 9 被害者支援団体からの支援
- 10 国・自治体からの支援
- 11 報道機関からのプライバシーの保護に関するアドバイス
- 12 わからない

【地域による防犯・事故防止について】

問 13 あなたは、どの程度近所の方とお付き合いがありますか。(○は1 つだけ)

- 1 何でも相談できる深い付き合いである
- 2 簡単な挨拶をする程度の付き合いである
- 3 ほとんど付き合いはない
- 4 その他（ ）

問 14 あなたは、緊急時に近所の方と協力し合えると思いますか。(○は1 つだけ)

- 1 協力し合えると思う
- 2 むずかしいと思う
- 3 わからない



問 15 地域（自治会・町内会など）でさまざまな防犯活動や事故防止の活動が行われていますが、現在行われていないものも含めて挙げてみました。  
 あなたが、地域社会にとって大切だと思うものはどれでしょうか。（〇はいくつでも）

- 1 青色防犯パトロール（認可された団体が単に青色回転灯を取り付けて市内を巡回）の実施
- 2 子ども110番のいえ（万が一のときに子どもなどが駆け込める家）マップの作成やウォークラリーなどの実践活動
- 3 登下校時のパトロール実施や子ども見守り活動の充実
- 4 夜間パトロールの実施
- 5 危険箇所の点検と安心安全マップ作り
- 6 学校へ入学した児童への防犯ブザー（ホイッスル）の配布
- 7 学校での防犯教室・防災訓練の開催
- 8 学校での自転車利用マナーに関する啓発の実施
- 9 救命・救急講習会の実施
- 10 防火・防災訓練の実施
- 11 地域での防災行動計画づくり
- 12 子どもや高齢者の交通安全教室の実施
- 13 ひとり暮らしの高齢者等に対する振り込み詐欺や悪質商法の被害防止教室の実施
- 14 認知症あんしんサポーターなどによる高齢者による振り込み詐欺ややさしい店づくり、商店街づくり
- 15 不法投棄をなくす活動、環境美化活動の実施
- 16 その他（ ）

問 16 あなたは、地域（自治会・町内会など）の人々が防犯・事故防止面で協力する必要性を感じますか。（〇は1つだけ）

- 1 感じる
- 2 どちらかといえば感じる
- 3 どちらかといえば感じない
- 4 感じない
- 5 わからない

問 17 問 15 で大切だと答えたものに関して、あなたは参加したいと思いますか。（〇は1つだけ）

- 1 すでに参加している
  - 2 機会があれば参加したい
  - 3 参加してもよい
  - 4 参加しようとは思わない
  - 5 参加できない
  - 6 わからない
- 次のページ  
問 18へ

問 18 問 17で「機会があれば参加したい」に参加してもよいと答えた方におたずねします。  
 実際にどの程度ならば参加できると思いますか。（〇は1つだけ）

- 1 毎日でも、可能な限り参加したい
- 2 休日だけでよければ、参加してもよい
- 3 月に1～2回程度ならば、参加してもよい
- 4 年に1～2回程度ならば、参加してもよい

【地域活動全般について】

問 19 地域（自治会・町内会など）で、防犯・事故防止に限らず、今後取組を特に強化するべきと思う分野は何でしょうか。（〇は3つまで）

- 1 防犯、迷惑行為の追放
- 2 防災・防火の取組（消防訓練など）
- 3 交通安全の取組
- 4 子どもの見守り活動
- 5 青少年の健全育成
- 6 ごみ減量・リサイクル運動
- 7 まちの美化運動（ゴミ出しのルール形成・運守、落書き消し・ゴミ拾いなど）
- 8 美しいまち並み形成運動やガーデニング・緑化などに対する顕彰
- 9 高齢者福祉活動（敬老の集い、訪問活動、安否確認など）
- 10 親睦活動（運動会、夏祭り、地蔵盆など）
- 11 その他（ ）

問 20 地域（自治会・町内会など）の活動を強化するためには何をするのが特に有効でしょうか。（〇は2つまで）

- 1 地域活動に積極的に参加する人を増やす
- 2 地域にある企業や会社、大学などが地域貢献をする
- 3 地域活動に対し、行政が専門家派遣などの支援を行う
- 4 わからない
- 5 その他（ ）

【安心・安全を実現するための総合的な取組について】

問 21 犯罪や迷惑行為、事故などの問題に関して、一層の安心・安全を実現するためには、どのようなことが必要だと思われませんか。（〇はいくつでも）

- 1 警察や消防署・市役所・区役所などの行政や関係機関の連携による対策の強化
- 2 何かあれば、いつでも身近に相談できたり、情報を入手できる、わかりやすい行政の窓口
- 3 町内や通学路における防犯や事故防止について、近所で話し合いをしたり、近隣のパトロールを行うなどの地域の取組
- 4 一人一人の市民が、日頃から防犯や事故防止に対する関心を持つ
- 5 その他（ ）



同 22 犯罪や迷惑行為、事故などの問題に関して、市に特に取り組んでほしいと思うことは何でしょうか。(〇は2つまで)

- 1 市民の防犯・事故防止意識を高めるため、パンフレットの発行や、防犯教室・交通安全教室等の充実をはかる
- 2 地域で防犯・事故防止活動を推進してもらうリーダーを増やすため、講習や研修を充実する
- 3 正しい交通ルールとマナーの実践を呼びかけるとともに、違法駐車等の指導、放置自転車の撤去などにより、歩行者の安全を確保する
- 4 生活安全推進活動に貢献する市民や団体の功績をたたえて顕彰したり、啓発活動に必要な物品提供を充実するなど、地域やボランティア団体による防犯・交通安全活動などを支援する
- 5 公園の植栽の剪定、照明灯増設や公衆トイレの非常用プザー、街路灯の設置を進めるなど、公共空間や道路について犯罪や事故が発生しにくい環境づくりを推進する
- 6 乳幼児を「不慮の事故」から守るための相談窓口や情報提供を充実したり、保育所、幼稚園、学校での交通安全教室の開催、ひとり暮らしの高齢者や重度の身体障害のある人に対する緊急通報システムの充実など、さまざまな年齢層、さまざまな立場の市民に応じた取組を進める
- 7 犯罪や事故発生時など、いざというときのための情報収集体制や通報システムなど緊急体制を整備する
- 8 地域住民や観光旅行者が安心して生活し、また滞在することができるよう、犯罪や事故に巻き込まれた被害者やその家族のための相談窓口の設置、受けた心の傷に対するケアなどの支援体制を確立する
- 9 犯罪の抑止効果が期待でき、犯罪発生時にも活用できるよう、街路に防犯カメラなどを設置する
- 10 その他 ( )

同 23 「日常生活における安心・安全」についてご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書き下さい。

---



---



---



---



---

【最後に、あなたご自身についておたずねします】

同 A あなたの性別をお答えください。

- 1 男
- 2 女

同 イ あなたの年齢をお答えください。(平成 21 年 11 月 1 日現在)

- 1 20 歳代
- 2 30 歳代
- 3 40 歳代
- 4 50 歳代
- 5 60 歳代
- 6 70 歳以上

同 ウ あなたの職業をお答えください。

- 1 自営業 (家族従業者を含む)・自由業
- 2 会社員・公務員など (正社員)
- 3 正社員以外のパート、アルバイトなど
- 4 専業主婦・専業主夫
- 5 上記 4 を除く無職
- 6 学生
- 7 その他 ( )

同 エ あなたの家族構成をお答えください。

- 1 単身
- 2 夫婦 2 人
- 3 2 世代 → あなたは (ア. 親 1. 子)
- 4 3 世代 → あなたは (ア. 親 1. 子 ウ. 孫)
- 5 その他 ( )

同 オ あなたはどちらの区にお住まいですか。

- 1 北区
- 2 上京区
- 3 左京区
- 4 中京区
- 5 東山区
- 6 山科区
- 7 下京区
- 8 南区
- 9 右京区
- 10 西京区 (洛西)
- 11 西京区 (洛西以外)
- 12 伏見区 (深草)
- 13 伏見区 (醍醐)
- 14 伏見区 (深草・醍醐以外)

同 カ 現在の場所 (おおむね小学校区の範囲) にお住まいになって何年ですか。

- 1 1 年未満
- 2 1 年以上～5 年未満
- 3 5 年以上～10 年未満
- 4 10 年以上～20 年未満
- 5 20 年以上

ご協力ありがとうございました

次期京都市生活安全基本計画策定のためのアンケート調査報告書

平成22年4月

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

京都市文化市民局市民生活部地域づくり推進課

電 話 075-222-3049

FAX 075-222-3042